

ソフトウェア配布リファレンス

# Novell. ZENworks® 10 Configuration Management SP3

10.3

2010年3月30日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2010 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	9
<b>1 基本概念</b>	<b>11</b>
1.1 バンドル	11
1.2 デバイスへのバンドルの割り当てとユーザへの割り当て	12
1.3 パッケージ作成時の考慮事項	12
1.4 従属バンドル	13
1.4.1 主アプリケーションと依存先アプリケーション	14
1.4.2 バンドルチェーン	14
1.4.3 従属関係を持つバンドルの配布、インストール、および起動	16
1.5 内容	17
1.5.1 コンテンツの複製	17
1.5.2 コンテンツ配信	17
<b>2 バンドルの作成</b>	<b>19</b>
2.1 ディレクティブバンドルの作成	19
2.2 ファイルバンドルの作成	24
2.3 イメージングバンドルの作成	33
2.4 Windows バンドルの作成	33
2.5 zman コマンドラインユーティリティの使用によるバンドルの作成	42
2.5.1 コンテンツまたは別のバンドルへの従属性のないバンドルの作成	42
2.5.2 コンテンツや別のバンドルへの従属性のあるバンドルの作成	44
2.5.3 zman バンドル XML ファイル形式の理解	45
<b>3 バンドルの管理</b>	<b>49</b>
3.1 バンドルの作成	49
3.2 既存バンドルのデバイスへの割り当て	50
3.3 既存バンドルのユーザへの割り当て	53
3.4 バンドルのグループへの追加	56
3.5 バンドルの改名、コピー、または移動	58
3.6 バンドルのシステム要件の追加	59
3.6.1 フィルタ条件	59
3.6.2 フィルタロジック	64
3.7 バンドルのシステム要件のコピー	65
3.8 バンドル設定の管理	66
3.9 バンドル変数の管理	67
3.10 バンドルの削除	68
3.11 バンドルのバージョンのカウントアップ	68
3.11.1 [アクション] メニューの使用	68
3.11.2 バンドルの編集	69
3.12 バンドルのインストール	69
3.13 バンドルの起動	70
3.14 バンドルのコンテンツサーバへのコピー	71
3.15 バンドルの展開防止	74
3.16 バンドル展開の有効化	74
3.17 バンドルのアンインストールを有効にする	74

3.18	バンドルのアンインストール	76
3.18.1	バンドル	77
3.18.2	デバイス	77
3.19	アクションセットオプションの変更	78
3.19.1	インストールアクションセットのオプション	78
3.19.2	起動アクションセットのオプション	80
3.19.3	アンインストールアクションセットのオプション	81
3.19.4	停止アクションセットのオプション	82
3.20	管理対象デバイスでのバンドル動作の表示	83
3.21	事前定義されたレポートの表示	83
<b>4</b>	<b>バンドルグループの管理</b>	<b>85</b>
4.1	バンドルグループの作成	85
4.2	バンドルグループのリネームまたは移動	86
4.3	バンドルグループのシステム要件のコピー	87
4.4	バンドルグループの削除	87
4.5	バンドルグループのデバイスへの割り当て	87
4.6	バンドルグループのユーザへの割り当て	90
4.7	バンドルをグループに追加する	92
4.8	バンドルグループをコンテンツサーバにコピーする	92
<b>5</b>	<b>フォルダの管理</b>	<b>95</b>
5.1	フォルダの作成	95
5.2	フォルダの名前変更または移動	96
5.3	フォルダの削除	96
<b>6</b>	<b>ZENworks Adaptive Agent によるバンドルの管理</b>	<b>97</b>
6.1	バンドルとアプリケーション	97
6.2	ユーザ割り当てのバンドルとデバイス割り当てのバンドル	98
6.3	バンドルへのアクセス	98
6.3.1	ZENworks Window	98
6.3.2	ZENworks Explorer	101
6.3.3	ZENworks Icon	102
6.4	バンドルアイコンの理解	103
6.5	バンドルの起動	104
6.6	バンドルダウンロードの延期	105
6.7	バンドルの検証	105
6.8	バンドルのプロパティの表示	105
6.9	バンドルのアンインストール	106
<b>A</b>	<b>パラメータのインストール、アンインストール、および修復</b>	<b>107</b>
A.1	パラメータのインストール	107
A.1.1	オプションの再起動	109
A.1.2	表示オプション	109
A.1.3	インストールオプション	110
A.1.4	コマンドラインパラメータ	110
A.2	パラメータのアンインストール	110
A.2.1	オプションの再起動	111
A.2.2	表示オプション	112
A.2.3	コマンドラインパラメータ	112

A.3	パラメータの修復	112
A.3.1	オプションの再起動	113
A.3.2	表示オプション	114
A.3.3	修復オプション	114
A.3.4	コマンドラインパラメータ	115
<b>B</b>	<b>認証フック</b>	<b>117</b>
<b>C</b>	<b>Novell File Upload 拡張機能</b>	<b>119</b>
C.1	Novell File Upload 拡張機能のインストール	119
C.1.1	Mozilla Firefox の場合	119
C.1.2	Microsoft Internet Explorer の場合	120
C.2	Novell File Upload 拡張機能の再インストール	120
<b>D</b>	<b>バンドルのスケジュールのタイプ</b>	<b>123</b>
D.1	特定の日付	123
D.2	イベント	124
D.3	今すぐ	125
D.4	繰り返し	125
<b>E</b>	<b>アクション</b>	<b>129</b>
E.1	アクション - パーソナリティの適用	130
E.2	アクション - ディレクトリのコピー	132
E.3	アクション - ファイルのコピー	135
E.4	アクション - ディレクトリの作成 / 削除	137
E.5	アクション - 遅延	139
E.6	アクション - メッセージの表示	141
E.7	アクション - ファイルの配布	143
E.8	アクション - INI ファイルの編集	143
E.8.1	ファイル名	143
E.8.2	エンコーディング	143
E.8.3	ファイルが存在しない場合は、作成	144
E.8.4	INI の変更	144
E.8.5	詳細オプション	146
E.9	アクション - テキストファイルの編集	147
E.10	アクション - プロセスの終了	150
E.11	アクション - ファイルの削除	151
E.12	アクション - バンドルのインストール	152
E.13	アクション - ディレクトリのインストール	153
E.14	アクション - ファイルのインストール	156
E.15	アクション - MSI のインストール	160
E.16	アクション - MSP のインストール	164
E.17	アクション - ネットワーク MSI のインストール	166
E.18	アクション - バンドルの起動	169
E.19	アクション - Java アプリケーションの起動	170
E.20	アクション - URL の起動	172
E.21	アクション - 実行可能ファイルの起動	173
E.21.1	一般	174
E.21.2	Advanced (詳細)	175
E.21.3	起動オプション	177

E.22	アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動	178
E.22.1	ICA セッション	178
E.22.2	RDP セッション	180
E.23	アクション - ユーザにプロンプトを表示	181
E.24	アクション - 再起動 / シャットダウン	183
E.25	アクション - レジストリの編集	186
E.25.1	レジストリツリー	186
E.25.2	詳細設定	190
E.26	アクション - スクリプト実行	192
E.26.1	管理対象デバイスでファイルを指定	192
E.26.2	自分のスクリプトを定義	194
E.26.3	このデバイスから選択	196
E.27	アクション - サービスの開始 / 停止	198
E.28	アクション - パーソナリティの保存	200
E.29	アクション - アプリケーションの終了	202
E.30	アクション - アプリケーションプロンプトの終了	204
E.31	アクション - インストールアクションを元に戻す	205
E.32	アクション - バンドルのアンインストール	206
E.33	アクション - バンドルの検証	207
E.34	アクション - インストールアクションの検証	208
<b>F</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>209</b>
<b>G</b>	<b>ベストプラクティス</b>	<b>215</b>
G.1	Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューの外観を変更する	215
G.2	アプリケーションを Windows Vista の [スタート] メニューに入れる	215
G.3	バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てる	215
G.4	ZENworks Explorer フォルダの命名規則	216
<b>H</b>	<b>マクロ</b>	<b>217</b>
H.1	Windows マクロ	217
H.2	ログインスクリプトマクロ	220
<b>I</b>	<b>マニュアルの更新</b>	<b>221</b>
I.1	2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)	221



# このガイドについて

この『ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス』では、ご使用の ZENworks® 10 Configuration Management SP3 システムでソフトウェア配布を効率的に管理するための方法について、その理論および具体的なタスクについて説明しています。このガイドは、次の章で構成されています。

- ◆ 11 ページの第 1 章「基本概念」
- ◆ 19 ページの第 2 章「バンドルの作成」
- ◆ 49 ページの第 3 章「バンドルの管理」
- ◆ 85 ページの第 4 章「バンドルグループの管理」
- ◆ 95 ページの第 5 章「フォルダの管理」
- ◆ 97 ページの第 6 章「ZENworks Adaptive Agent によるバンドルの管理」
- ◆ 107 ページの付録 A「パラメータのインストール、アンインストール、および修復」
- ◆ 117 ページの付録 B「認証フック」
- ◆ 119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」
- ◆ 123 ページの付録 D「バンドルのスケジュールのタイプ」
- ◆ 129 ページの付録 E「アクション」
- ◆ 209 ページの付録 F「トラブルシューティング」
- ◆ 215 ページの付録 G「ベストプラクティス」
- ◆ 217 ページの付録 H「マクロ」
- ◆ 221 ページの付録 I「マニュアルの更新」

## 対象読者

このガイドは、ZENworks Configuration Management 管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Configuration Management SP3 マニュアル \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/\)](http://www.novell.com/documentation/zcm10/) を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (/) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

# 基本概念

# 1

Novell® ZENworks® Configuration Management では、非常に柔軟にソフトウェアを配布できます。アプリケーションおよび個別ファイルの配布、または単にデバイス上の既存のファイルへの変更を行うことができます。

次のセクションは、バンドルの作成および管理を開始するにあたって重要な追加の情報を含みます。

- ◆ [11 ページのセクション 1.1 「バンドル」](#)
- ◆ [12 ページのセクション 1.2 「デバイスへのバンドルの割り当てとユーザへの割り当て」](#)
- ◆ [12 ページのセクション 1.3 「パッケージ作成時の考慮事項」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 1.4 「従属バンドル」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 1.5 「内容」](#)

## 1.1 バンドル

ソフトウェアは、バンドルを使用することによって配布されます。バンドルは、すべてのファイル、構成設定、インストール指示などから構成され、デバイス上のアプリケーションまたはファイルを展開および管理する必要があります。作成できるバンドルには 4 つのタイプがあります。

- ◆ **ディレクティブバンドル** : 1 つまたは複数のアクションをデバイスで実行します。たとえば、ディレクティブバンドルを使用して、**Windows\*INI** ファイルまたはテキストファイルを編集できます。スクリプトの実行、サービスの開始または停止、ファイルの削除ができます。さらに、バンドルには他のさまざまなアクションの作成、およびパーソナリティの保存やパーソナリティの適用などのパーソナリティアクションの作成が含まれます。
- ◆ **ファイルバンドル** : ファイルまたはディレクトリをデバイスにコピーまたはインストールします。たとえば、ファイルバンドルを使用して、設定ファイルまたはデータファイルを含めることができます。ファイルバンドルは、**Windows** バンドルの一部ではないファイルを配布するのに便利です。
- ◆ **イメージングバンドル** : オペレーティングシステムのブート前に操作を実行します。さまざまなイメージングバンドルのタイプを使用して、1 つまたは複数のデバイスにイメージをインストールしたり、イメージングバッシュプロンプトから発行できるコマンドが含まれている **ZENworks** スクリプトを実行できます。
- ◆ **Windows バンドル** : **Microsoft\* Windows Installer (MSI)** パッケージ、**Microsoft Windows Software Patch (MSP)** パッケージ、シンクライアントアプリケーション、またはその他の **Windows** ベースのアプリケーションを、**Windows** デバイスに配布します。

バンドルに含まれているソフトウェアは、**ZENworks** サーバリポジトリにアップロードされます。これにより、**ZENworks** サーバおよび **ZENworks Adaptive Agent** が、他のネットワーク場所にアクセスする必要なくソフトウェアを配布することができます。

ソフトウェアバンドルを作成するには、**ZENworks** コントロールセンターの新規バンドルの作成ウィザードを使用するか、**zman** コマンドラインユーティリティを使用します。**ZENworks** コントロールセンターを使用したバンドル作成の詳細については、[19 ページ](#)の

第2章「バンドルの作成」を参照してください。また、zman コマンドラインユーティリティを使用したバンドル作成については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ZENworks コマンドラインユーティリティ」を参照してください。

このガイドの各セクションでは、ご使用の ZENworks システムでのソフトウェア配布を効率的に管理するために役立つ、概念上の情報とタスクベースの情報を提供します。オンラインヘルプシステムを使用して、バンドルの作成に関する情報を得ることもできます。

## 1.2 デバイスへのバンドルの割り当てとユーザへの割り当て

バンドルはユーザとデバイスの両方に割り当てることができます。2つの割り当て方法には、注意事項に違いがあります。ユーザにバンドルを割り当てた場合は、ユーザがログオンするデバイスに関係なく、割り当てられたすべてのユーザがバンドルを使用できます。デバイスにバンドルを割り当てた場合は、割り当てられたデバイスにログオンしたすべてのユーザがバンドルを使用できます。

## 1.3 パッケージ作成時の考慮事項

ZENworks Configuration Management によってバンドルのパッケージが扱われる方法に関連して、バンドルを作成する際には次の点に注意してください。

- ◆ **パッケージ作成に必要な時間**：大規模な MSI バンドルや MSP バンドルのパッケージを作成する場合は、ご使用の管理ゾーンにある ZENworks コンテンツサーバ (ZENworks サーバおよびコンテンツ配布ポイント) で使用できるまでに数時間かかることがあります。

大きなアプリケーションファイルが圧縮および暗号化されてより小さなバンドルになります。この結果、伝送時の帯域幅が縮小され、伝送時およびコンテンツサーバ上でのセキュリティが向上されます。暗号化されたバンドルは、コンテンツサーバから削除できず、不正な使用もできません。

- ◆ **パッケージ作成に必要なスペース**：コンテンツを含んだバンドルを作成する場合は、オリジナルファイルのディスクスペースを合計した2倍までの一時ディスクスペースが必要です。バンドル作成プロセスにより、オリジナルファイルのコピーがローカルマシンから ZENworks コンテンツサーバ上の一時ディレクトリにアップロードされます。次に、これらのファイルが暗号化されて、圧縮されて ZENworks コンテンツファイルとしてパッケージ化されます。アップロードされたオリジナルファイルは、ZENworks コンテンツファイルの作成が終わると、自動的に削除されます。

バンドルを作成するために ZENworks コントロールセンターを使用している場合、何らかの理由のために正しくログアウトしなかった場合 (新規バンドルの作成ウィザードが完了する前にブラウザを閉じたり、別の場所を参照したり、使用しているマシンが停止するなど)、前述した一時ディレクトリは、セッションタイムアウト (デフォルトでは 30 分) に達した後で自動的に消去されます。

処理中に ZENworks サーバが停止するなどの一部の状況では、バンドル作成プロセスでこれらの一時ファイルを削除できません。これらの一時ファイルは、必要に応じて手動で削除できます。

一時ファイルは、オペレーティングシステムとバンドルの作成に使用するユーティリティに従い、次のディレクトリに配置されます。

表 1-1 Windows の場合の一時ファイルの場所

バンドルの作成に使用するユーティリティ	一時ファイルの場所
ZENworks コントロールセンター	zenworks_home\share\tomcat\temp
zman ( コマンドラインユーティリティ )	zenworks_home\work\content-repo\tmp
ZENworks Migration Utility	zenworks_home\work\collection\datamodel

表 1-2 Linux の場合の一時ファイルの場所

バンドルの作成に使用するユーティリティ	一時ファイルの場所
ZENworks コントロールセンター	/opt/novell/zenworks/share/tomcat/temp/
zman ( コマンドラインユーティリティ )	/var/opt/novell/zenworks/content-repo/tmp/
ZENworks Migration Utility	/var/opt/novell/zenworks/collection/datamodel/

## 1.4 従属バンドル

バンドルについて次のアクションを作成すると、バンドルの従属関係が作成されます。

- ◆ [アクション - バンドルのインストール](#)
- ◆ [アクション - バンドルの起動](#)
- ◆ [アクション - バンドルのアンインストール](#)
- ◆ [アクション - バンドルの検証](#)

バンドルの [従属バンドル] ツリーには、バンドルのチェーン情報、および各従属が存在するアクションセットが表示されます。ZENworks コントロールセンターに [従属バンドル] ツリーを表示するには、[バンドル] タブをクリックし、従属バンドルを持つバンドルを1つクリックしてから、[概要] タブの [バンドル従属の表示] リンク ( [従属バンドル] 行 ) をクリックします。バンドル従属関係を持たないバンドルを選択した場合は、[なし] が [バンドル従属の表示] に代わって表示されます。

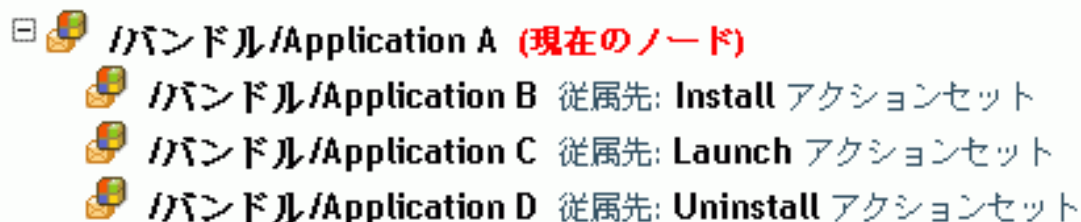
詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [14 ページのセクション 1.4.1 「主アプリケーションと依存先アプリケーション」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 1.4.2 「バンドルチェーン」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 1.4.3 「従属関係を持つバンドルの配布、インストール、および起動」](#)

## 1.4.1 主アプリケーションと依存先アプリケーション

バンドルの従属を処理する場合、主バンドルとは、従属を設定するバンドルです。従属として定義されるバンドルは、依存バンドルと呼ばれます。次の図は、この関係を示しています。アプリケーション A が主バンドルで、アプリケーション B、C、および D が依存バンドルです。

図 1-1 従属バンドルツリー



主バンドルは、前の例に示すように、依存バンドルを 1 つ持つこともあれば、複数の依存アプリケーションを持つこともあります。

次の図に示すように、1 つのバンドルが主バンドルと依存バンドルの両方になることもできます。アプリケーション A が主バンドルで、アプリケーション B、B1、B2、C、および D が依存バンドルです。

図 1-2 従属バンドルツリー

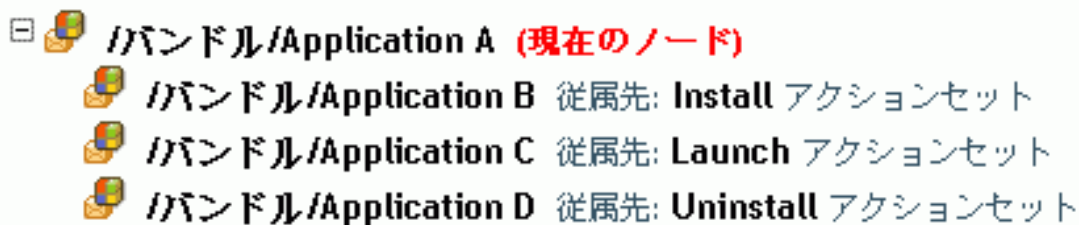


前の例で、アプリケーション B はアプリケーション A の依存バンドルの 1 つです。同時に、アプリケーション B はアプリケーション B1 およびアプリケーション B2 という 2 つのバンドルに対する従属も持っています。

## 1.4.2 バンドルチェーン

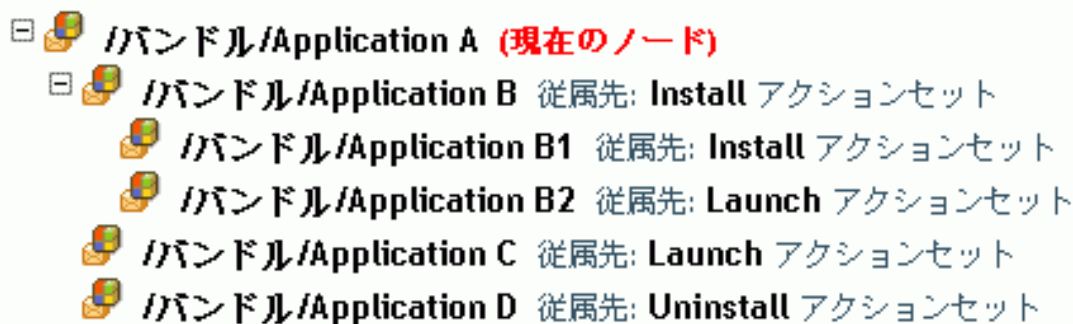
バンドルチェーンとは、従属によってリンクされた 2 つ以上のバンドルです。最も簡単な形式では、次の図に示すように、アプリケーションチェーンは 2 つのレベルで構成されます。

図 1-3 従属バンドルツリー



ただし、バンドルの従属をネストした場合、バンドルチェーンは拡大して多くのレベルを含むことができます。次の例では、Application A は Application B に依存しています。Application B はさらに、Application B1 と Application B2 に依存しています。その結果、Application A を実行するには、Application C と D のほかに、3つのバンドル (B、B1、B2) がすべて存在しなければなりません。

図 1-4 従属バンドルツリー



場合によっては、次の例のように、1つのバンドルが複数のバンドルチェーンに属していることがあります。アプリケーション D は、アプリケーション A とアプリケーション E の両方に対する依存アプリケーションです。





### 1.4.3 従属関係を持つバンドルの配布、インストール、および起動

バンドルの従属を設定する場合は、次の点に注意する必要があります。

**バンドルの割り当て:** 依存バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てる必要はありません。ただし、プライマリバンドルが適切に機能するためには、1つ以上のデバイスまたはユーザに割り当てられている必要があります。

**配布とインストール:** 依存バンドルがユーザのワークステーションにまだ配布またはインストールされていない場合は、ユーザがバンドルを起動またはインストールした時点で、ZENworks Adaptive Agent により依存バンドルが配布およびインストールされます。依存バンドルが更新されたか、配布またはインストールに失敗した場合を除き、ZENworks Adaptive Agent が依存バンドルを配布するのは1回のみです。ZENworks Adaptive Agent が依存バンドルを配布またはインストールできない場合(たとえば、ユーザのワークステーションが依存バンドルのシステム要件を満たしていない場合など)、主バンドルは起動またはインストールされません。

**アドオンイメージによる配布:** イメージアドオンによってバンドルを配布する場合、その依存バンドルをもう1つのイメージアドオンとして含める必要があります。依存バンドルを含めないと、主バンドルの配布に失敗します。

**切断されているワークステーションへの配布:** 接続解除されたワークステーションの場合、接続解除状態になる前に、バンドルをワークステーションに強制キャッシュする必要があります。バンドルをワークステーションにキャッシュした後で依存バンドルを変更した場合は、バンドルの再キャッシュを強制的に実行するために、主バンドルのバージョン番号を更新する必要があります。

**起動:** ZENworks Adaptive Agent は、バンドルが起動されるたびに、依存バンドルに定義されているすべての起動処理(ほかのアクションなど)を実行します。

**再起動/シャットダウン:** 依存するバンドルに再起動/シャットダウンアクションがないことを確認します。

**従属関係を更新するためのバンドルの再展開** コンテンツサーバにすでに複製されているバンドルの従属関係を変更する場合、バンドルを再展開する必要があります。これにより、バンドルで必要になるすべての従属関係が各コンテンツサーバにもたらされます。

[バンドル] タブからバンドルを再展開するには、詳細を表示するバンドルを見つけてクリックし、[コンテンツサーバ] タブをクリックします。[プライマリサーバ複製ステータス] リストでプライマリサーバの横のチェックボックスをオンにし、[対象項目] をクリックしてバンドルをサーバに複製します。必要に応じて、サテライトデバイスについてこの手順を繰り返してください。

[デバイス] タブからバンドルを再展開するには、詳細を表示する適切なデバイスを見つけてクリックし、[コンテンツ] タブをクリックします。[複製設定] リストでバンドルの横のチェックボックスをオンに、[対象項目] をクリックしてバンドルを複製します。

バンドルが、[コンテンツの複製] 設定に従って再展開されます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「コンテンツの複製」を参照してください。



## 1.5 内容

コンテンツを含むバンドルを作成する場合は、コンテンツがコンテンツサーバ (ZENworks サーバまたはコンテンツ配布ポイント) にコピーされ、他のコンテンツサーバに複製されてから管理デバイスに配布されます。

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [17 ページのセクション 1.5.1 「コンテンツの複製」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 1.5.2 「コンテンツ配信」](#)

### 1.5.1 コンテンツの複製

[コンテンツの複製] では、ZENworks (プライマリ) サーバおよびコンテンツ配布ポイントで、コンテンツ (バンドルおよびポリシーファイル) が更新される頻度を決定できません。コンテンツをホストするという役割で説明される場合、ZENworks サーバとコンテンツ配布ポイントは合わせて、コンテンツサーバとしてみなされます。

コンテンツを含むバンドルまたはポリシーが管理ゾーンに追加されると、ZENworks データベースは追加されたコンテンツを反映するために更新されます。コンテンツサーバには、定期的に ZENworks データベースを読み込み、新しいコンテンツを発見する役割があります。コンテンツがない各コンテンツサーバは、コンテンツがあるコンテンツサーバからコンテンツを取得します。

コンテンツが管理ゾーンから削除されている場合、各コンテンツサーバでも、定期的な更新の間に古いコンテンツが削除されます。

詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[コンテンツの複製](#)」を参照してください。

### 1.5.2 コンテンツ配信

コンテンツ配信または配布は、コンテンツサーバ (ZENworks サーバまたはコンテンツ配布ポイント) から管理対象デバイスへのバンドルおよびポリシーのコンテンツの転送プロセスを示します。

コンテンツの管理対象デバイスへの配信方法を決定するのに使用できる設定は数多くあります。次の操作を行えます。

- ◆ どのコンテンツサーバから管理対象デバイスがコンテンツをダウンロードするかを決定する最近接サーバルールを設定します。
- ◆ 管理対象デバイスによってコンテンツをダウンロードできない場合は、配信停止日として参照される時間をスケジュールします。
- ◆ 管理対象デバイスがダウンロードする新しいコンテンツを検索する頻度を決定します。

これらのタスクの実行については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[コンテンツ配信](#)」を参照してください。



# バンドルの作成

バンドルは、すべてのファイル、構成設定、インストール指示などから構成され、デバイス上のアプリケーションまたはファイルを展開および管理する必要があります。

Novell® ZENworks® Configuration Management では、ZENworks コントロールセンターを使用するか、zman コマンドラインユーティリティを使用してバンドルを作成できます。

次のセクションには、ZENworks コントロールセンターを使用してバンドルを作成する場合のステップごとの手順を示してあります。

- ◆ [19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)
- ◆ [24 ページのセクション 2.2 「ファイルバンドルの作成」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.3 「イメージングバンドルの作成」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.4 「Windows バンドルの作成」](#)

次のセクションでは、zman コマンドラインユーティリティを使用してバンドルを作成する方法を説明します。

- ◆ [42 ページのセクション 2.5 「zman コマンドラインユーティリティの使用によるバンドルの作成」](#)

## 2.1 ディレクティブバンドルの作成

ディレクティブバンドルを使用すると、プラットフォームに関係なく、1つ以上のデバイスで1つ以上のアクションを実行できます。たとえば、ディレクティブバンドルを使用して、Windows INI ファイルまたはテキストファイルを編集できます。スクリプトの実行、サービスの開始または停止、ファイルの削除などができます。さらに、バンドルには他のさまざまなアクション、およびパーソナリティの保存やパーソナリティの適用などのパーソナリティアクションが含まれます。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、バンドルを作成できます。ZENworks コントロールセンターを使用してのバンドルの作成手順について、次に説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「バンドルコマンド」を参照してください。

ディレクティブバンドルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[新規] メニューをクリックし、次に [バンドル] をクリックして [バンドルタイプの選択] ページを表示します。

新しいバンドルの作成  
ステップ 1: バンドルタイプの選択

オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。

新しいバンドルタイプ:

- Windowsバンドル
- イメージングバンドル
- ディレクティブバンドル
- ファイルバンドル

説明:  
ディレクティブバンドル - プラットフォームに関わらず、いくつかの管理対象デバイスに一連のタスクを実行するバンドルを作成するには、このオプションを選択します。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

- 3 [ディレクティブファイルバンドル] を選択し、[次へ] をクリックして、[バンドルカテゴリの選択] ページを表示します。

新しいバンドルの作成  
ステップ 2: バンドルカテゴリの選択

オプションのリストから作成するバンドルのカテゴリを選択します。

新しいバンドルカテゴリ:

- (空のバンドル)
- アクション
- パーソナリティの保存
- パーソナリティの適用

説明:  
(空のバンドル) - このオプションを選択し、初期のタスクがないバンドルを作成します。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

- 4 目的のバンドルカテゴリを選択します。

**空のバンドル:** 初期のタスクがないバンドルです。このバンドルカテゴリは、新しいバンドルの作成ウィザードですべてのタスクを実行することなく、すばやくバンドルを作成するために便利です。空のバンドルを作成すると、詳細を編集して、割り当て、アクションなどを後から追加することができます。

**アクションバンドル:** 1つまたは複数のアクションを持つバンドルです。

**パーソナリティの適用**：ローカルまたはネットワークパスにあるパーソナリティファイルから、管理対象デバイス上の1つ以上のユーザのパーソナリティを適用するバンドルです。

**パーソナリティの保存**：ローカルまたはネットワークパスにあるパーソナリティファイルへ、管理対象デバイス上の1つ以上のユーザのパーソナリティを保存するバンドルです。パーソナリティファイルはZENworks コンテンツリポジトリにアップロードされません。

- 5 [次へ] をクリックして、[詳細の定義] ページを表示し、フィールドに入力します。

**バンドル名**：バンドルの名前を入力します。バンドル名は、他の項目（バンドル、グループ、フォルダなど）の名前とは異なる名前である必要があります。入力した名前は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent（管理対象デバイス上）に表示されます。

詳細については、「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。

**フォルダ**：バンドルを配置する ZENworks コントロールセンターフォルダの名前を入力するか、参照して選択します。デフォルトは /バンドル ですが、バンドルを分類する追加フォルダを作成できます。

**アイコン**：ZENworks Configuration Management によって、特定のバンドルのインストール中に表示されるアイコンを選択できます。このアイコンは、管理対象デバイスで ZENworks Adaptive Agent によって表示されるアイコンにのみ適用されます。ZCC では、デフォルトアイコンを使用して、様々なバンドル（ディレクトリ、ファイル、イメージ、および Windows\*）を表現します。


アイコンを選択するには、[参照] をクリックして、参照して管理対象デバイスに表示させるアイコンを選択します。

複数のアイコンを含む .exe、.dll または .ico のファイルに組み込まれているアイコンを選択したい場合は、アイコンを参照して選択する前に追加項目をインストールする必要があります。

Mozilla Firefox\* では、デバイスに Novell File Upload 拡張機能がインストールされていない場合は、ダウンロードプラグインのダウンロードおよびインストール、またはアイコンの参照とアップロードを行う前に、インストールする必要があります。詳細については、119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」を参照してください。

Novell File Upload 拡張機能をインストールした後で、ダウンロードプラグインもインストールする必要があります。これを行うには、[アイコンの選択] ダイアログボックスに表示される [ここをクリックしてプラグインをダウンロード] メッセージボックスをクリックし（このデバイスにすでにプラグインがインストールされている場合、プラグインボックスは表示されません）、[手動インストール] をクリックし、次に [今すぐインストール] をクリックします。

Microsoft Internet Explorer\* の場合、Novell File Upload ActiveX\* コントロールのみをインストールする必要があります。Internet Explorer 用のダウンロードプラグインはありません。詳細については、119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」を参照してください。

必要な拡張機能とプラグインをダウンロードしてインストールしたら、 をクリックして、ZENworks Adaptive Agent バンドルを表すために表示するアイコンを参照して、選択します。アイコンが複数のアイコンを含む .exe、.dll、または .ico ファイルに埋め込まれている場合、追加のダイアログボックスが表示され、目的のアイコンを選択できます。

アイコンを指定しないと、デフォルトのアイコンが使用されます。


**説明:** バンドルのコンテンツの短い説明を入力します。この説明は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent に表示されます。

- 6 [次] をクリックし、**ステップ 4** で選択したバンドルカテゴリに応じた適切な手順までスキップします。
- ◆ **アクションバンドル:** **ステップ 7** に進みます。
  - ◆ **パーソナリティの適用:** **ステップ 8** に進みます。
  - ◆ **パーソナリティの保存:** **ステップ 9** に進みます。
- 7 (条件付き) アクションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従い、**ステップ 10** に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。


ウィザードページとフィールド	詳細
[アクションの追加] ページ > [追加]	[追加] をクリックし、アクションをクリックします。表示されるダイアログボックスのオプションに入力します。追加情報が必要な場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
[アクションの追加] ページ > [削除]	削除するアクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[削除] をクリックします。
[アクションの追加] ページ > [上へ移動]	移動するアクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[上へ移動] をクリックします。
[アクションの追加] ページ > [下へ移動]	下へ移動するアクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[下へ移動] をクリックします。
[アクションの追加] ページ > [有効]	有効にするアクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[有効] をクリックします。
[アクションの追加] ページ > [無効]	無効にするアクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[無効] をクリックします。
[アクションの追加] ページ > [オプション]	[オプション] をクリックします。目的の設定を変更し、[OK] をクリックして [アクションの追加] ページに戻ります。追加情報が必要な場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
[アクションの追加] ページ > [エラー発生時に続行する]	選択したアクションが失敗した場合でも、同じアクションセット内の残りのアクションの実行を続行するには、アクション (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。[エラー発生時に続行する] 列にあるチェックボックスをオンにし、[適用] をクリックします。

- 8 (条件付き) パーソナリティの適用アクションを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従い、**ステップ 10** に進んでください。
- 各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページとフィールド	詳細
[パーソナリティの適用] ページ > [このデバイスからテンプレートをアップロードする] フィールド	このオプションを選択し、  をクリックして、[コンテンツのアップロード] ダイアログボックス表示します。アップロードするテンプレートを参照して選択します。
[パーソナリティの適用] ページ > [管理対象デバイス上のテンプレートを指定する] フィールド	このオプションを選択し、管理対象デバイスでのパーソナリティマイグレーションテンプレートファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスも指定できます。
[パーソナリティの適用] ページ > [PNP ファイルのロード元のパス] フィールド	移行設定およびデータを含んでいる管理対象デバイス上の PNP ファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスを指定することもできます。
[パーソナリティの適用] ページ > [PNP ファイルを復号化するパスワード] フィールド	このチェックボックスをオンにして、PNP ファイルを復号化するパスワードを入力します。 PNP ファイルをスパンした場合、スパンしたファイルと PNP ファイルを同じフォルダ内に残しておきます。

9 (条件付き) パーソナリティの保存アクションを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従い、[ステップ 10](#) に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページとフィールド	詳細
[パーソナリティの保存] ページ > [このデバイスからテンプレートをアップロードする] フィールド	このオプションを選択し、  をクリックして、[コンテンツのアップロード] ダイアログボックス表示します。アップロードするテンプレートを参照して選択します。
[パーソナリティの保存] ページ > [Specify a template file on the managed device (管理対象デバイスにあるテンプレートファイルを指定する)] フィールド	このオプションを選択し、管理対象デバイスでのパーソナリティマイグレーションテンプレートファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスも指定できます。
[パーソナリティの保存] ページ > [PNP ファイルが作成されるパス] フィールド	移行設定およびデータを保存するために、管理対象デバイス上の PNP ファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスを指定することもできます。
[パーソナリティの保存] ページ > [PNP ファイルを暗号化するパスワード] フィールド	このチェックボックスをオンにして、PNP ファイルを保護するパスワードを入力します。 [パスワードを再入力してください] フィールドに、パスワードを再入力して確定します。

---

## ウィザードページとフィールド 詳細

---

[パーソナリティの保存] このオプションを選択すると、パーソナリティマイグレーションページ > [複数ファイルにスパン] データを複数ファイルにスパンして、データをリムーバブルメディアに保存できます。

ファイルをスパンせずパーソナリティをマイグレートするには [スパンしない] オプションを選択します。

ファイルのスパンサイズを指定するには [次のサイズでスパン] オプションを選択します。デフォルトのスパンサイズは 650MB です。

---

- 10 [概要] ページの情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンを使用してバンドルの設定を変更します。
- 11 (条件付き) [作成後に詳細を設定] チェックボックスをオンにして、ウィザード完了後にバンドルの [概要] ページを表示します。さまざまなタブを使用して、バンドルの割り当て、システム要件、アクション、設定、およびコンテンツのレプリケーション設定を編集できます。
- 12 [終了] をクリックして、この [概要] ページの設定に従ってバンドルを作成します。 [終了] をクリックすると、バンドルが作成されますが、ユーザやデバイスは割り当てられておらず、スケジュール、グループのメンバーはまだありません。いずれかの時点で、[50 ページのセクション 3.2 「既存バンドルのデバイスへの割り当て」](#) または [53 ページのセクション 3.3 「既存バンドルのユーザへの割り当て」](#) に進むことによってバンドルの追加オプションを設定する必要があります。

## 2.2 ファイルバンドルの作成

ファイルバンドルを使用すると、ファイルやディレクトリをデバイスにコピーしたりインストールしたりできます。たとえば、ファイルバンドルを使用して、設定ファイルまたはデータファイルを含めることができます。ファイルバンドルは、Windows バンドルの一部ではないファイルを配布するのに便利です。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、バンドルを作成できます。ZENworks コントロールセンターを使用してのバンドルの作成手順について、次に説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「バンドルコマンド」を参照してください。

ファイルバンドルの作成における重要な情報については [12 ページのセクション 1.3 「パッケージ作成時の考慮事項」](#) を参照してください。

ファイルバンドルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[新規] メニューをクリックし、次に [バンドル] をクリックして [バンドルタイプの選択] ページを表示します。



新しいバンドルの作成  
ステップ 1: バンドルタイプの選択

オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。

新しいバンドルタイプ:

- Windowsバンドル
- イメージングバンドル
- ディレクティブバンドル
- ファイルバンドル

説明:  
ファイルバンドル - このオプションを選択して、ファイルまたはディレクトリを複数の管理対象デバイスにコピーまたはインストールするバンドルを作成します。

<< 戻る      次 >>      キャンセル

- 3 [ファイルバンドル] を選択し、[次へ] をクリックして [バンドルカテゴリの選択] ページを表示します。

新しいバンドルの作成  
ステップ 2: バンドルカテゴリの選択

オプションのリストから作成するバンドルのカテゴリを選択します。

新しいバンドルカテゴリ:

- (空のバンドル)
- インストールディレクトリ
- ディレクトリのコピー
- ファイルのインストール
- ファイルのコピー

説明:  
(空のバンドル) - このオプションを選択し、初期のタスクがないバンドルを作成します。

<< 戻る      次 >>      キャンセル

- 4 目的のバンドルカテゴリを選択します。

**空のバンドル:** 初期のタスクがないバンドルです。このバンドルカテゴリは、新しいバンドルの作成ウィザードですべてのタスクを実行することなく、すばやくバンドルを作成するために便利です。空のバンドルを作成すると、詳細を編集して、割り当て、アクションなどを後から追加することができます。

**ディレクトリのコピー:** ディレクトリ (フォルダ) を管理対象デバイス (または任意のデバイスから別の場所) にコピーします。ディレクトリは、管理対象デバイスでこのバンドルが起動されたときに元の場所から別の場所にコピーされます。ディレクトリは ZENworks コンテンツシステムにアップロードされません。

**ファイルのコピー:** 1 つまたは複数のファイルを管理対象デバイス (または任意のデバイスから別の場所) にコピーします。ファイルは、管理対象デバイスでこのバンドルが起動されたときに元の場所から別の場所にコピーされます。ファイルは ZENworks コンテンツシステムにアップロードされません。

**ディレクトリの作成 / 削除:** 管理対象デバイスでディレクトリを作成または削除します。

**ディレクトリのインストール:** ディレクトリおよびすべてのサブディレクトリのコンテンツを ZENworks コンテンツシステムにアップロードし、次にこれを管理対象デバイスの宛先パスにインストールします。コンテンツ (デフォルト) は、すべてのプライマリサーバにコピーされます。

**ファイルのインストール:** 選択したファイルを ZENworks コンテンツシステムにアップロードし、次にこれを管理対象デバイスの宛先パスにインストールします。コンテンツ (デフォルト) は、すべてのプライマリサーバにコピーされます。

---

**注:** ファイルまたはディレクトリをコピーすると、ファイルまたはディレクトリが 1 つの場所から別の場所にコピーされます。ファイルが ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされることはありません。ファイルまたはディレクトリのコピーは、コンテンツを使用しないコピーと呼ばれています。ファイルまたはディレクトリをコピーする際、必ず管理対象デバイスでコピー操作を実行し、コピー元およびコピー先の両方のパスが解決されている必要があります。また、ファイルまたはディレクトリをコピーするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされません。

ファイルまたはディレクトリをインストールすると、ファイルまたはディレクトリは ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされてから、割り当てられたデバイスに配布されます。ファイルまたはディレクトリのインストールは、コンテンツを使用するコピーとして説明されています。ファイルまたはディレクトリをインストールするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされます。

実行可能ファイルをインストールしても、ファイルは起動あるいは実行されません。ファイルを起動または実行するには、バンドルに実行可能ファイルの起動アクション (Windows 実行可能ファイルの起動、Java アプリケーションの起動など) を追加する必要があります。詳細については、[129 ページの付録 E 「アクション」](#) を参照してください。

---

## 5 [次へ] をクリックして [詳細設定] ページを表示し、フィールドに入力します。

**バンドル名:** バンドルの名前を入力します。バンドル名は、他の項目 (バンドル、グループ、フォルダなど) の名前とは異なる名前である必要があります。入力した名前は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent (管理対象デバイス上) に表示されます。

詳細については、「[ZENworks コントロールセンターの命名規則](#)」を参照してください。

**フォルダ:** バンドルを配置する ZENworks コントロールセンターフォルダの名前を入力するか、参照して選択します。デフォルトは /バンドルですが、バンドルを分類する追加フォルダを作成できます。

**アイコン:** ZENworks Configuration Management によって、特定のバンドルのインストール中に表示されるアイコンを選択できます。これは、管理対象デバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって表示されるアイコンにのみ適用されます。ZCC では、デフォルトアイコンを使用して、様々なバンドル (ディレクトリ、ファイル、イメージ、および Windows\*) を表現します。


アイコンを選択するには、[参照] をクリックして、参照して管理対象デバイスに表示させるアイコンを選択します。

複数のアイコンを含む .exe、.dll または .ico のファイルに組み込まれているアイコンを選択したい場合は、アイコンを参照して選択する前に追加項目をインストールする必要があります。

Mozilla Firefox では、デバイスに Novell File Upload 拡張機能がインストールされていない場合は、ダウンロードプラグインのダウンロードおよびインストール、またはアイコンの参照とアップロードの前に、これをインストールする必要があります。詳細については、119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」を参照してください。

Novell File Upload 拡張機能のインストール後、ダウンロードプラグインもインストールする必要があります。このためには、[アイコンの選択] ダイアログボックスに表示される [ここをクリックしてプラグインをダウンロード] メッセージボックスをクリックして (このデバイスにすでにプラグインをインストールしている場合は、プラグインボックスは表示されません)、[手動インストール] をクリックしてから、[今すぐインストール] をクリックします。

Microsoft Internet Explorer の場合、Novell File Upload ActiveX コントロールのみをインストールする必要があります。Internet Explorer ではダウンロードするプラグインはありません。詳細については、119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」を参照してください。

必要な拡張機能とプラグインをダウンロードしてインストールしたら、 をクリックして、ZENworks Adaptive Agent でバンドルを表すために表示するアイコンを参照し、選択します。複数のアイコンを含む .exe、.dll、または .ico ファイル内に組み込まれているアイコンの場合は、もう 1 つダイアログボックスが表示され、そこで希望するアイコンを選択します。

アイコンを指定しないと、デフォルトのアイコンが使用されます。

**説明：**バンドルのコンテンツの短い説明を入力します。この説明は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent に表示されます。

6 [次] をクリックし、[ステップ 4](#) で選択したバンドルカテゴリに応じた適切な手順までスキップします。

- **ディレクトリのコピー：**[27 ページのステップ 7](#)に進みます。
- **ファイルのコピー：**[28 ページのステップ 8](#)に進みます。
- **ディレクトリの作成 / 削除** [30 ページのステップ 9](#)に進みます。
- **ディレクトリのインストール：**[30 ページのステップ 10](#)に進みます。
- **ファイルのインストール：**[31 ページのステップ 11](#)に進みます。

7 (条件付き) ディレクトリのコピーバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[32 ページのステップ 12](#)に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

#### ウィザードページとフィールド 詳細

---

[ディレクトリ選択] ページ > [ソースディレクトリ] フィールド	ソースディレクトリを指定します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。
--	---

---

---

**ウィザードページとフィールド 詳細**

---

[ディレクトリ選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
[ディレクトリ選択] ページ > [コピー先ディレクトリ] フィールド	ディレクトリをコピーするデバイスの宛先ディレクトリを指定します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。
[ディレクトリ選択] ページ > [非表示] チェックボックス	[非表示] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが非表示になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [読み込み専用] チェックボックス	[読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが読み込み専用になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [コピーオプション] リスト	リストからコピーオプションを選択します：  <b>常にコピー</b> ：ファイルが現在ワークステーション上にあるかどうかに関係なくディレクトリのコンテンツをコピーします。  <b>存在する場合にコピー</b> ：ファイルが現在ワークステーション上にある場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします。  <b>存在しない場合にコピー</b> ：ファイルが現在ワークステーション上にない場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします。  <b>新しければコピー</b> ：既存ファイルの日時よりもファイルの変更日時が新しい場合、またはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ディレクトリのコンテンツをコピーします。  <b>存在して新しければコピー</b> ：すでにワークステーションに存在し、ファイルの変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ディレクトリのコンテンツをコピーします。  <b>新しいバージョンの場合にコピー</b> ：ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバージョンより新しい場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします(バージョン情報が分かる場合)。  <b>ユーザへ確認</b> ：ディレクトリのコンテンツをコピーするかどうかを確認するメッセージを表示します。  <b>異なる場合はコピー</b> ：作成日、作成時間、またはファイルのサイズが既存のファイルの日付、時間、またはサイズと異なる場合、ディレクトリのコンテンツをコピーします。

- 
- 8 (条件付き) ファイルのコピーバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従い、[32 ページのステップ 12](#)に進んでください。  
各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

## ウィザードページとフィールド 詳細

---


[ファイルの選択] ページ > [ファイル] フィールド	[追加] をクリックして、[ファイルの選択] ダイアログボックスを表示します。[参照] をクリックして、デバイスにコピーするファイルを参照して選択し、[OK] をクリックします。目的のファイルをコピーするために、必要な回数これらの手順を繰り返します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。
[ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
[ファイルの選択] ページ > [コピー先ディレクトリ] フィールド	ファイルのコピー先であるデバイスの宛先ディレクトリを指定します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。
[ファイルの選択] ページ > [ソースファイルのショートカット作成] チェックボックス	[ソースファイルのショートカット作成] オプションを選択して、宛先ディレクトリにソースファイルのショートカットアイコンを作成します。ソースファイルは宛先ディレクトリにはコピーされません。
[ファイルの選択] ページ > [非表示] チェックボックス	[非表示] チェックボックスを選択して、インストール後にファイルが非表示になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [読み込み専用] チェックボックス	[読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にファイルが読み込み専用になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [コピーオプション] リスト	リストからコピーオプションを選択します：  <b>常にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在あるかどうかに関係なくファイルをコピーします。  <b>存在する場合にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在ある場合にそのファイルをコピーします。  <b>存在しない場合にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在ない場合にそのファイルをコピーします。  <b>新しければコピー</b> ：既存ファイルの日時よりもファイルの日時が新しい場合、またはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ファイルをコピーします。  <b>存在して新しければコピー</b> ：すでにワークステーションに存在するファイルで、その変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ファイルをコピーします。  <b>新しいバージョンの場合にコピー</b> ：ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバージョンより新しい場合に限り、ファイルをコピーします (バージョン情報がある場合)。  <b>ユーザへ確認</b> ：ファイルをコピーするかどうかを確認するメッセージを表示します。  <b>異なる場合はコピー</b> ：ファイルの日時またはサイズが既存ファイルの日時やサイズと異なっている場合に限り、ファイルをコピーします。

---

- 9 (条件付き)ディレクトリの作成/削除バンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従い、[32 ページのステップ 12](#)に進んでください。各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページとフィールド	詳細
[ディレクトリの選択] ページ > [ディレクトリの作成] フィールド	[ディレクトリの作成] オプションを選択して、管理対象デバイスでディレクトリを作成します。
[ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
[ディレクトリの選択] ページ > [ディレクトリの削除] フィールド	[ディレクトリの削除] オプションを選択して、管理対象デバイスでディレクトリを削除します。
[ディレクトリの選択] ページ > [ディレクトリ名]	[参照] をクリックして、管理対象デバイスで作成または削除するディレクトリを選択します。ディレクトリ名も指定できます。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決される必要があります。

- 10 (条件付き)ディレクトリファイルのインストールバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[32 ページのステップ 12](#)に進んでください。各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

ウィザードページとフィールド	詳細
[ディレクトリ選択] ページ > [ソースディレクトリ] フィールド	 をクリックして、[ディレクトリの選択] ダイアログボックスを表示します。アップロードするファイルを参照して選択します。[ステータス] フィールドに各ファイルのアップロードステータスが表示されます。
[ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
[ディレクトリ選択] ページ > [コピー先ディレクトリ] フィールド	ディレクトリのインストール先の宛先ディレクトリを指定します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。
[ディレクトリ選択] ページ > [非表示] チェックボックス	[非表示] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが非表示になるように指定します。
[ディレクトリ選択] ページ > [読み込み専用] チェックボックス	[読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが読み込み専用になるように指定します。



---

**ウィザードページとフィールド** 詳細

---

[ディレクトリ選択] ページ > [コピーオプション] リスト	リストからコピーオプションを選択します：  <b>常にコピー</b> ：ディレクトリがワークステーション上に現在あるかどうかに関係なくディレクトリをインストールします。  <b>存在する場合にコピー</b> ：ディレクトリが現在ワークステーション上にある場合のみディレクトリをインストールします。  <b>存在しない場合にコピー</b> ：ディレクトリが現在ワークステーション上にない場合のみディレクトリをインストールします。  <b>新しければコピー</b> ：既存ディレクトリの日時よりもディレクトリの日時が新しい場合、またはディレクトリが現在ワークステーション上にない場合のみ、ディレクトリをインストールします。  <b>存在して新しければコピー</b> ：すでにワークステーションに存在し、ディレクトリの変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ディレクトリをインストールします。  <b>新しいバージョンの場合にコピー</b> ：ディレクトリの内部バージョンが既存ディレクトリのバージョンより新しい場合のみ、ディレクトリをインストールします (バージョン情報がある場合)。  <b>ユーザへ確認</b> ：ディレクトリをインストールするかどうかの確認を求めるメッセージを表示します。  <b>異なる場合にコピー</b> ：ディレクトリの日時またはサイズが既存ディレクトリの日時またはサイズと異なっている場合に、ディレクトリをインストールします。
------------------------------------	--

---

- 11 (条件付き) ファイルのインストールバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[32 ページのステップ 12](#)に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

**ウィザードページとフィールド** 詳細

---

[ファイルの選択] ページ > [ファイル] フィールド	[追加] をクリックして、[ファイルの選択] ダイアログボックスを表示します。[追加] をクリックして、デバイスにインストールするファイルを参照して選択し、[OK] をクリックします。目的のファイルをコピーするために、必要な回数これらの手順を繰り返します。  [クリア] をクリックすると、リストからすべてのファイルを削除できます。
[ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
[ディレクトリ選択] ページ > [コピー先ディレクトリ] フィールド	ファイルのインストール先の宛先ディレクトリを指定します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。

---

---

**ウィザードページとフィールド 詳細**

---

[ファイルの選択] ページ > [非表示] チェックボックス	[非表示] チェックボックスを選択して、インストール後にファイルが非表示になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [読み込み専用] チェック ボックス	[読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にファイルが読み込み専用になるように指定します。
[ファイルの選択] ページ > [コピーオプション] リスト	リストからコピーオプションを選択します：  <b>常にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在あるかどうかに関係なくファイルをコピーします。  <b>存在する場合にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在ある場合にそのファイルをコピーします。  <b>存在しない場合にコピー</b> ：ファイルがワークステーション上に現在ない場合にそのファイルをコピーします。  <b>新しければコピー</b> ：既存ファイルの日時よりもファイルの日時が新しい場合、またはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ファイルをコピーします。  <b>存在して新しければコピー</b> ：すでにワークステーションに存在し、ファイルの変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ファイルをコピーします。  <b>新しいバージョンの場合にコピー</b> ：ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバージョンより新しい場合に限り、ファイルをコピーします (バージョン情報がある場合)。  <b>ユーザへ確認</b> ：ファイルをコピーするかどうかを確認するメッセージを表示します。  <b>異なる場合はコピー</b> ：ファイルの日時またはサイズが既存ファイルの日時やサイズと異なっている場合に限り、ファイルをコピーします。

- 
- 12 [概要] ページの情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンを使用してバンドルの設定を変更します。
  - 13 (条件付き) [作成後に詳細を設定] チェックボックスをオンにして、ウィザード完了後にバンドルの [概要] ページを表示します。さまざまなタブを使用して、バンドルの割り当て、[システム要件](#)、アクション、設定、およびコンテンツのレプリケーション設定を編集できます。
  - 14 [終了] をクリックして、この [概要] ページの設定に従ってバンドルを作成します。[終了] をクリックすると、バンドルが作成されますが、ユーザやデバイスは割り当てられておらず、スケジュール、グループのメンバーはまだありません。その後いずれかの時点で、[50 ページのセクション 3.2 「既存バンドルのデバイスへの割り当て」](#) の [53 ページのセクション 3.3 「既存バンドルのユーザへの割り当て」](#) に進むにつれてバンドルの追加オプションを設定する必要があります。



## 2.3 イメージングバンドルの作成

イメージングバンドルを使用すると、操作を実行してから、オペレーティングシステムを起動することができます。さまざまなイメージングバンドルのタイプを使用して、1つまたは複数のデバイスにイメージをインストールしたり、イメージングバッシュプロンプトから発行できるコマンドが含まれている ZENworks スクリプトを実行できます。

イメージングバンドルの詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management Preboot Services およびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

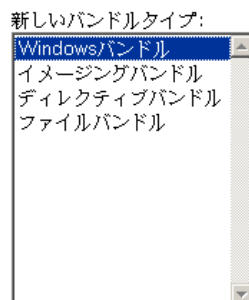
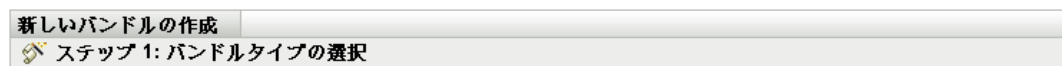
## 2.4 Windows バンドルの作成

Windows バンドルを使用すると、Microsoft\* Windows Installer (MSI) パッケージ、Microsoft Windows Software Patch (MSP) パッケージ、シンククライアントアプリケーション、またはその他の Windows ベースのアプリケーションを、Windows デバイスに配布できます。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、バンドルを作成できます。ZENworks コントロールセンターを使用してのバンドルの作成手順について、次に説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「[バンドルコマンド](#)」を参照してください。

Windows バンドルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[新規] メニューをクリックし、次に [バンドル] をクリックして [バンドルタイプの選択] ページを表示します。



説明:  
Windowsバンドル - シンプル、MSI、MSP、シンククライアントという Windows アプリケーションを作成する場合は、このオプションを選択します。

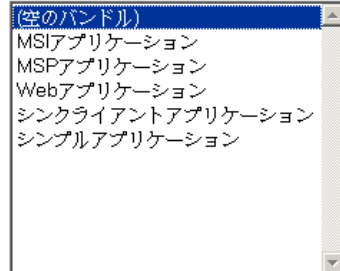


- 3 [Windows バンドル] を選択し、[次へ] をクリックして [バンドルカテゴリの選択] ページを表示します。

新しいバンドルの作成  
ステップ 2: バンドルカテゴリの選択

オプションのリストから作成するバンドルのカテゴリを選択します。

新しいバンドルカテゴリ:



説明:

(空のバンドル) - このオプションを選択し、初期のタスクがないバンドルを作成します。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

#### 4 目的のバンドルカテゴリを選択します。

**空のバンドル:** 初期タスクのないバンドルです。このバンドルカテゴリは、[新しいバンドルの作成] ウィザードですべてのタスクを実行することなく、すばやくバンドルを作成するのに便利です。空のバンドルを作成すると、詳細を編集して、割り当て、アクションなどを後から追加することができます。

**MSI アプリケーション:** .msi ファイルとしてパッケージされたアプリケーションであり、Microsoft Windows Installer プログラムによってインストールできます。

MSI アプリケーションバンドルの作成に関する重要な情報については、[12 ページのセクション 1.3 「パッケージ作成時の考慮事項」](#) を参照してください。

**MSP アプリケーション:** .msp ファイルとしてパッケージされたアプリケーションパッチで、Microsoft Windows Installer プログラムによって適用できます。

MSP アプリケーションバンドルの作成に関する重要な情報については、[12 ページのセクション 1.3 「パッケージ作成時の考慮事項」](#) を参照してください。

**単純なアプリケーション:** 単純なアプリケーションの一例は Windows のメモ帳の起動です。通常は、単純なアプリケーションではいくつかのファイルをワークステーションにコピーする、またはワークステーションのレジストリ、INI ファイル、環境変数などに変更を加えるために ZENworks Adaptive Agent を必要とします。

これより複雑な MSI でないアプリケーションがある場合は、ZENworks Software Packaging の使用をお勧めします。これは AdminStudio\* ZENworks Edition で起動され、アプリケーションの MSI パッケージを作成してから、[MSI アプリケーション] オプションを使用してバンドルを作成します。AdminStudio のインストールの詳細については、『[AdminStudio 9.5 ZENworks Edition インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS95ZENInstallGuide.pdf\)](http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS95ZENInstallGuide.pdf)』を参照してください。

ソフトウェアパッケージの詳細については、『[AdminStudio 9.5 ZENworks Edition ユーザガイド \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS95UserGuide.pdf\)](http://www.novell.com/documentation/zcm10/pdfdoc/adminstudio/AS95UserGuide.pdf)』を参照してください。

**シンクライアントアプリケーション:** ターミナルサーバ上で実行するアプリケーションで、ターミナルサーバのクライアントセッション (RDP または ICA) を経由してアクセスします。

**Web アプリケーション:** Web ブラウザで URL を使用して起動するアプリケーションです。

- 5 [次へ] をクリックして [詳細設定] ページを表示し、フィールドに入力します。

**バンドル名:** バンドルの名前を入力します。バンドル名は、他の項目 (バンドル、グループ、フォルダなど) の名前とは異なる名前である必要があります。入力した名前は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent (管理対象デバイス上) に表示されます。

詳細については、「[ZENworks コントロールセンターの命名規則](#)」を参照してください。

**フォルダ:** バンドルを配置する ZENworks コントロールセンターフォルダの名前を入力するか、参照して選択します。デフォルトは /バンドルですが、バンドルを分類する追加フォルダを作成できます。

**アイコン:** ZENworks Configuration Management によって、特定のバンドルのインストール中に表示されるアイコンを選択できます。これは、管理対象デバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって表示されるアイコンにのみ適用されます。ZCC では、デフォルトアイコンを使用して、様々なバンドル (ディレクトリ、ファイル、イメージ、および Windows\*) を表現します。


アイコンを選択するには、[参照] をクリックして、参照して管理対象デバイスに表示させるアイコンを選択します。

複数のアイコンを含む .exe、.dll または .ico のファイルに組み込まれているアイコンを選択したい場合は、アイコンを参照して選択する前に追加項目をインストールする必要があります。

Mozilla Firefox では、デバイスに Novell File Upload 拡張機能がインストールされていない場合は、ダウンロードプラグインのダウンロードおよびインストール、またはアイコンの参照とアップロードの前に、これをインストールする必要があります。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

Novell File Upload 拡張機能のインストール後、ダウンロードプラグインもインストールする必要があります。このためには、[アイコンの選択] ダイアログボックスに表示される [ここをクリックしてプラグインをダウンロード] メッセージボックスをクリックして (このデバイスにすでにプラグインをインストールしている場合は、プラグインボックスは表示されません)、[手動インストール] をクリックしてから、[今すぐインストール] をクリックします。

Microsoft Internet Explorer の場合、Novell File Upload ActiveX コントロールのみをインストールする必要があります。Internet Explorer ではダウンロードするプラグインはありません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

必要な拡張機能とプラグインをダウンロードしてインストールしたら、 をクリックして、ZENworks Adaptive Agent でバンドルを表すために表示するアイコンを参照し、選択します。複数のアイコンを含む .exe、.dll、または .ico ファイル内に組み込まれているアイコンの場合は、もう 1 つダイアログボックスが表示され、そこで希望するアイコンを選択します。

アイコンを指定しないと、デフォルトのアイコンが使用されます。

**説明:** バンドルのコンテンツの短い説明を入力します。この説明は、ZENworks コントロールセンターおよび ZENworks Adaptive Agent に表示されます。

6 [次] をクリックし、[ステップ 4](#) で選択したバンドルカテゴリに応じた適切な手順までスキップします。

- ◆ MSI アプリケーション：[36 ページのステップ 7](#)に進みます。
- ◆ MSP アプリケーション：[38 ページのステップ 8](#)に進みます。
- ◆ 単純なアプリケーション：[39 ページのステップ 9](#)に進みます。
- ◆ シンクライアントアプリケーション：[40 ページのステップ 10](#)に進みます。
- ◆ Web アプリケーション：[41 ページのステップ 11](#)に進みます。

7 (条件付き)MSI アプリケーションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[41 ページのステップ 12](#)に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

ウィザードページとフィールド	詳細
----------------	----

---

[.msi ファイルの選択] ページ > [通常インストール用の .msp ファイルのアップロード] フィールド	.Msp ファイルを、ZENworks サーバにコピーし、次に ZENworks サーバから割り当て済みユーザおよびデバイスに配布する場合は、このオプションを使用します。これは、ZENworks Adaptive Agent が .msi ファイルを管理対象デバイスのローカルドライブにコピーした後で、Microsoft Windows Installer プログラムがローカルの .msi ファイルからアプリケーションをインストールするため、通常インストールと呼ばれます。
--	---

---

注：デフォルトでは、ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値は 30 分です。コンピュータで ZENworks コントロールセンターを 30 分以上アイドル状態にしていると、続行する前にログインを促すメッセージが表示されます。大きな .msi ファイルのアップロード処理にはかなりの時間がかかる場合があるので、デフォルトのタイムアウトの値はこのページでは適用されません。

---

[.msi ファイルの選択] ページ > [ネットワークインストール用の .msp ファイルの UNC パスを入力] フィールド	Microsoft Windows Installer プログラムで、ネットワーク上にある .msi ファイルからアプリケーションをインストールする場合は、このオプションを使用します。ワークステーションへの配布中のソースファイルとして使用する .msi ファイルへの完全パスを指定する必要があります。
--	--

マッピングされたドライブまたは UNC パスを使用できます。ドライブマッピングを使用する場合は、すべてのワークステーションでソースの場所に同じドライブがマップされていることを確認する必要があります。この理由によって、UNC パスを指定することをお勧めします。

MSI バンドルの作成後に .msi ファイル名を変更することはできませんが、.msi ファイルへのパスは変更できます。.msi ファイル名を変更すると、インストールが失敗します。

[.msi ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク	Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、 <a href="#">119 ページの付録 C 「Novell File Upload 拡張機能」</a> を参照してください。
---	---

---


---

## ウィザードページとフィールド


### 詳細

---


[.msi ファイルの選択]  
ページ> [パラメータの  
インストール] フィールド

 をクリックして、[パラメータのインストール] ダイアログボックスを表示してから、目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、[107 ページのセクション A.1「パラメータのインストール」](#)を参照してください。

[.msi ファイルの選択]  
ページ> [アンインストール  
パラメータ]  
フィールド

 をクリックして、[パラメータのアンインストール] ダイアログボックスを表示し、目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、[110 ページのセクション A.2「パラメータのアンインストール」](#)を参照してください。

[.msi ファイルの選択]  
ページ> [パラメータの  
修復] フィールド

 をクリックして、[パラメータの修復] ダイアログボックスを表示し、目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、[112 ページのセクション A.3「パラメータの修復」](#)を参照してください。

[.msi ファイルの選択]  
ページ> [変換ファイル  
の選択] フィールド

[追加] をクリックし、目的の転送ファイルを参照して選択します。転送ファイルをアップロード、またはその場所を指定できます。

組織内の異なるグループで同じアプリケーションを使用することがよくありますが、同じ機能セットを必要とするとは限りません。Windows Installer の利点の 1 つは、10 個のグループで、10 個の異なる機能セットまたは同じアプリケーションに対して別の修正を必要としている場合、各グループに異なる変換ファイル (MST) を適用して、10 個のすべてのユーザグループに同じ MSI パッケージを展開できます。

変換ファイルとは、MSI インストールに適用された変更のコレクションです。これには、機能がインストールされるかどうか、どのようにインストールされるか、どのファイル、ショートカット、およびレジストリエントリが含まれるか、および [プログラムの追加と削除] のアプレット情報などの、すべての変更情報が含まれています。

ベンダから提供された MSI パッケージを持っている場合、AdminStudio 9.5 ZENworks Edition を使用して、変換を作成および管理できます。

---

---

ウィザードページとフィールド **詳細**

---

[.msi ファイルの選択] ページ > [MSI プロパティ] フィールド

MSI パッケージには、アプリケーションの管理インストール中に定義されたプロパティ値が含まれています。これらのプロパティ値によって、Microsoft Windows Installer がワークステーションにアプリケーションをインストールする方法が決まります。必要に応じて、一部のプロパティ値を変更することもできます。たとえば、ユーザの作業ファイルを保存するデフォルトの場所をプロパティ値が定義している場合があります。そのプロパティを [プロパティ] リストに追加して、プロパティの値を変更することにより、MSI パッケージで定義されているデフォルトの場所を変更することができます。

必要に応じて、MSI パッケージに含まれていなかったパブリックプロパティを追加することができます。その場合は、MSI パッケージに有効なプロパティだけを追加するように注意する必要があります。

プロパティ値を上書きするには、プロパティ値を変更して、そのプロパティを [プロパティ] リストに追加し、MSI パッケージで定義された値以外のプロパティ値を使用することを Application Launcher が認識するようにします。追加するには、[追加] をクリックして、[MSI プロパティ] ダイアログボックスを表示します。[名前] フィールドで値を上書きするプロパティを選択し、[値] フィールドで新しい値を指定します。次に、[OK] をクリックすると、選択したプロパティが [MSI プロパティ] リストに追加されます。

[MSI プロパティ] リストにあるプロパティを変更するには、プロパティを選択し、[編集] をクリックして値データを変更してから [OK] をクリックします。

[MSI プロパティ] リストからプロパティを削除するには、削除するプロパティを選択して、[削除] をクリックします。プロパティを削除すると、その後アプリケーションをインストールする際には、MSI パッケージで定義されているプロパティ値を使用することになります。

[コマンドの選択] ページ > [実行する実行可能] フィールド

[コマンドの選択] ページでは、.msi ファイルのインストール後に実行するオプションの実行可能ファイルを指定できます。[ブラウズ] をクリックし、実行する実行可能ファイルを参照して選択します。

実行可能プログラムが管理対象デバイスの Program Files ディレクトリにインストールされている場合は、次のようにマクロを使用する必要があります。

- ◆ 32 ビット管理対象デバイス : %ProgramFiles%\ ファイル名 .
- ◆ 64 ビット管理対象デバイス : %ProgramFiles32%\ ファイル名 .

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、[119 ページの付録 C 「Novell File Upload 拡張機能」](#) を参照してください。

---

- 8 MSP アプリケーションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[41 ページのステップ 12](#) に進んでください。各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。



---

## ウィザードページとフィールド 詳細

---

[.msp ファイルの選択] ページ > [通常インストール用の .msp ファイルのアップロード] フィールド

.msp ファイルを、ZENworks サーバにコピーし、次に ZENworks サーバから割り当て済みユーザおよびデバイスに配布する場合は、このオプションを使用します。これは、ZENworks Adaptive Agent が .msi ファイルを管理対象デバイスのローカルドライブにコピーした後で、ローカルの .msp ファイルからインストールしているため、通常インストールと呼ばれます。

[.msp ファイルの選択] ページ > [ネットワークインストール用の .msp ファイルの UNC パスを入力] フィールド

.msp ファイルをネットワークからインストールする場合、このオプションを使用します。ワークステーションへの配布中のソースファイルとして使用する .msp ファイルへの完全パスを指定する必要があります。

マッピングされたドライブまたは UNC パスを使用できます。ドライブマッピングを使用する場合は、すべてのワークステーションでソースの場所に同じドライブがマップされていることを確認する必要があります。この理由によって、UNC パスを指定することをお勧めします。

MSP バンドルを作成した後で .msp ファイル名を変更することはできませんが、.msp ファイルへのパスは変更できます。.msp ファイル名を変更すると、インストールが失敗します。

[.msp ファイルの選択] ページ > [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、[119 ページの付録 C「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

[.msp ファイルの選択] ページ > [コマンドラインパラメータ] フィールド

.msp ファイルを選択すると、[コマンドラインパラメータ] フィールドが自動的に設定されます。たとえば、`/p patch_package /qn` です。この場合、`/p` は、パッチファイルを示し、`patch_package` は、.msp ファイルを指定し、`/qn` はユーザインタフェースを使用しないインストール(サイレントインストール)を指定します。.msp ファイルをインストールするには、通常は `/qn` オプションを使用する必要があります。

ただし、追加オプションを指定することはできます。詳細については、[MSDN Web サイト \(http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa372866.aspx\)](http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa372866.aspx) を参照してください。

---

- 9 シンプルアプリケーションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[41 ページのステップ 12](#)に進んでください。
- 各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

**ウィザードページとフィールド** **詳細**

---

[実行するコマンドを入力する] ページ> [コマンド] フィールド

アプリケーションを起動するコマンドを指定します。実行可能ファイルがデバイスのサーチパスにない場合は、実行可能ファイルへのフルパスを含める必要があります。アプリケーションがデバイスのローカルドライブまたはネットワーク リソースのどちらにある場合でも、このパスはデバイスと関連している必要があります。

たとえば、実行可能ファイルがデバイスのローカルドライブにない場合は、`c:\winnt\notepad.exe` のように指定します。実行可能ファイルがネットワーク リソースにある場合は、`j:\apps\notepad.exe` (すべてのユーザがロケーションに J: にマップされる場合) または `\\server1\vol1\apps\notepad.exe` のように指定します。

[実行するコマンドを入力する] ページ> [Novell File Upload 拡張機能のインストール] リンク

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、[119 ページの付録 C 「Novell File Upload 拡張機能」](#) を参照してください。

[実行するコマンドを入力する] ページ> [コマンドラインパラメータ] フィールド

実行可能パスに渡す必要のあるコマンドラインパラメータを指定します。

ZENworks Adaptive Agent は、指定されたとおりにパラメータを渡します。したがって、使用するパラメータ構文は、実行可能ファイルで必要とされる構文に正確に一致している必要があります。たとえば、`word.exe` の `/f=filepath` パラメータで、スペースを含むパスを引用符で囲む必要がある場合は、次のように入力します。

```
/f="c:\my docs\sample.doc"
```

[実行するコマンドを入力する] ページ> [作業ディレクトリ] フィールド

アプリケーションが作業ファイルに使用するディレクトリのパスを指定します。

- 
- 10** シンクライアントアプリケーションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまでウィザードの指示に従ってから、[41 ページのステップ 12](#)に進んでください。

各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してください。

---

**ウィザードページとフィールド** **詳細**

---

[シンクライアント詳細の設定] ページ> [ICA セッション: 発行されたアプリケーション名] フィールド

発行されたアプリケーション名を Citrix\* で定義されている通り正確に入力します。

[シンクライアント詳細の設定] ページ> [ICA セッション: アプリケーションをホストするサーバ] フィールド

アプリケーションをホストする Citrix サーバを追加します。サーバを追加するには、サーバの IP アドレスまたはホスト名を指定して、[追加] をクリックします。

サーバが一覧表示されている順序が優先的に起動される順序です。[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、必要に応じて順序を変更できます。

---



---

**ウィザードページとフィールド** **詳細**

---

[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: ターミナルサーバの アドレス] フィールド	ターミナルサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: サーバポート] フィールド	ターミナルサーバでデフォルトポート 3389 を使用しない場合は、 正しいポート番号を指定します。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: サーバドメイン] フィールド	ターミナルサーバが、Windows NT* ドメインまたは Active Directory* ドメインに含まれている場合は、ドメイン名を入力しま す。ドメインのユーザ名およびパスワードが Novell eDirectory™ のユーザ名およびパスワードと一致する場合は、アプリケーショ ンの起動時にターミナルサーバにログインすることを求めるメッ セージが表示されません。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: アプリケーションパス] フィールド	アプリケーションの実行可能ファイルのパスを、ターミナルサー バを基準に指定します。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: アプリケーション作 業ディレクトリ] フィールド	アプリケーションが作業ファイルに使用するディレクトリのパス を指定します。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: 色の深さ] フィール ド	RDP クライアントセッションに使用する色の数を選択します。 256 色、ハイカラー(15 ビット)、ハイカラー(16 ビット)、また はトゥルーカラー(24 ビット)のいずれかを選択できます。デフォ ルトはトゥルーカラー(24 ビット)です。
[シンクライアント詳細の設定] ページ> [RDP セッ ション: 画面サイズ] フィー ルド	RDP クライアントセッションがデスクトップ領域全体を使用する ようにする場合は、[全画面モードで操作します] を選択します。 または、[指定された画面サイズを使用します] を選択し、手動で 幅および高さを指定します(ピクセル指定)。

- 11 Web アプリケーションバンドルを作成する場合は、[概要] ページに到達するまで  
ウィザードの指示に従ってから、[41 ページのステップ 12](#)に進んでください。  
各ページの説明については、[ヘルプ] をクリックするか、次の表を参照してくださ  
い。

---

**ウィザードページとフィールド** **詳細**

---

[URL の入力] ページ> [URL] フィールド	Web アプリケーションの場所 (URL) を指定します。この URL は、 Web アプリケーションのプライマリファイル、または Web アプリ ケーションへのアクセスが可能な Web ページを指定していなければ なりません。  [テスト URL] ボタンをクリックして、URL をテストします。
-------------------------------	--

- 12 [概要] ページの情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンを使用してバンドルの  
設定を変更します。

- 13 (条件付き) [作成後に詳細を設定] チェックボックスをオンにして、ウィザード完了後にバンドルの [概要] ページを表示します。さまざまなタブを使用して、バンドルの割り当て、システム要件、アクション、設定、およびコンテンツのレプリケーション設定を編集できます。
- 14 [終了] をクリックして、この [概要] ページの設定に従ってバンドルを作成します。 [終了] をクリックすると、バンドルが作成されますが、ユーザやデバイスは割り当てられておらず、スケジュール、グループのメンバーはまだありません。その後いずれかの時点で、50 ページのセクション 3.2 「既存バンドルのデバイスへの割り当て」の 53 ページのセクション 3.3 「既存バンドルのユーザへの割り当て」に進むにつれてバンドルの追加オプションを設定する必要があります。

## 2.5 zman コマンドラインユーティリティの使用によるバンドルの作成

ZENworks Configuration Management では、Windows バンドル、ファイルバンドル、ディレクトティブバンドル、およびイメージングバンドルなど、さまざまなタイプのバンドルを作成できます。各バンドルには、それぞれ独自のデータセットと環境設定があります。データをコマンドラインの引数として渡すのは複雑であるため、zman ユーティリティは XML ファイルを入力としてバンドルを作成します。zman コマンドラインユーティリティを使用してバンドルを作成するには、ZENworks コントロールセンターで作成された同じタイプのバンドルを持ち、XML にエクスポートする必要があります。ZENworks コントロールセンターを使用してバンドルを作成する方法の詳細については、19 ページの第 2 章「バンドルの作成」を参照してください。エクスポートされた XML ファイルはテンプレートとして使用して、zman を使用してバンドルを作成できます。

たとえば、ZENworks コントロールセンターですでに作成されたファイルバンドルを XML ファイルにエクスポートし、これを使用して zman で別のファイルバンドルを作成できます。

バンドルは、これに関連付けられているファイルコンテンツを持つことができます。たとえば、インストールされる MSI ファイルは、Windows MSI バンドルと関連付けられているファイルコンテンツです。

バンドルは他のバンドルに対する従属関係も持っています。

zman コマンドラインユーティリティを使用してバンドルを作成する場合は、次のセクションを参照してください。

- ◆ 42 ページのセクション 2.5.1 「コンテンツまたは別のバンドルへの従属性のないバンドルの作成」
- ◆ 44 ページのセクション 2.5.2 「コンテンツや別のバンドルへの従属性のあるバンドルの作成」
- ◆ 45 ページのセクション 2.5.3 「zman バンドル XML ファイル形式の理解」

### 2.5.1 コンテンツまたは別のバンドルへの従属性のないバンドルの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターでバンドルを作成します。

たとえば、ZENworks コントロールセンターを使用して、[Google Web サイト \(http://www.google.com\)](http://www.google.com) を起動する `google` と呼ばれる Web アプリケーションバンドルを作成します。

- 2 次のコマンドを使用して、バンドルを XML ファイルにエクスポートします。

```
zman bundle-export-to-file bundle_name bundle_filename.xml
```

たとえば、`zman bundle-export-to-file google google.xml` を使用して、`google` バンドルを `google.xml` にエクスポートします。

新規データを使用して、新規バンドルを作成する場合は、[ステップ 3](#) に進んでください。`google` バンドルと同じデータを使用して新規バンドルを作成する場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。

- 3 要件に従って XML ファイルを変更します。

たとえば、以下に示されているように、XML ファイルで Launch ActionSet の Launch URL Action セクションで、`<URL>` の値を `http://www.google.com` から `http://www.yahoo.com` に変更します。

```
<ns2:ActionSets>
  <Id>104e5d74804052eb7ddc4a2f54358d97</Id>
  <Type>Launch</Type>
  <Version>1</Version>
  <Modified>>false</Modified>
  <Data>
    <ns1:Launch/>
  </Data>
  <Actions>
    <Id>2ef5c645774759e9868ba2c157301949</Id>
    <Type>Launch URL Action</Type>
    <Data>
      <ns1:LaunchUrlActionData>
        <URL>http://www.yahoo.com</URL>
        <WaitForExit>>false</WaitForExit>
      </ns1:LaunchUrlActionData>
    </Data>
    <ContinueOnFailure>>false</ContinueOnFailure>
    <Enabled>>true</Enabled>
    <Properties />
  </Actions>
</ns2:ActionSets>
```

- 4 次のコマンドを使用して、新しいバンドルを作成します。

```
zman bundle-create new_bundle_name bundle_xml_filename.xml
```

たとえば、`yahoo` バンドルを作成するには、`zman bundle-create yahoo google.xml` コマンドをコンソールプロンプトに入力します。

## 2.5.2 コンテンツや別のバンドルへの従属性のあるバンドルの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで2つのバンドルを作成します。

たとえば、ZENworks コントロールセンターを使用して、officeXP と officeXPSP1 と呼ばれる2つの MSI アプリケーションバンドルを作成します。officeXP バンドルは、MSI を通じて Microsoft Office XP をインストールします。officeXPSP1 バンドルは、Microsoft Office XP の Service Pack 1 をインストールします。officeXP バンドルで、[バンドルのインストール] アクションを追加して officeXPSP1 をインストールします。

- 2 別のバンドルに従属性のあるバンドルを、次のコマンドを使用して XML ファイルにエクスポートします。

```
zman bundle-export-to-file bundle_name bundle_filename.xml
```

これにより、*bundle\_filename.xml* および *bundle\_filename\_ActionContentInfo.xml* ファイルが作成されます。

たとえば、`zman bundle-export-to-file officeXP officeXP.xml` コマンドを使用して、officeXP バンドルを `officeXP.xml` にエクスポートします。officeXP.xml ファイルと `officeXP_ActionContentInfo.xml` ファイルが作成されます。

サンプルの xml 形式のテンプレートである `WindowsMSIBundle.xml` および `ActionInfo.xml` は、`/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles(Linux サーバ)` および `%%ZENWORKS_HOME%%Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles(Windows サーバ)` で利用できます。ActionContentInfo.xml の詳細については、[45 ページのセクション 2.5.3 「zman バンドル XML ファイル形式の理解」](#) を参照してください。

新規データを使用して、新規バンドルを作成する場合は、[ステップ 3](#)に進んでください。officeXP バンドルと同じデータを使用して、新規バンドルを作成する場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。

- 3 要件に従って、officeXP.xml および officeXP\_ActionContentInfo.xml ファイルを変更します。たとえば、ApplicationX およびそのサポートパックをインストールするための新規バンドルを作成するには、次の手順に従います。

- officeXP\_ActionContentInfo.xml ファイルで、officeXP.msi のすべての参照を ApplicationX.msi に変更します。
- Application X のサポートパックをインストールする ApplicationX-SP1 と呼ばれる別のバンドルを作成します。
- officeXP\_ActionContentInfo.xml で、従属する OfficeXPSP1 バンドルのパスを ApplicationX-SP1 に変更して、ApplicationX およびそのサポートパックをインストールします。

サンプル officeXP\_ActionContentInfo.xml は次のとおりです。

```
<ActionInformation>
  <ActionSet type="Install">
    <Action name="Install MSI" index="1">
      <Content>
        <ContentFilePath includeAllFilesinFolder="false"
includeAllFilesinSubFolders="false">E:\files\ApplicationX.msi</
ContentFilePath>
      </Content>
    </Action>
  </ActionSet>
</ActionInformation>
```

```

        <Action name="Install Bundle" index="2">
            <DependentBundlePath>bundlefolder/ApplicationX-SP1</
DependentBundlePath>
        </Action>
    </ActionSet>
    <ActionSet type="Uninstall">
        <Action name="Undo Install Actions" index="1">
            <Content>
                <ContentFilePath includeAllFilesinFolder="false"
includeAllFilesinSubFolders="false">E:\files\ApplicationX.msi</
ContentFilePath>
            </Content>
        </Action>
    </ActionSet>
</ActionInformation>

```

#### 4 次のコマンドを使用してバンドルを作成します。

```

zman bundle-create new_bundle_name bundle_xml_filename.xml bundle_location --actioninfo
bundle_name_ActionContentInfo.xml

```

バンドル作成の場所を指定しない場合、バンドルはデフォルトで、ルートフォルダ (/Bundles) に作成されます。

たとえば、ルートフォルダ (/Bundles) に ApplicationX というバンドルを作成するには、次のコマンドを使用します。

```

zman bundle-create ApplicationX officeXP.xml --actioninfo officeXP_ActionContentInfo.xml

```

バンドルを作成するフォルダを指定することもできます。

たとえば、ルートフォルダ (/Bundles/Software) の下の Software フォルダに ApplicationY というバンドルを作成するには、次のコマンドを使用します。

```

zman bundle-create ApplicationY officeXP.xml /Bundles/Software --actioninfo
officeXP_ActionContentInfo.xml

```

### 2.5.3 zman バンドル XML ファイル形式の理解

bundle-export-to-file コマンドは、データベースに保存されるバンドル情報を XML ファイルにシリアル化します。各バンドルには、[インストール] や [起動] などのアクションセットにグループ化されたアクションが含まれます。エクスポートされる XML ファイルには、UID、名前、パス、プライマリタイプ、サブタイプ、カテゴリ、システム要件、およびアクションセットやそれらのアクションについての情報など、バンドルに関する情報が含まれます。ファイルには、デバイスまたはユーザに対するバンドルの割り当て、およびバンドルのアドオンイメージについての情報は含まれていません。

サンプルの XML 形式のテンプレートである WindowsMSIBundle.xml は、/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles(Linux サーバ) および "%ZENWORKS\_HOME%\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles(Windows サーバ) で利用できます。

---

**注:** エクスポートされる XML ファイルに拡張 ASCII 文字が含まれている場合、ANSI エンコーディングでは拡張 ASCII 文字が文字化けとして表示されるため、ANSI エンコーディングではなく UTF-8 エンコーディングを使用して、エディタで開く必要があります。

---

XML ファイルからバンドルを作成する場合、zman では、ファイルの <Description>、<SubType>、<Category>、<ActionSets>、<SysReqs> の要素で指定されている情報を使用します。[名前] および [親フォルダ] の値は、コマンドラインラインから取得されます。残りの要素に対しては、デフォルト値が使用されます。

XML ファイルで作業するには、下記にリストされたガイドラインに従ってください。

- ◆ ファイルコンテンツまたは別のバンドルへの従属のないバンドルを作成する場合は、バンドルを作成するのに必要なのはバンドル XML ファイルだけです。
- ◆ コンテンツまたは別のバンドルへの従属性のあるバンドルを作成する場合、bundle-create コマンドの --actioninfo オプションの引数として、コンテンツファイルまたは従属バンドルのパスが含まれる追加の XML ファイルを提供する必要があります。  
サンプル XML フォーマットテンプレートである ActionInfo.xml は、/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/bundles(Linux サーバの場合) および ZENworks\_Installation\_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\bundles (Windows サーバの場合) にあります。
- ◆ エクスポートされた XML ファイルで、アクションの <Data> 要素を変更するには、新しいデータが正しく、スキーマに準拠していることを確認します。zman ユーティリティはデータの最低限の検証は行いますがデータ内のエラーチェックは行いません。したがって、バンドルは正常に作成されても、無効なデータの場合もあります。このようなバンドルは、管理対象デバイスに展開されると失敗します。
- ◆ ファイルコンテンツまたはバンドル従属性は、<ActionSet> の特定のアクションと関連付けられています。アクションコンテンツ情報 XML ファイルには、ファイルコンテンツが関連付けられているファイルのパスおよび <ActionSet> のアクションのインデックスが含まれている必要があります。  
たとえば、Windows MSI バンドルを作成する際インストールされる MSI ファイルは、作成された Windows MSI バンドルのインストールアクションセットの最初の MSI のインストールアクションに関連付けられます。
- ◆ <ActionSet> は type 属性によって指定されます。これは、バンドル XML ファイルのアクションセットタイプと同じである必要があります。
- ◆ <Action> 要素には名前属性があり (オプション)、ユーザによって読みやすいようになっています。
- ◆ index 属性は必須です。コンテンツまたは従属性が関連付けられているアクションを指定します。<ActionSet> の最初のアクションのインデックス値は 1 です。
- ◆ 各アクションには複数の <Content> 要素があり、それぞれ <ContentFilePath> 要素が含まれています。<ContentFilePath> 要素には、アクションに関連付けられるファイルコンテンツのパスが含まれています。ファイル名が、そのアクションに対する <Data> のバンドル XML ファイルで指定されているファイル名と同じであることを確認します。
- ◆ <Content> 要素の順序が、バンドル XML ファイルでの順序に対応していることを確認します。たとえば、Windows MSI バンドルには、最初の <Content> 要素に MSI ファイルがあり、次にそのアクションに対して <Data> で指定されている順序で MST ファイルへのパスを持つ <Content> 要素が続いています。

- ◆ Windows MSI バンドルを作成する場合、includeAllFilesinFolder および includeAllFilesinSubFolders の属性を True に設定して、フォルダまたはサブフォルダのすべてのファイルを含めることができます。別のバンドルへの従属性は、バンドルパスに <DependentBundlePath> 要素の値を与えることで指定できます。指定されたバンドルのパスは、次のように /バンドルに相対的である必要があります。

```
<ActionSet type="Install">
<Action name="Install MSI" index="1">
<Content>
<ContentFilePath includeAllFilesinFolder="false"
includeAllFilesinSubFolders="false">E:\files\ApplicationX.msi</
ContentFilePath>
</Content>
<Content>
<ContentFilePath includeAllFilesinFolder="false"
includeAllFilesinSubFolders="false">E:\files\ApplicationX_MST1.mst</
ContentFilePath>
</Content>
</Action>
<Action name="Install Bundle" index="2">
<DependentBundlePath>bundlefolder/ApplicationX-SP1</DependentBundlePath>
</Action>
</ActionSet>
```

- ◆ オブジェクトの UID を取得するには、object-get-GUID コマンドを使用します。次のシナリオでは、バンドル XML ファイルのオブジェクト UID を手動で編集する必要があります。
  - ◆ [バンドルインストール済み] システム要件では、バンドルのパスおよび UID は <SysReq> 要素の下の <BundleInstalledReq> 要素で変更される必要があります。
  - ◆ イメージングバンドルでは、.img ファイルが含まれるサーバの UID は、[ZENworks イメージ] および [マルチキャストイメージセット] アクションで手動で変更する必要があります。また、リンクされたアプリケーションバンドルの UID は、[リンクされたアプリケーションバンドル] および [マルチキャストイメージセット] のアクションで手動で変更する必要があります。バンドルがイメージバンドルにリンクされる際に自動的に作成されるわけではないため、リンクされたバンドルに手動で作成されたアドオンイメージがすでに存在することを確認します。





# バンドルの管理

Novell® ZENworks® Configuration Management Software の管理機能を使用して、ZENworks システムのソフトウェアおよびコンテンツを効率的に管理できます。

ディレクティブ、ファイル、イメージング、および Windows バンドル作成の詳細については、[19 ページの第 2 章「バンドルの作成」](#)を参照してください。イメージングバンドルの作成については、『[ZENworks 10 Configuration Management Preboot Services サービスおよびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

次のセクションでは、既存のバンドルの管理方法について説明します。

- ◆ [49 ページのセクション 3.1 「バンドルの作成」](#)
- ◆ [50 ページのセクション 3.2 「既存バンドルのデバイスへの割り当て」](#)
- ◆ [53 ページのセクション 3.3 「既存バンドルのユーザへの割り当て」](#)
- ◆ [56 ページのセクション 3.4 「バンドルのグループへの追加」](#)
- ◆ [58 ページのセクション 3.5 「バンドルの改名、コピー、または移動」](#)
- ◆ [59 ページのセクション 3.6 「バンドルのシステム要件の追加」](#)
- ◆ [65 ページのセクション 3.7 「バンドルのシステム要件のコピー」](#)
- ◆ [66 ページのセクション 3.8 「バンドル設定の管理」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 3.9 「バンドル変数の管理」](#)
- ◆ [68 ページのセクション 3.10 「バンドルの削除」](#)
- ◆ [68 ページのセクション 3.11 「バンドルのバージョンのカウントアップ」](#)
- ◆ [69 ページのセクション 3.12 「バンドルのインストール」](#)
- ◆ [70 ページのセクション 3.13 「バンドルの起動」](#)
- ◆ [71 ページのセクション 3.14 「バンドルのコンテンツサーバへのコピー」](#)
- ◆ [74 ページのセクション 3.15 「バンドルの展開防止」](#)
- ◆ [74 ページのセクション 3.16 「バンドル展開の有効化」](#)
- ◆ [74 ページのセクション 3.17 「バンドルのアンインストールを有効にする」](#)
- ◆ [76 ページのセクション 3.18 「バンドルのアンインストール」](#)
- ◆ [78 ページのセクション 3.19 「アクションセットオプションの変更」](#)
- ◆ [83 ページのセクション 3.20 「管理対象デバイスでのバンドル動作の表示」](#)
- ◆ [83 ページのセクション 3.21 「事前定義されたレポートの表示」](#)

## 3.1 バンドルの作成

ディレクティブバンドル、ファイルバンドル、および Windows バンドル作成の詳細な手順については、[19 ページの第 2 章「バンドルの作成」](#)を参照してください。イメージングバンドルの作成の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management Preboot Services およびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

## 3.2 既存バンドルのデバイスへの割り当て

バンドルの作成時には、デバイスやユーザを割り当てることも、配布、起動、または有効期限のスケジュールも指定することもなくオブジェクトが作成されます。割り当てられたデバイスでバンドルを使用するには、この手順のステップを完了しておく必要があります。

ZENworks コントロールセンターまたは `zman` コマンドラインユーティリティを使用して、バンドルを割り当てることができます。ZENworks コントロールセンターを使用してのバンドルの割り当て手順について、次に説明します。`zman` コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「[バンドルコマンド](#)」を参照してください。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、目的のバンドル名の隣にあるボックスをクリックしてバンドルを選択し、[アクション] をクリックして、[デバイスへの割り当て] をクリックします。

または

目的のバンドルをクリックし、[関係] をクリックします。[デバイス割り当て] パネルで、[追加] をクリックします。




バンドルをデバイスやユーザに配布するには、その前にデバイスやユーザに割り当てる必要があります。

個々のデバイス、ユーザ、フォルダ、またはグループにバンドルを割り当てることができます。バンドルの割り当てとしては、フォルダまたはグループにバンドルを割り当てるのが望ましい方法です。これにより、バンドル割り当ての管理が簡単になり、大量のアイテム(たとえば250を超えるアイテム)にバンドルを割り当てることによって引き起こされる可能性のある、サーバ使用率の高騰を抑えることができます。

- 3 [オブジェクトの選択] ダイアログボックスで、バンドルを割り当てるオブジェクトを参照して選択します。

Devices フォルダをルートフォルダとして [オブジェクトの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Servers フォルダおよび Workstations フォルダは、Devices フォルダで作成されたあらゆるカスタムフォルダとともに表示されます。

バンドルを割り当てるデバイスまたはユーザ、グループ、およびフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。

**3a** フォルダの隣にある  (たとえば、[ワークステーション] フォルダまたは [サーバ] の隣) をクリックし、選択したいデバイス、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[項目のタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。

**3b** [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。

**3c** [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

**4** バンドルのショートカットの場所を指定します。

ショートカット位置の割り当てを使用して、ZENworks Adaptive Agent によりバンドルのアイコンが表示される管理対象デバイスの位置を指定できます。指定可能な位置には次のものがあります。

**アプリケーションウィンドウ**：アプリケーションウィンドウ内にアイコンを配置します。この位置がデフォルトで選択されます。

**クイック起動**：Windows タスクバーのクイック起動エリアにアイコンを配置します。

**デスクトップ**：デバイスのデスクトップ上にアイコンを配置します。

**システムトレイ**：Windows のタスクバーにあるシステムトレイ (通知エリア) にアイコンを配置します。

**[スタート] メニュー**：すべての Windows デバイスの [スタート] メニューにアイコンを配置します。ただし Windows Vista\* は例外です。Windows Vista では、[スタート] > [すべてのプログラム] にアイコンを配置します。

Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューの外観を変更する、またはアプリケーションを [スタート] メニューに入れる場合は、[215 ページの付録 G「ベストプラクティス」](#) を参照してください。

**5** [次へ] をクリックして [スケジュール] ページを表示し、定義するスケジュールを選択します。

**配布スケジュール**：ZENworks サーバから管理対象デバイスまたはユーザへバンドルのコンテンツが配布される日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルのコンテンツは初回起動時にデバイスまたはユーザに配布されます。ただし、スケジュールではバンドルのアクションが実行される日時は定義していません。

**起動スケジュール**：ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルはユーザが起動した場合のみ起動されます。バンドルを起動する前に、ZENworks Adaptive Agent はバンドルが配布済み、インストール済みであることを確認します。バンドルがまだ配布されていない場合、エージェントはまずバンドルを配布して、バンドルのインストールアクションを実行してバンドルをインストールし、バンドルの起動アクションを実行して起動します。

**使用可能スケジュール:** バンドルがデバイスまたはユーザによって利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは常に利用可能です。

- 6 (条件付き) [配布スケジュール] をステップ 5 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの配布スケジュール] ページが表示されます。

配布スケジュールは、ZENworks サーバから管理対象のデバイスへバンドルが配布される日時を定義します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、バンドルが最初に起動された際にデバイスに配布されます。

- 7 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
- ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- ◆ [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)

- 8 必要に応じて、次のオプションを選択します：

**ウェイクオンラン:** デバイスがスケジュール時刻に作動していない場合、ZENworks は、WoL(Wake on LAN) 技術を使用して、デバイスの電源投入を試みます。デバイスがウェイクオンランをサポートしている必要があります。

**配布後直ちにインストール:** バンドルがデバイスに配布された後直ちにインストールアクションが実行されます。

**インストール後直ちに起動:** バンドルがインストールされた後直ちに起動アクションが実行されます。このオプションは [配布後直ちにインストール] オプションが有効になっている場合のみ選択できます。

- 9 (条件付き) [起動スケジュール] をステップ 5 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの起動スケジュール] ページが表示されます。

起動スケジュールは、ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を決定します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、ユーザが起動した時のみ、バンドルが起動されます。

- 10 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
- ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- ◆ [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)

- 11 (条件付き) [使用可能スケジュール] をステップ 5 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドル可用性スケジュール] ページが表示されます。

使用可能スケジュールは、バンドルが管理対象のデバイス上で利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。デフォルトスケジュール(スケジュールなし)では、バンドルは常に利用可能です。

スケジュールは、バンドルがインストールされているかどうかに関係なく適用されま  
す。たとえば、ユーザがまだバンドルをインストールしていない場合は、スケジュー  
ルで定義された時間にのみバンドルをインストールできます。すでにユーザがバンド  
ルをインストールしている場合、スケジュールで指定された時間にのみバンドルを実  
行できます。

- 12 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、  
フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンを  
クリックするか、次のセクションを参照してください。
  - 123 ページのセクション D.1 「特定の日付」
  - 125 ページのセクション D.4 「繰り返し」
- 13 [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて  
[戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 14 [終了] をクリックします。

### 3.3 既存バンドルのユーザへの割り当て

バンドルの作成時には、デバイスやユーザを割り当てることも、配布、起動、または有効  
期限のスケジュールも指定することもなくオブジェクトが作成されます。割り当てられた  
デバイスでバンドルを使用するには、この手順のステップを完了しておく必要がありま  
す。

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、  
バンドルを割り当てることができます。ZENworks コントロールセンターを使用してのバ  
ンドルの割り当て手順について、次に説明します。zman コマンドラインユーティリ  
ティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「バンドルコマンド」  
を参照してください。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、目的のバンドル名の隣にあるボックスをクリックしてバンド  
ルを選択し、[アクション] をクリックして、[ユーザへの割り当て] をクリックしま  
す。

または

目的のバンドルをクリックし、[関係] をクリックします。[デバイス割り当て] パネ  
ルで、[追加] をクリックします。

ステータス	名前	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン
	ZPM (詳細)	フォルダ			
	Directive Bundle	バンドルグループ			
	Group 1	バンドルグループ			
	Bundle	イメージングバンドル		はい	0
	Copy Bundle	ファイルバンドル		はい	0
✓	Directive Bundle	ディレクティブバンドル		はい	0
	Windows Application Bundle	Windowsバンドル		はい	0
	Windows Bundle	Windowsバンドル		はい	0


バンドルをデバイスやユーザに配布するには、その前にデバイスやユーザに割り当てる必要があります。

個々のデバイス、ユーザ、フォルダ、またはグループにバンドルを割り当てることができます。バンドルの割り当てとしては、フォルダまたはグループにバンドルを割り当てるのが望ましい方法です。これにより、バンドル割り当ての管理が簡単になり、大量のアイテム (たとえば 250 を超えるアイテム) にバンドルを割り当てることによって引き起こされる可能性のある、サーバ使用率の高騰を抑えることができます。

- 3** [オブジェクトの選択] ダイアログボックスで、バンドルを割り当てるオブジェクトを参照して選択します。

Users フォルダをルートフォルダとして、[オブジェクトの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、定義されたユーザソースと [ZENworks ユーザグループ] フォルダが表示されます。

バンドルを割り当てるデバイスまたはユーザ、グループ、およびフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。

- 3a** フォルダの隣にある  をクリックして、選択するユーザ、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ユーザ] や [ユーザグループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。

- 3b** [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、ユーザ、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。

- 3c** [OK] をクリックして、選択したユーザ、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

- 4** バンドルのショートカットの場所を指定します。

ショートカット位置の割り当てを使用して、ZENworks Adaptive Agent によりバンドルのアイコンが表示される管理対象デバイスの位置を指定できます。指定可能な位置には次のものがあります。

**アプリケーションウィンドウ** : アプリケーションウィンドウ内にアイコンを配置します。この位置がデフォルトで選択されます。

**クイック起動** : Windows タスクバーのクイック起動ツールバーエリアにアイコンを配置します。

**デスクトップ** : デバイスのデスクトップ上にアイコンを配置します。

**システムトレイ** : Windows のタスクバーにあるシステムトレイ (通知エリア) にアイコンを配置します。

**[スタート] メニュー** : すべての Windows デバイスの [スタート] メニューにアイコンを配置します。ただし Windows Vista\* は除きます。Windows Vista では、[スタート] > [すべてのプログラム] にアイコンを配置します。

Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューの外観を変更する、またはアプリケーションを [スタート] メニューに入れる場合は、[215 ページの付録 G 「ベストプラクティス」](#) を参照してください。

- 5** [次へ] をクリックして [スケジュール] ページを表示し、定義するスケジュールを選択します。



**配布スケジュール:** ZENworks サーバから管理対象デバイスまたはユーザへバンドルのコンテンツが配布される日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルのコンテンツは初回起動時にデバイスまたはユーザに配布されます。ただし、スケジュールではバンドルのアクションが実行される日時は定義していません。

**起動スケジュール:** ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルはユーザが起動した場合のみ起動されます。バンドルを起動する前に、ZENworks Adaptive Agent はバンドルが配布済み、インストール済みであることを確認します。バンドルがまだ配布されていない場合、エージェントはまずバンドルを配布して、バンドルのインストールアクションを実行してバンドルをインストールし、バンドルの起動アクションを実行して起動します。

**使用可能スケジュール:** バンドルがデバイスまたはユーザによって利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは常に利用可能です。

- 6 (条件付き) [配布スケジュール] を **ステップ 5** で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの配布スケジュール] ページが表示されます。

配布スケジュールは、ZENworks サーバから管理対象のデバイスへバンドルが配布される日時を定義します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、バンドルが最初に起動された際にデバイスに配布されます。

- 7 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
- ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- ◆ [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)

- 8 必要に応じて、次のオプションを選択します:

**ウェイクオンラン:** デバイスがスケジュール時刻に作動していない場合、ZENworks は、WoL(Wake on LAN) 技術を使用して、デバイスの電源投入を試みます。デバイスがウェイクオンランをサポートしている必要があります。

**配布後直ちにインストール:** バンドルがデバイスに配布された後直ちにインストールアクションが実行されます。

**インストール後直ちに起動:** バンドルがインストールされた後直ちに起動アクションが実行されます。このオプションは [配布後直ちにインストール] オプションが有効になっている場合のみ選択できます。

- 9 (条件付き) [起動スケジュール] を **ステップ 5** で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの起動スケジュール] ページが表示されます。

起動スケジュールは、ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を決定します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、ユーザが起動した時のみ、バンドルが起動されます。

- 10 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)

- ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
  - ◆ [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)
- 11** (条件付き) [使用可能スケジュール] を **ステップ 5** で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドル可用性スケジュール] ページが表示されます。
- 使用可能スケジュールは、バンドルが管理対象のデバイス上で利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。デフォルトスケジュール (スケジュールなし) では、バンドルは常に利用可能です。
- スケジュールは、バンドルがインストールされているかどうかに関係なく適用されません。たとえば、ユーザがまだバンドルをインストールしていない場合は、スケジュールで定義された時間にのみバンドルをインストールできます。すでにユーザがバンドルをインストールしている場合、スケジュールで指定された時間にのみバンドルを実行できます。
- 12** [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。
- ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
  - ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- 13** [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 14** [終了] をクリックします。

バンドルを Active Directory のユーザに割り当てる場合、ZENworks サーバで Active Directory の DNS 名を解決できる場合にのみユーザに割り当てることができます。

## 3.4 バンドルのグループへの追加

既存の任意のバンドルグループにバンドルを追加したり、割り当て処理の一部として新規のバンドルグループを作成したりできます。バンドルは、グループの割り当ておよびスケジュールを継承します。つまり、バンドルごとに個別に管理するよりも、1つのバンドルグループとして管理することによって時間を節約します。バンドルをグループに追加することは、バンドルをグループ (ユーザまたはデバイス) に割り当てることと同じことではありません。バンドルをデバイスに割り当てる詳細については、[既存バンドルのデバイスへの割り当て](#)を参照してください。バンドルをユーザに割り当てる詳細については、[既存バンドルのユーザへの割り当て](#)を参照してください。

- 1** ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2** [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3** [アクション] > [グループに追加] の順にクリックします。



バンドル						
ステータス	名前	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン	
<input type="checkbox"/>	ZPM (詳細)	フォルダ				
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	バンドルグループ				
<input type="checkbox"/>	Group 1	バンドルグループ				
<input type="checkbox"/>	Bundle	イメージングバンドル		はい	0	
<input type="checkbox"/>	Copy Bundle	ファイルバンドル		はい	0	
<input checked="" type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル		はい	0	
<input type="checkbox"/>	Windows Application Bundle	Windowsバンドル		はい	0	
<input type="checkbox"/>	Windows Bundle	Windowsバンドル		はい	0	

- 4 オブジェクトを追加するグループがすでに存在する場合は、[選択済みの項目を既存グループに追加する] を選択します。

または


選択済みのオブジェクトのために新規グループを作成する必要がある場合は、[選択済みの項目を含めるために新規グループを作成する] を選択します。

- 5 (条件付き) [選択した項目を既存のグループに追加します] をステップ 4 で選択した場合は、[次] をクリックすると [ターゲット] ページが表示されます。

[ターゲット] ページでは、オブジェクト (ユーザ、デバイス、バンドル、ポリシー) を追加するグループを選択できます。

5a [追加] をクリックして、[グループの選択] ダイアログボックスを表示します。

5b オブジェクトを追加するグループを参照して選択します。手順は次のとおりです。

5b1 フォルダの隣にある  をクリックして、選択するグループを見つけるまでフォルダを移動します。

探しているグループの名前がわかる場合は、[項目名] ボックスを使用してグループを検索できます。

5b2 [名前] カラムで下線リンクをクリックして、グループを選択し、[選択済み] リストで名前を表示します。

5b3 ステップ 5b1 およびステップ 5b2 を繰り返して、[選択済み] リストに追加デバイスを追加します。

5b4 グループを選択したら、[OK] をクリックします。

- 6 (条件付き) [選択済みの項目を含めるために新規グループを作成する] をステップ 4 で選択した場合は、[次] をクリックして [基本情報] ページを表示し、フィールドに入力します。

[名前] : グループの名前を入力します。グループ名は、同じフォルダにある他のオブジェクト (グループ、フォルダ、デバイス、ユーザ、バンドル、ポリシーなど) の名前とは異なっている必要があり、ZENworks オブジェクトの命名規則に準拠している必要があります。

命名規則の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。

**フォルダ**：デフォルトでは、グループは現在のフォルダで作成されます。別のフォルダにグループを作成する場合は、フォルダを参照して選択します。

**説明**：グループの目的またはコンテンツの短い定義を入力します。

- 7 [次へ] をクリックして [概要] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 8 [終了] をクリックして、選択済みオブジェクトをグループに追加します。

## 3.5 バンドルの改名、コピー、または移動

[バンドル] ページの [編集] ドロップダウンリストを使用して既存のオブジェクトを編集します。[編集] ドロップダウンリストにアクセスするには、リストのオブジェクト名の隣のチェックボックスをクリックしてオブジェクトを選択する必要があります。

選択したオブジェクトのタイプに応じて、選択したオブジェクトの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。たとえば、バンドルオブジェクトを選択すると、バンドルの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。バンドルグループオブジェクトを選択した場合は、バンドルグループオブジェクトの名前を変更あるいは移動できますが、コピーはできません。オプションが非表示になっている場合、選択されたオブジェクトタイプに対してそのオプションは使用可能ではありません。

複数のオブジェクトに対しては実行できないアクションもあります。たとえば、複数のチェックボックスを選択した場合は、[リネーム] オプションを [編集] メニューで使用することはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル名の隣のボックスを選択し、[編集] をクリックしてから、オプションをクリックします。

<input type="checkbox"/>	ステータス	名前	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン
<input checked="" type="checkbox"/>		Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>		Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>		FileBundle	ファイルバンドル	ファイルのコピー	はい	0
<input type="checkbox"/>		Imaging Script #1	イメージングバンドル	イメージングスクリプト	はい	0
<input type="checkbox"/>		MSI	Windowsバンドル	MSIアプリケーション	はい	0

**リネーム**：[リネーム] をクリックして、バンドルに新しい名前を付け、[OK] をクリックします。

**重要**：ただし、Windows MSP バンドルの名前は変更しないでください。

**コピー**：[コピー] をクリックして、コピーに新しい名前を付け、[OK] をクリックします。

コピーオプションは、既存のバンドルに似た新規バンドルを作成するのに便利です。バンドルをコピーしてから、新規バンドルの設定を編集できます。

**移動:** [移動] をクリックして、選択したオブジェクトの宛先フォルダを選択してから、[OK] をクリックします。

バンドルの名前を変更あるいは移動しても、割り当てはそのまま残り、ZENworks Configuration Management では名前や場所が変更したからといってバンドルをデバイスやユーザに再配布することはありません。

## 3.6 バンドルのシステム要件の追加

[システム要件] パネルによって、配布されるバンドルについてデバイスが満たす必要のある特定の要件を定義できます。

フィルタを使用して、要件を定義します。フィルタは、バンドルを適用するためにデバイスが満たす必要のある条件です。たとえば、フィルタを追加して、バンドルを適用するためにちょうど 512 MB の RAM がデバイスにあるように指定することができます。また、別のフィルタを追加して、ハードドライブのサイズが少なくとも 20 GB あるように指定することもできます。

バンドルのシステム要件を追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 該当するバンドルの下線付きリンクをクリックして、バンドルの概要ページを表示します。
- 3 [要件] タブをクリックします。
- 4 [フィルタの追加] をクリックして、ドロップダウンリストからフィルタ条件を選択し、フィールドに値を入力します。

フィルタを構築するには、使用できる条件と希望する結果を取得するためのフィルタの分類方法を知っておく必要があります。詳細については、[59 ページのセクション 3.6.1 「フィルタ条件」](#) および [64 ページのセクション 3.6.2 「フィルタロジック」](#) を参照してください。

- 5 (条件付き) フィルタとフィルタセットを追加します。
- 6 [適用] をクリックして、設定を保存します。

---

**注:** バンドルのシステム要件を定義した後、その要件をコピーして他のバンドルまたはポートに適用することができます。これを行うには、[バンドル] タブをクリックし、バンドルの前のチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックし、[システム要件のコピー] をクリックして、[バンドル] または [ポリシー] を選択します。次に、[追加] をクリックして選択したバンドルのシステム要件をコピーする宛先のバンドルまたはポリシーを選択します。

---


### 3.6.1 フィルタ条件

フィルタを作成する場合は、次の条件のいずれかを選択できます。使用例を含むツールヒント表示の入力が必要なフィールドにマウスポインタを合わせます。

**アーキテクチャ:** デバイスで動作する Windows\* のアーキテクチャを決定します。使用して要件を設定する条件には、プロパティ、演算子、およびプロパティ値があります。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] ) および次と等しくない ( [ < > ] ) です。たとえば、条件を architecture = 32 に設定する場合は、デバイスの Windows オペレーティングシステムは要件を満たすには、32 ビットである必要があります。

**関連付け:** バンドルの割り当て先であるユーザおよびデバイス数が決定されます。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] ) および次と等しくない ( [ < > ] ) です。可能な値は、[ユーザ] および [デバイス] です。たとえば、条件を =100 users に設定する場合は、要件を満たすためにユーザの合計数は 100 になる必要があります。

**バンドルインストール済み:** 特定のバンドルがインストールされているかどうかを決定します。バンドルを指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすために指定済みバンドルはすでにインストールされている必要があります。[いいえ] を選択する場合は、バンドルはインストールされていない必要があります。

 をクリックしてバンドルを参照して指定する場合、ディレクティブバンドルは管理対象のデバイスにインストールできないので、既存のディレクティブバンドルはどれも選択できません。

**接続済み:** デバイスがネットワークに接続されているかどうかを決定します。使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすためにデバイスはネットワークに接続されている必要があります。[いいえ] を選択する場合は、接続されていない必要があります。

**接続速度:** デバイスのネットワークへの接続速度を決定します。使用して要件を設定する条件には、オペレータおよび値があります。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ < > ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ > = ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ < = ] ) です。可能な値は、毎秒ビット ( [ bps ] )、毎秒キロビット ( [ Kbps ] )、毎秒メガビット ( [ Mbps ] )、および毎秒ギガビット ( [ Gbps ] ) です。たとえば、条件を >= 100 Mbps に設定する場合は、要件を満たすために接続速度は秒ごとに 100 メガビット以上である必要があります。

**ディスク空き容量:** デバイスのディスク空き容量が決定されます。使用して要件を設定する条件には、ディスク指定、オペレータ、および値があります。ディスク指定は、ローカルドライブマップが可能です (たとえば c: または d:)。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ < > ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ > = ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ < = ] ) です。可能な値は、バイト ( [ バイト ] )、キロバイト ( [ KB ] )、メガバイト ( [ MB ] )、およびギガバイト ( [ GB ] ) です。たとえば、条件を c: >= 80 MB に設定する場合は、要件を満たすためにディスク空き容量は 80 メガバイト以上である必要があります。

**ディスク容量合計:** デバイスのディスク容量合計が決定されます。使用して要件を設定する条件には、ディスク指定、オペレータ、および値があります。ディスク指定は、ローカルドライブマップが可能です (たとえば c: または d:)。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ < > ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ > = ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ < = ] ) です。可能な値は、バイト ( [ バイト ] )、キロバイト ( [ KB ] )、メガバイト ( [ MB ] )、およびギガバイト ( [ GB ] ) です。たとえば、条件を c: >= 40 GB に設定する場合は、要件を満たすためにディスク容量合計は 40 ギガバイト以上である必要があります。

**使用済みディスク容量：**デバイスの使用済みディスク容量が決定されます。使用して要件を設定する条件には、ディスク指定、オペレータ、および値があります。ディスク指定は、ローカルドライブマップが可能です (たとえば c: または d:)。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [<> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。可能な値は、バイト ( [ バイト ] )、キロバイト ( [ KB ] )、メガバイト ( [ MB ] )、およびギガバイト ( [ GB ] ) です。たとえば、条件を c: <= 10 GB に設定する場合は、要件を満たすために使用済みディスク容量は 10 ギガバイト以下である必要があります。

**環境変数あり：**特定の環境変数がデバイスにあるかどうかを決定します。環境変数を指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすために環境変数はデバイスにある必要があります。[いいえ] を選択する場合は、存在しない必要があります。

**環境変数値：**環境変数値がデバイスにあるかどうかを決定します。使用して要件を設定する条件には、環境変数、オペレータ、および変数値があります。環境変数は、環境変数にサポートされるオペレーティングシステムならどれでも可能です。可能なオペレータは、[次と等しい]、[次と等しくない]、[含む]、[含まない] です。可能な変数値は、環境変数によって決定されます。たとえば、条件を Path contains c:\windows\system32 に設定する場合は、要件を満たすために Path 環境変数には c:\windows\system32 パスが含まれる必要があります。

**ファイルの日付：**ファイルの日付を決定します。使用して要件を設定する条件には、ファイル名、オペレータ、および日付があります。ファイル名は、オペレーティングシステムによってサポートされるファイル名ならどれでも可能です。可能なオペレータは、[オン]、[以降]、[>= 以降]、[以前]、および [ <= 以前 ] です。可能な日付は、あらゆる有効日付です。たとえば、条件を app1.msi on or after 6/15/07 に設定する場合は、要件を満たすために app1.msi ファイルは 6/15/2007 の日付以降である必要があります。

**ファイルが存在します：**ファイルが存在するかどうかを判断します。ファイル名を指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすために指定済みのファイルが存在する必要があります。[いいえ] を選択する場合は、ファイルは存在しません。

**ファイルサイズ：**ファイルのサイズを決定します。使用して要件を設定する条件には、ファイル名、オペレータ、およびサイズがあります。ファイル名は、オペレーティングシステムによってサポートされるファイル名ならどれでも可能です。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [<> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。可能なサイズは、バイト ( [ バイト ] )、キロバイト ( [ KB ] )、メガバイト ( [ MB ] )、およびギガバイト ( [ GB ] ) で指定されます。たとえば、条件を doc1.pdf <= 3 MB に設定する場合は、要件を満たすために doc1.pdf ファイルは 3 メガバイト以下である必要があります。

**ファイルバージョン：**ファイルのバージョンを決定します。要件を設定するのに使用する条件には、ファイル名、オペレータ、およびバージョンがあります。ファイル名は、オペレーティングシステムによってサポートされるファイル名ならどれでも可能です。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [<> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。

ファイルのバージョン番号には、メジャー、マイナー、リビジョン、ビルドの4つのコンポーネントがあることに注意してください。たとえば、`calc.exe` のファイルバージョンは `5.1.2600.0` のようになります。それぞれのコンポーネントは独立して扱われます。このため、設定したシステム要件から予期した結果が得られないことがあります。4つのコンポーネントで指定しないものがあれば、ワイルドカードと見なされます。

たとえば、条件を `calc.exe <= 5` に設定すると、バージョン番号の最初のコンポーネント (メジャー) だけを指定していることになります。この結果、`5.0.5`、`5.1`、および `5.1.1.1` のバージョンも条件に一致します。

ただし、それぞれのコンポーネントは独立しているため、条件を `calc.exe <= 5.1` に設定した場合は、条件を満たす `calc.exe` ファイルはバージョン `5.1` 以下になります。

**IP セグメント** : デバイスの IP アドレスが決定されます。CIDR(Classless Inter-Domain Routing) 形式を使用して IP セグメント名を指定した後に、要件の設定に使用できる2つの条件は、`[はい]` および `[いいえ]` です。`[はい]` を選択する場合は、デバイスの IP アドレスが IP セグメントを満たす必要があります。`[いいえ]` を選択する場合は、IP アドレスは IP セグメントを満たさない必要があります。

CIDR 形式を使用して IP アドレスを指定する必要があります。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの10進数の部分が、8ビットずつの4つのバイトから構成される32ビットの2進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (`/n`) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。`/n` の数は `0 ~ 32` のいずれかで、`8`、`16`、`24`、および `32` が通常使われる数です。例:

`123.45.67.12/16:123.45` で始まるすべての IP アドレスと一致します。

`123.45.67.12/24:123.45.67` で始まるすべての IP アドレスと一致します。

**プライマリワークステーションにログオンしました** : ユーザがプライマリワークステーションにログオンしているかどうかを確認します。使用して要件に設定できる2つの条件は、`[はい]` および `[いいえ]` です。`[はい]` を選択した場合、要件を満たすにはユーザがプライマリワークステーションにログオンしている必要があります。`[いいえ]` を選択した場合、ユーザがワークステーションにログオンしていないと要件は満たされません。ただし、プライマリユーザ以外のユーザがワークステーションにログオンしている場合、要件は満たされます。

**メモリ** : デバイスにあるメモリ量を決定します。使用して要件を設定する条件には、オペレータおよびメモリ量があります。可能な演算子は、次と等しい (`[=]`)、次と等しくない (`[<>]`)、より大きい (`[>]`)、より大きいまたは次と等しい (`[>=]`)、より小さい (`[<]`)、およびより小さいまたは次と等しい (`[<=]`) です。メモリ量は、メガバイト単位 (`[MB]`) およびギガバイト単位 (`[GB]`) で指定されます。たとえば、条件を `>= 2 GB` に設定する場合は、要件を満たすためにデバイスには少なくとも2ギガバイトのメモリがある必要があります。

**Novell Client インストール済み** : デバイスが Novell® Client™ をネットワーク接続に使用しているかどうかを決定します。使用して要件に設定できる2つの条件は、`[はい]` および `[いいえ]` です。`[はい]` を選択する場合は、要件を満たすためにデバイスで Novell Client が使用されている必要があります。`[いいえ]` を選択する場合は、Novell Client を使用していない必要があります。

**オペレーティングシステム - Windows** : デバイス上で実行されている、サービスパックレベル、サーバタイプ、および Windows\* のバージョンが決定されます。使用して要件を設定する条件には、プロパティ、演算子、およびプロパティ値があります。考えられるプロパティには、サービスパック、サーバタイプ、およびバージョンです。可能な演算子は、



次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ <> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。プロパティ値は、プロパティによって異なります。たとえば、条件を version = Windows XP に設定する場合、要件を満たすには、デバイスの Windows バージョンは XP である必要があります。

---

**注:** オペレーティングシステムのバージョン番号には、メジャー、マイナー、リビジョン、ビルドの 4 つのコンポーネントがあります。たとえば、Windows 2000 SP4 リリースの番号は 5.0.2159.262144 で、それぞれのコンポーネントは独立して処理されます。このため、設定したシステム要件から予期した結果が得られないことがあります。

たとえば、最初のフィールドに [オペレーティングシステム - Windows]、2 番目のフィールドに [バージョン]、3 番目のフィールドに [ > ]、最後のフィールドに [5.0 - Windows 2000 バージョン] と指定した場合、バージョン番号の最初の 2 つのコンポーネント、メジャー (Windows) とマイナー (5.0) のみを指定したことになります。このため、要件が True と評価されるには、OS は少なくとも 5.1 (Windows XP) である必要があります。Windows 2003 はバージョン 5.2 なので、「 > 5.2 」と指定しても true と評価されます。

ただし、各コンポーネントは依存しないため、バージョンを > 5.0 と指定すると、Windows 2000 SP4 は false と評価されます。これは、実際のバージョン番号が 5.0.2159.262144 であるためです。5.0.0 と入力すると、実際のリビジョンコンポーネントが 0 より大きいため、要件が true と評価されます。

ドロップダウンリストから OS バージョンを選択すると、メジャーおよびマイナーコンポーネントに値が入力されます。リビジョンおよびビルドコンポーネントは手動で入力する必要があります。

---

**プライマリユーザのログイン:** デバイスのプライマリユーザがログインしているかどうかを決定します。使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすためにはプライマリユーザがログインしている必要があります。[いいえ] を選択する場合は、ユーザはログインしていません。

**プロセッサファミリ:** デバイスのプロセッサタイプを決定します。使用して要件を設定する条件には、オペレータおよびプロセッサファミリがあります。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] ) および次と等しくない ( [ <> ] ) です。可能なプロセッサファミリは、[Pentium]、[Pentium Pro]、[Pentium II]、[Pentium III]、[Pentium 4]、[Pentium M]、[WinChip]、[Duron]、[BrandID]、[Celeron]、および [Celeron M] です。たとえば、条件を < Celeron に設定する場合は、デバイスのプロセッサは、要件を満たすためには Celeron\* 以外のプロセッサファミリが可能です。

**プロセッサ速度:** デバイスのプロセッサ速度を決定します。使用して要件を設定する条件には、オペレータおよびプロセッサ速度があります。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ <> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。可能なプロセッサの速度は、ヘルツ ( [ Hz ] )、キロヘルツ ( [ KHz ] )、メガヘルツ ( [ MHz ] )、およびギガヘルツ ( [ GHz ] ) です。たとえば、条件を >= 2 GHz に設定する場合は、要件を満たすためにデバイスの速度は少なくとも 2 ギガヘルツである必要があります。

**レジストリキーの存在:** レジストリキーが存在するかどうかを決定します。キー名を指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[はい] および [いいえ] です。[はい] を選択する場合は、要件を満たすために指定済みのキーが存在する必要があります。[いいえ] を選択する場合は、キーは存在しません。

**レジストリキー値：**レジストリキー値が定義された条件を満たしているかどうかを判断します。要件に設定して使用する条件には、キー名、値名、オペレータ、値タイプ、値データがあります。キー名と値名は、確認するキー値を識別する必要があります。可能な演算子は、次と等しい ( [= ] )、次と等しくない ( [ <> ] )、より大きい ( [ > ] )、より大きいまたは次と等しい ( [ >= ] )、より小さい ( [ < ] )、およびより小さいまたは次と等しい ( [ <= ] ) です。可能な値タイプは、[ 整数タイプ ] および [ 文字列タイプ ] です。可能な値データは、キー、値名、および値タイプによって決定されます。

値タイプが文字列タイプの場合で、レジストリの実際のタイプが REG\_STRING または REG\_EXPANDED\_STRING の場合、ZCM はレジストリ内の値のみを比較します。

値タイプが整数の場合で、レジストリの実際のタイプが REG\_DWORD の場合、ZCM はレジストリ内の値のみを比較します。

キー値のフィールドは空白にして、デフォルト値を使用します。レジストリキーのデフォルト値には名前がなく、regedit に ( デフォルト ) と表示されます。

**レジストリキーおよび値あり：**レジストリキーおよび値が存在するかどうかを決定します。キー名および値を指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[ はい ] および [ いいえ ] です。[ はい ] を選択する場合は、要件を満たすために指定済みのキーおよび値が存在する必要があります。[ いいえ ] を選択する場合は、キーおよび値は存在しません。

**サービスが存在します：**サービスが存在するかどうかを判断します。サービス名を指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[ はい ] および [ いいえ ] です。[ はい ] を選択する場合は、要件を満たすためにサービスが存在する必要があります。[ いいえ ] を選択する場合は、サービスは存在しません。

**指定デバイス：**デバイスが指定済みデバイスであるかどうかを決定します。デバイスを指定後に、使用して要件に設定できる 2 つの条件は、[ はい ] および [ いいえ ] です。[ はい ] を選択する場合は、要件を満たすためにデバイスは指定済みデバイスリストに含まれている必要があります ( 包括リスト )。[ いいえ ] を選択する場合は、デバイスはリストに含まれていない必要があります ( 排他リスト )。

## 3.6.2 フィルタロジック

1 つまたは複数のフィルタを使用してバンドルがデバイスに配布されるかどうかを決定します。デバイスは、デバイスに適用されるバンドルのエンティティフィルタリスト全体に一致する必要があります ( 論理オペレータによって決定されるように )。

使用するフィルタ数には技術的な制限はありませんが、次のように実用上の制限があります。

- ◆ わかりやすいフィルタ構造の設計
- ◆ フィルタが競合しないようなフィルタの分類

### フィルタ、フィルタセット、および論理演算子

フィルタを個別に追加またはフィルタをセットで追加できます。AND または OR のどちらかの論理オペレータを使用して、フィルタとフィルタセットのどちらかを結合します。デフォルトでは、フィルタは OR で結合され ( [ 次の項目を使用してフィルタを結合 ] フィールドで決定する場合 )、フィルタセットは AND で結合されます。デフォルトを変



更して、AND を使用してフィルタを結合することもできます。この場合は、自動的にフィルタセットは OR で結合されます。つまり、個別フィルタ (セット内) を結合する論理オペレータは、フィルタセットの間の結合に使用するオペレータとは逆になります。

これらの論理オペレータ作業方法は簡単に表示できます。[フィルタの追加] と [フィルタセットの追加] のオプションをそれぞれ数回クリックしてから、[次の項目を使用してフィルタを結合] フィールドで AND および OR を切り換えて、オペレータの変更方法を表示します。

フィルタとフィルタセットを構築する場合には、代数的な表記法の挿入語句に関して考えることができます。この場合、フィルタは挿入句内に含まれ、セットは挿入句のグループの連続に分けられます。論理演算子 (AND および OR) は、括弧内のフィルタを分け、演算子は挿入語句を分けるのに使用されます。

たとえば、「(u AND v AND w) OR (x AND y AND z)」は「uvw または xyz のどちらかに一致する」という意味です。フィルタリストでは、このようになります：

```
u AND
v AND
w
OR
x AND
y AND
z
```

### ネストされたフィルタおよびフィルタセット

フィルタおよびフィルタセットはネストできません。連続して入力のみを行うことができ、デバイスに一致する最初のフィルタまたはフィルタセットを使用します。したがって、リストされた順序は問題ではありません。単純に一致するものを探し、バンドルをデバイスに適用します。

## 3.7 バンドルのシステム要件のコピー

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルの横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [システム要件のコピー] の順にクリックします。



複数のチェックボックスを選択する場合は、[システム要件のコピー] オプションを [編集] メニューで使用することはできません。

- 4 [バンドル] または [ポリシー] を選択してから、[追加] をクリックして、選択したバンドルのシステム要件をコピーするバンドルまたはポリシーを選択します。

## 3.8 バンドル設定の管理

[設定] ページでは、バンドルで使用できる変数や、ZENworks® プライマリサーバおよびサテライトデバイスのコンテンツ複製設定などのバンドル設定を管理できます。

設定は、次の場所から継承できます。

- ◆ **(システム)**: バンドルは、管理ゾーン向けに規定された設定を継承します ( [環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] )。
- ◆ **フォルダ**: バンドルは、親フォルダについて確立された設定を継承します。
- ◆ **デバイス**: バンドルは設定を継承しませんが、設定はバンドルで直接構成されます。
- ◆ **--**: バンドルは設定を継承せず、設定はバンドルで直接構成されません。つまり、設定はシステムレベル、フォルダレベル、またはバンドルレベルでは構成されません。

バンドルの設定を行うには、次の手順に従います。

- 1 [バンドル管理] をクリックします。
- 2 設定名をクリックします。
- 3 設定をシステムレベルまたはフォルダレベルで構成する場合は、[設定の上書き] をクリックして、バンドルレベルでの設定を構成できます。
- 4 次のフィールドに必要事項を入力します。

フィールドについての情報を取得するには、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のリストから適切なトピックを選択します。

- ◆ **システム変数**: 管理ゾーンから継承した変数や、自身で定義した新しい変数など、デバイスで使用できる変数を管理できます。  
コンテンツ複製の詳細については、[67 ページのセクション 3.9 「バンドル変数の管理」](#)を参照してください。
- ◆ **プライマリサーバ複製**: プライマリサーバへのコンテンツ複製を管理できます。システムに追加した新しいプライマリサーバをバンドルのホストとして割り当てるかどうか指定できます。指定したプライマリサーバでのホスト対象にバンドルを含めるか除外するかを指定することもできます。  
コンテンツ複製の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[コンテンツの複製](#)」を参照してください。
- ◆ **サテライトサーバ複製**: サテライトデバイスへのコンテンツ複製を管理できます。システムに追加した新しいサテライトをバンドルのホストとして割り当てるかどうか指定できます。指定したサテライトでのホスト対象にバンドルを含めるか除外するかを指定することもできます。  
コンテンツ複製の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[コンテンツの複製](#)」を参照してください。

## 3.9 バンドル変数の管理

[Bundles Settings( バンドル設定 )] ページでは、バンドルで使用できる変数を管理できます。

[引き継いだ変数] パネルには、ZENworks® Management Zone または親フォルダから継承したシステム変数すべてが表示されます。引き継いだ変数を削除または変更することはできません。ただし、同じシステム変数を追加する場合で、別の値を割り当てる場合は、新しい変数値は引き継いだ変数の値を上書きします。

フィールド内で変数を指定する場合は、次の構文を使用します。

```
#{VAR_NAME}
```

VAR\_NAME を変数名で置き換えます。

[システム変数] パネルでは、情報を入力する際に、パス、名前、その他を置き換えるのに使用できる変数を定義します。

システム変数は以下の3つのレベルで定義できます。

- ◆ **管理ゾーン**: システム変数はデバイスフォルダ、デバイス、およびバンドルに継承されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**: システム変数はフォルダまたはそのサブフォルダ内に含まれるすべてのデバイスによって継承されます。
- ◆ **デバイスまたはバンドル**: システム変数は、それが設定されたデバイスまたはバンドルのみに適用されます。

以下の表はシステム変数を管理するために実行できるタスクの一覧です。

タスク	手順	追加の詳細
変数の追加	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 管理ゾーン全体ではなく、オブジェクトに対してシステム変数を設定する場合は、[設定の上書き] をクリックして、[システム変数] パネルをアクティブ化します。</li><li>2. [追加] をクリックし、変数の名前と値を入力し、[OK] をクリックします。</li><li>3. [適用] をクリックします。</li></ol>	<p>オブジェクトに対してシステム変数を設定する場合、新規の変数を同じ名前、値を違うものを指定して定義することで、継承された変数を上書きできます。たとえば、Var1=c:\が継承される場合、Var1=d:\ を定義して上書きできます。</p> <p>変数名には空白を含むことができず、定義されるレベルにおいて一意的である必要があります。たとえば、デバイスレベルで定義された Var1 という名前の変数を2つ使用することはできません(一方が継承される場合は、デバイスレベルの変数により継承された変数が上書きされるので使用可能)。</p> <p>変数値に &amp; や &lt; の文字を含めることはできません。</p>
変数の削除	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 変数 (複数可) の横にあるチェックボックスをオンにします。</li><li>2. [削除] をクリックします。</li><li>3. [適用] をクリックします。</li></ol>	

タスク	手順	追加の詳細
変数の編集	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変数の横のチェックボックスをオンにします。</li> <li>2. [編集] をクリックします。</li> <li>3. [名前] および [値] フィールドをお好みに変更し、[OK] をクリックします。</li> <li>4. [適用] をクリックします。</li> </ol>	<p>変数名には空白を含むことができません。定義されるレベルにおいて一意的である必要があります。たとえば、デバイスレベルで定義された Var1 という名前の変数を 2 つ使用することはできません (一方が継承される場合は、デバイスレベルの変数により継承された変数が上書きされるので使用可能)。</p> <p>変数値に &amp; や &lt; の文字を含めることはできません。</p>
変数の使用	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用する構文は次のとおりです。  <pre> <code> \${VAR_NAME} </code> </pre> VAR_NAME を変数名で置き換えます。 </li> </ol>	

## 3.10 バンドルの削除

バンドルを削除すると、バンドルコンテンツは ZENworks コンテンツサーバから削除されますが、すでにインストールされているデバイスからのアンインストールはされません。デバイスからコンテンツをアンインストールするには、バンドルを削除する前に、[アンインストール] オプションを使用する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

## 3.11 バンドルのバージョンのカウントアップ

バンドルのバージョンをカウントアップすると、バンドルは管理対象デバイスに再展開され、コンテンツサーバに再コピーされます。

**注:** コンテンツサーバにすでに複製されているバンドルの従属関係を変更する場合、バンドルを再展開して、バンドルで必要になるすべての従属関係を各コンテンツサーバにもたす必要があります。このプロセスは、バンドルのバージョンのカウントアップとは異なります。詳細については、16 ページの「[従属関係を更新するためのバンドルの再展開](#)」を参照してください。

### 3.11.1 [アクション] メニューの使用

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [バージョンをカウントアップ] の順にクリックします。

バンドル						
ステータス	名前	カテゴリ	使用可能	バージョン		
<input type="checkbox"/>	Applications	アプリケーション				
<input type="checkbox"/>	BundleGroup	バンドルグループ				
<input checked="" type="checkbox"/>	Calc	Windowsバンドル	シンプルアプリケーション	はい	0	
<input type="checkbox"/>	Directive	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0	
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0	
<input type="checkbox"/>	FileBundle	ファイルバンドル	ファイルのコピー	はい	0	
<input type="checkbox"/>	Imaging Script #1	イメージングバンドル	イメージングスクリプト	はい	0	
<input type="checkbox"/>	MSI	Windowsバンドル	MSIアプリケーション	はい	0	

- 4 [バージョンのカウントアップの確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

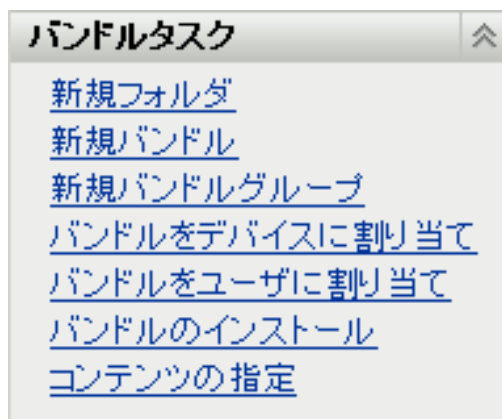
### 3.11.2 バンドルの編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [バージョンをカウントアップ] をクリックします。
- 4 [バージョンのカウントアップの確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

## 3.12 バンドルのインストール

ZENworks コントロールセンターの左側のナビゲーションペインにあるバンドルタスクリストの [バンドルのインストール] オプションを使用すると、即座にバンドルを1つ以上のデバイスにインストールできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル(複数可)の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 左側のナビゲーションペインのバンドルタスク] リストで、[バンドルのインストール] を選択します。




4 [デバイス] セクションで、[追加] をクリックして、バンドルをインストールするデバイスを選択します。

5 [オブジェクトの選択] ダイアログボックスで、バンドルをインストールするオブジェクトを参照して選択します。

Devices フォルダをルートフォルダとして [オブジェクトの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Servers フォルダおよび Workstations フォルダは、Devices フォルダで作成されたあらゆるカスタムフォルダとともに表示されます。

バンドルを割り当てるデバイス、グループ、およびフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。

5a フォルダ (たとえばワークステーションフォルダまたはサーバフォルダなど) の隣にある  をクリックして、選択するデバイス、ユーザ、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。

5b [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。

5c [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

6 [OK] をクリックします。

バンドルがまだデバイスに割り当てられていない場合は、バンドルのアイコンはデバイスのアプリケーションウィンドウに配置されます。

### 3.13 バンドルの起動

[バンドルの起動] オプションを使用すると、即座に1つ以上のデバイスでバンドルを起動できます。バンドルがまだインストールされていない場合は、インストールしてから起動されます。

1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

2 [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。

3 [クイックタスク] > [バンドルの起動] をクリックします。




ステータス	名前	カテゴリ	使用可能	バージョン
<input type="checkbox"/>	Applications (詳細)			
<input type="checkbox"/>	BundleGroup	バンドルグループ		
<input checked="" type="checkbox"/>	Calc	Windowsバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	FileBundle	ファイルバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	Imaging Script #1	イメージングバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	MSI	Windowsバンドル	はい	0

4 [デバイス] セクションで、[追加] をクリックして、バンドルを起動するデバイスを選択します。

5 [オブジェクトの選択] ダイアログボックスで、バンドルを起動するオブジェクトを参照して選択します。

Devices フォルダをルートフォルダとして [オブジェクトの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Servers フォルダおよび Workstations フォルダは、Devices フォルダで作成されたあらゆるカスタムフォルダとともに表示されます。

バンドルを割り当てるデバイス、グループ、およびフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。

5a フォルダ (たとえばワークステーションフォルダまたはサーバフォルダなど) の隣にある  をクリックして、選択するデバイス、ユーザ、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。

5b [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。

5c [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

6 [OK] をクリックします。

バンドルがまだデバイスに割り当てられていない場合は、バンドルのアイコンはデバイスのアプリケーションウィンドウに配置されます。

## 3.14 バンドルのコンテンツサーバへのコピー

デフォルトでは、バンドルは各コンテンツサーバにコピーされます。特定のコンテンツサーバをホストとして指定する場合は、バンドルはそのコンテンツサーバでのみホストされます。これは、すべてのコンテンツサーバにはコピーされません。選択したバンドルを、管理ゾーンに追加される新しいコンテンツサーバ (ZENworks Servers とサテライトサーバ) に複製するかどうかも指定できます。

コンテンツサーバを指定するには、次の手順に従います。

1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

2 [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。

3 [アクション] > [コンテンツサーバの指定] をクリックして [新しいコンテンツ複製ルール] ページを表示します。



コンテンツの指定	
🔧 ステップ 1: 新規サーバコンテンツリプリケーションルール	
システムに追加された新しいサーバがこのウィザードで選択されたコンテンツを複製するかどうかを選択します。	
 <b>警告:</b> このウィザードで選択されたコンテンツとサーバ間で以前に設定されたコンテンツリプリケーション関係は失われます。	
選択したコンテンツについて、システムに追加される新しいサーバ用にデフォルトのリプリケーション動作を選択してください:	
新規 <b>プライマリ</b> サーバ:	
<input checked="" type="radio"/> このコンテンツを含める <input type="radio"/> このコンテンツを除外する	
新規 <b>サテライト</b> サーバ:	
<input checked="" type="radio"/> このコンテンツを含める <input type="radio"/> このコンテンツを除外する	
<input data-bbox="971 667 1091 697" type="button" value=" &lt;&lt; 戻る "/> <input data-bbox="1097 667 1218 697" type="button" value=" 次 &gt;&gt; "/> <input data-bbox="1224 667 1351 697" type="button" value=" キャンセル "/>	

- 4 システムに追加された新しいサーバに対するデフォルトの複製動作を指定します。
- ◆ **新しいプライマリサーバは次を実行します。**システムに追加する新しいZENworks Primary Server に対してデフォルトの複製動作を指定します。
    - ◆ 次のコンテンツを含めます。後で作成する任意のサーバにコンテンツを複製します。
    - ◆ 次のコンテンツを除外します。後で作成する任意のサーバに対する複製からコンテンツを除外します。
  - ◆ **新しいサテライトサーバでは以下が実行されます。**システムに追加する新しいZENworks サテライトサーバに対してデフォルトの複製動作を指定します。
    - ◆ 次のコンテンツを含めます。後で作成する任意のサーバにコンテンツを複製します。
    - ◆ 次のコンテンツを除外します。後で作成する任意のサーバに対する複製からコンテンツを除外します。

コンテンツとサーバの間で事前に設定された任意のコンテンツの複製関係は、このウィザードの完了時に失われます。

- 5 [次へ] をクリックすると、[コンテンツサーバ/配布ポイントの包含または除外] ページが表示されます。



コンテンツの指定  
ステップ 2: プライマリサーバ/サテライトサーバを含めるまたは除外

使用可能なコンテンツサーバから、このウィザードで選択されたコンテンツを複製する必要のあるすべてのサーバを選択します。指定したコンテンツは、含まれるとしてマークされていないすべてのサーバから削除されます。

**警告:** このウィザードで選択されたコンテンツとサーバ間で以前に設定されたコンテンツレプリケーション関係は失われます。

除外プライマリサーバ	>	<	包括プライマリサーバ
デバイス/サーバ/krobinson2 デバイス/サーバ/Primary Server 1 デバイス/サーバ/Primary Server 2			
除外サテライトサーバ	>	<	包括サテライトサーバ
デバイス/サーバ/Satellite Server 1 デバイス/サーバ/Satellite Server 2 デバイス/サーバ/DP 1 デバイス/サーバ/DP 2			
<input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" &lt;&lt; 戻る "/> <input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" 次 &gt;&gt; "/> <input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" キャンセル "/>			

このページでは、コンテンツがホストされるコンテンツサーバ (ZENworks サーバおよびサテライトサーバ) を指定します。

このウィザードを使用して作成するコンテンツとコンテンツサーバ間の関係は、既存の関係より優先されます。たとえば、バンドル A が現在サーバ 1 とサーバ 2 でホストされており、このウィザードを使用してサーバ 1 でだけホストする場合、バンドル A はサーバ 2 から除外され、次回スケジュールされているレプリケーションの際に削除されます。

**5a** [除外したプライマリサーバ] または [除外したサテライトサーバ] リストでは、必要なコンテンツサーバを選択します。

<Shift> または <Ctrl> を押しながらかlickすると、複数のバンドルまたはポリシーを選択できます。

サテライトサーバの ZENworks 親サーバに含めなければ、サテライトサーバにコンテンツを含めることはできません。サテライトサーバとその親の両方を選択する必要があります。

**5b**  のボタンをクリックして、選択したコンテンツサーバを [含めたプライマリサーバ] または [含めたサテライトサーバ] リストに移動します。

**6** [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。

**7** [完了] をクリックして、コンテンツとコンテンツサーバ間のリレーションシップを作成します。作成したリレーションシップに応じて、コンテンツは次にスケジュールされたコピーの際にコンテンツサーバに (またはコンテンツサーバから) コピーまたは削除されます。

## 3.15 バンドルの展開防止

無効なバンドルは、新しい管理対象デバイスまたはコンテンツサーバに展開されません。すでに展開されているデバイスおよびコンテンツサーバ上に残ります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル(複数可)の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [無効化] の順にクリックします。



## 3.16 バンドル展開の有効化

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル(複数可)の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [有効化] の順にクリックします。

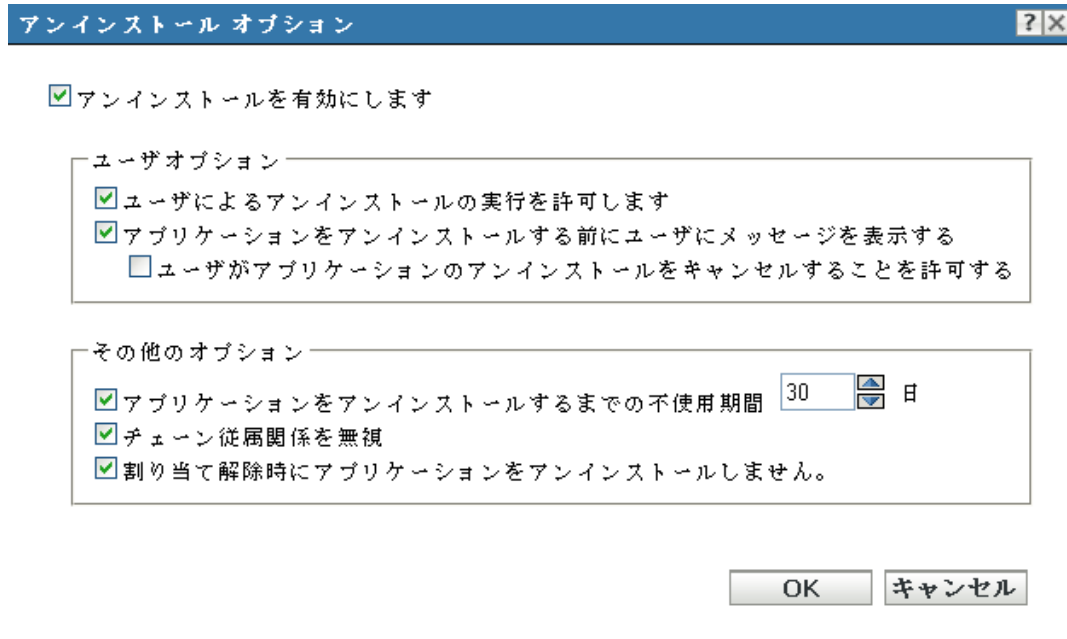


## 3.17 バンドルのアンインストールを有効にする

バンドルを作成すると、[インストールアクションを元に戻す] はデフォルトで有効になりますが、[アンインストールアクションセット] は有効になりません。したがって、([インストールアクションを元に戻す] を含む) アクションセット内のいずれかのアクションを実行するには、アクションセットを有効にする必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [アクション] タブをクリックしてから、[アンインストール] タブをクリックします。
- 4 [オプション] をクリックして、[アンインストールオプション] ダイアログボックスを表示します。



- 5 [アンインストールを有効にします] オプションを選択します。次のアンインストールオプションは、[アンインストールを有効にします] オプションが選択されている場合のみ使用できます。

**ユーザオプション：**

デバイスからアプリケーションをアンインストールしたり、アンインストールをキャンセルしたりすることをユーザに許可するかどうか指定します。

**ユーザによるアンインストールの実行を許可します：**このオプションを選択すると、ユーザがデバイスからアプリケーションを削除できるようになります。

**Display message to the user before uninstalling the application (アプリケーションのアンインストールの前にメッセージを表示します)：**デバイスからアプリケーションがアンインストールされることをユーザに警告するメッセージを表示したい場合は、このオプションを選択します。

**Allow user to cancel the uninstallation of the application (ユーザによるアプリケーションのアンインストールのキャンセルを許可します)：**ユーザがアプリケーションのアンインストールをキャンセルできるようにする場合は、このオプションを選択します。このオプションを有効にできるのは、[アプリケーションのアンインストールの前にメッセージを表示します] が有効になっている場合だけです。

**その他のオプション：**

デバイスからアプリケーションのアンインストールを有効にする場合の追加オプションを指定します。

**アプリケーションをアンインストールするまでの不使用期間:** このオプションを選択すると、指定された日数 (デフォルトは 30 日) アプリケーションを実行していない場合に、そのアプリケーションを自動的に削除します。

**チェーン従属関係を無視:** このオプションを選択すると、2 つ以上のアプリケーションで参照される依存アプリケーションをアンインストールできます。たとえば、3 つのアプリケーション (A、B、および C) があり、C は依存アプリケーションとします。アプリケーション A はアプリケーション C をインストールし、アプリケーション B はアプリケーション C をアンインストールするとします。アプリケーション C は [チェーン従属関係を無視] がオンの場合にのみアンインストールされます。

**Do not uninstall application on unassignment (割り当て解除時にアプリケーションをアンインストールしません):** このオプションを選択すると、デバイスまたはユーザから割り当て解除されたアプリケーションはアンインストールされなくなります。

6 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。

## 3.18 バンドルのアンインストール


[バンドルのアンインストール] クイックタスクによって、1 つまたは複数のデバイスからバンドルをアンインストールできます。ただし、バンドルのアンインストールによって、割り当てを削除したり、バンドルが再インストールされないようにすることはできません。

---

**注:** [バンドルのアンインストール] タスクを使用するには、バンドルのアンインストールオプションを有効にして (デフォルトでは無効)、バンドルのバージョンを高くして、デバイスを更新する必要があります。詳細については、[74 ページのセクション 3.17 「バンドルのアンインストールを有効にする」](#) および [68 ページのセクション 3.11 「バンドルのバージョンのカウントアップ」](#) を参照してください。


---

バンドルをアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドル (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [クイックタスク] > [バンドルのアンインストール] をクリックします。
- 4 [バンドル] セクションで、 をクリックして目的のバンドルを参照して選択します (必要な場合)。
- 5 [デバイス] セクションで、[追加] をクリックして、バンドルをアンインストールするデバイスを選択します。
- 6 [オブジェクトの選択] ダイアログボックスで、バンドルをアンインストールするオブジェクトを参照して、選択します。

Devices フォルダをルートフォルダとして [オブジェクトの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Servers フォルダおよび Workstations フォルダは、Devices フォルダで作成されたあらゆるカスタムフォルダとともに表示されます。

バンドルを割り当てるデバイス、グループ、およびフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。

- 6a フォルダ (たとえばワークステーションフォルダまたはサーバフォルダなど) の隣にある  をクリックして、選択するデバイス、ユーザ、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。


[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。

- 6b [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。
- 6c [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

7 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。

ZENworks コントロールセンターによってアンインストールの失敗が表示される場合、その詳細についてはデバイスのログファイルを確認してください。


### 3.18.1 バンドル

をクリックして参照し、目的のバンドルを選択します(必要な場合)。

### 3.18.2 デバイス

バンドルを削除するデバイスを選択します。バンドルがそのデバイスに以前に割り当てられ、インストールされていた可能性があるため、バンドルが現在割り当てられていないデバイスを参照して、選択できます。

- 1 [デバイス] セクションで [追加] をクリックします。

バンドルをデバイスから削除しているため、[割り当ての追加] ダイアログボックスでは [デバイス] フォルダがルートフォルダとして開きます。デフォルトでは、Servers フォルダおよび Workstations フォルダは、Devices フォルダで作成されたあらゆるカスタムフォルダとともに表示されます。
- 2 バンドルを削除するデバイス、デバイスグループ、およびデバイスフォルダを参照して、選択します。手順は次のとおりです。
  - 2a フォルダの隣にある  (たとえば、[ワークステーション] フォルダまたは [サーバ] の隣) をクリックし、選択したいデバイス、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。また、探しているアイテムの名前が分かっている場合は、[アイテム名] ボックスを使用して、アイテムを検索できます。
  - 2b [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。
  - 2c [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

## 3.19 アクションセットオプションの変更

バンドルを作成すると、デフォルトでは、すべてのアクションが有効になります。つまり、アクションセットに追加した場合に、それらのアクションは、アクションセットのオプションに従って実行されます。ただし、一部のアクションセットは、デフォルトでは有効になりません。インストール、起動、および停止アクションセットは、有効になります。つまり、アクションを追加すると、そのアクションは、割り当てられたデバイスで、アクションセットのオプションに従って実行されます。アンインストールアクションセットは、デフォルトでは、有効になりません。

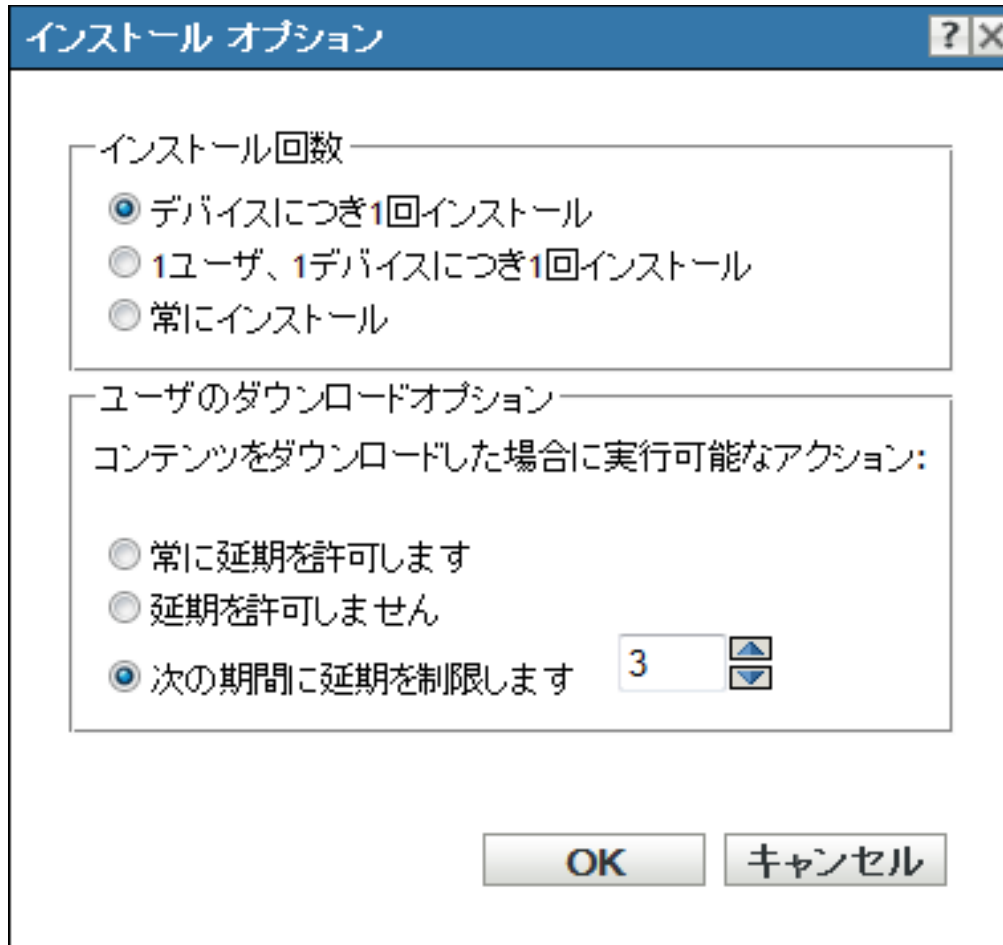
次のセクションでは、アクションセットオプションの変更と、アンインストールアクションセットの有効化について説明します。

- ◆ [78 ページのセクション 3.19.1 「インストールアクションセットのオプション」](#)
- ◆ [80 ページのセクション 3.19.2 「起動アクションセットのオプション」](#)
- ◆ [81 ページのセクション 3.19.3 「アンインストールアクションセットのオプション」](#)
- ◆ [82 ページのセクション 3.19.4 「停止アクションセットのオプション」](#)

### 3.19.1 インストールアクションセットのオプション

[インストールオプション] ダイアログボックスでは、バンドルのインストールアクションが管理対象デバイスで実行される頻度を指定し、ユーザがバンドルのインストールを延期できるかどうかを指定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [アクション] タブをクリックしてから、[インストール] タブをクリックします。
- 4 [オプション] をクリックして、[インストールオプション] ダイアログボックスを表示します。



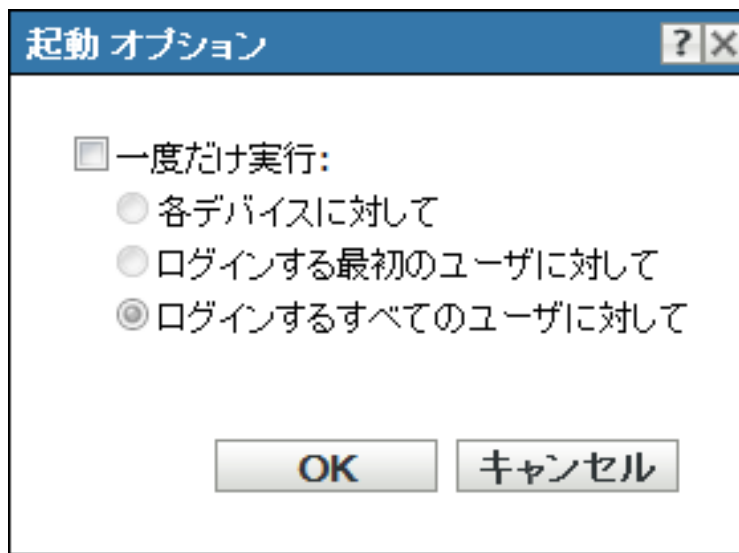
- 5 バンドルのインストールアクションを実行する頻度を指定します。
- デバイスにつき1回インストール:** バンドルのインストールアクションを各管理対象デバイスで1回実行します。
- 1ユーザ、1デバイスにつき1回インストール:** バンドルのインストールアクションを各管理対象デバイスの各ユーザに対して1回実行します。
- 常にインストール:** 管理対象デバイスでバンドルが実行されるたびにバンドルのインストールアクションを実行します。
- 6 バンドルのインストールアクションの実行をユーザが延期できるかどうかを指定します。また、許可する延期数を指定します。
- 常に延期を許可します:** ユーザはインストールを何回でも延期できます。
- 延期を許可しません:** ユーザはインストールを延期できません。
- 次の期間に延期を制限します:** ユーザがインストールを延期できる回数を指定します。
- 7 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。



### 3.19.2 起動アクションセットのオプション

[Launch Options( 起動オプション)] ダイアログボックスでは、管理対象デバイスでバンドルの起動アクションが実行される頻度を設定できます。デフォルトでは、起動アクションは、バンドルのスケジュールに従って実行されるか、ユーザがショートカットを使用してバンドルを(アプリケーションウィンドウ、デスクトップなどから)起動するときに実行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [アクション] タブをクリックしてから、[起動] タブをクリックします。
- 4 [オプション] をクリックして、[起動オプション] ダイアログボックスを表示します。



- 5 次のフィールドに入力します：  
一度だけ実行：このオプションを選択し、バンドルの起動アクションを設定して、次に示すいずれかのオプションを選択します。このオプションを選択しなかった場合(デフォルト)は、バンドルに含まれるアプリケーションをユーザが起動するたびに、起動アクションが実行されます。
  - ◆ 各デバイスに対して：バンドルのアクションを各管理対象デバイスに1回起動します。
  - ◆ ログインする最初のユーザに対して：各管理対象デバイスに最初のユーザがログインしたときにバンドルのアクションを1回起動します。その後ユーザがデバイスにログインしても、アクションセットは実行されません。このオプションを選択すると、バンドルのアイコンは、デバイスのアプリケーションウィンドウ、デスクトップなどから削除されます。
  - ◆ ログインするすべてのユーザに対して：デバイスにログインするすべてのユーザにバンドルのアクションを起動します。
- 6 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。



### 3.19.3 アンインストールアクションセットのオプション

[アンインストールオプション] ダイアログボックスでは、アプリケーションのアンインストールを有効にしたり、ユーザがアンインストールを実行することを許可したり、アプリケーションが一定の日数使用されていない場合、そのアプリケーションをアンインストールするように指定したりすることができます。

バンドルを作成すると、[インストールアクションを元に戻す] はデフォルトで有効になりますが、[アンインストールアクションセット] は有効になりません。したがって、([インストールアクションを元に戻す] を含む) アクションセット内のいずれかのアクションを実行するには、アクションセットを有効にする必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [アクション] タブをクリックしてから、[アンインストール] タブをクリックします。
- 4 [オプション] をクリックして、[アンインストールオプション] ダイアログボックスを表示します。

アンインストール オプション

アンインストールを有効にします

ユーザオプション

- ユーザによるアンインストールの実行を許可します
- アプリケーションをアンインストールする前にユーザにメッセージを表示する
- ユーザがアプリケーションのアンインストールをキャンセルすることを許可する

その他のオプション

- アプリケーションをアンインストールするまでの不使用期間 30 日
- チェーン従属関係を無視
- 割り当て解除時にアプリケーションをアンインストールしません。

OK キャンセル

- 5 [アンインストールを有効にします] オプションを選択します。次のアンインストールオプションは、[アンインストールを有効にします] オプションが選択されている場合のみ使用できます。

#### ユーザオプション:

デバイスからアプリケーションをアンインストールしたり、アンインストールをキャンセルしたりすることをユーザに許可するかどうか指定します。

**ユーザによるアンインストールの実行を許可します:** このオプションを選択すると、ユーザがデバイスからアプリケーションを削除できるようになります。

**Display message to the user before uninstalling the application ( アプリケーションのアンインストールの前にメッセージを表示します ):** デバイスからアプリケーションがアンインストールされることをユーザに警告するメッセージを表示したい場合は、このオプションを選択します。

**Allow user to cancel the uninstallation of the application ( ユーザによるアプリケーションのアンインストールのキャンセルを許可します ):** ユーザがアプリケーションのアンインストールをキャンセルできるようにする場合は、このオプションを選択します。このオプションを有効にできるのは、[アプリケーションのアンインストールの前にメッセージを表示しません] が有効になっている場合だけです。

**その他のオプション:**

デバイスからアプリケーションのアンインストールを有効にする場合の追加オプションを指定します。

**アプリケーションをアンインストールするまでの不使用期間:** このオプションを選択すると、指定された日数 ( デフォルトは 30 日 ) アプリケーションを実行していない場合に、そのアプリケーションを自動的に削除します。

**チェーン従属関係を無視:** このオプションを選択すると、2 つ以上のアプリケーションで参照される依存アプリケーションをアンインストールできます。たとえば、3 つのアプリケーション ( A、B、および C ) があり、C は依存アプリケーションとします。アプリケーション A はアプリケーション C をインストールし、アプリケーション B はアプリケーション C をアンインストールするとします。アプリケーション C は [チェーン従属関係を無視] がオンの場合にのみアンインストールされます。

**Do not uninstall application on unassignment ( 割り当て解除時にアプリケーションをアンインストールしません ):** このオプションを選択すると、デバイスまたはユーザから割り当て解除されたアプリケーションはアンインストールされなくなります。

- 6 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。

### 3.19.4 停止アクションセットのオプション

[終了オプション] ダイアログボックスでは、バンドルのアクションが終了できることを指定できます。この設定は、バンドルに使用可能スケジュールがある場合に使用されます。たとえば、バンドルが 1 p.m. と 5 p.m. の間にのみインストールできる場合、バンドルが 5 p.m. にインストール中であれば、このインストールプロセスは終了されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [アクション] タブをクリックしてから、[停止] タブをクリックします。
- 4 [オプション] をクリックして、[終了オプション] ダイアログボックスを表示します。
- 5 [終了を有効にしません] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 6 [OK] をクリックしてから、[適用] をクリックします。

## 3.20 管理対象デバイスでのバンドル動作の表示

管理対象デバイスへのバンドルの配布、インストール、検証、アンインストール中にバンドル動作インジケータウィンドウを表示できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、[名前] カラムのバンドルの下線付きリンクをクリックすると [概要] ページが表示されます。
- 3 [全般] パネルで、[バンドル動作の表示] に対して [はい] をクリックします。
- 4 バンドルのバージョンを増やすには [バージョンをカウントアップ] をクリックします。
- 5 [バージョンのカウントアップの確認] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

動作インジケータは、管理対象デバイス上のユーザに、ファイルのダウンロードや MSI のインストールなどの ZENworks のアクティビティがデバイスで実行されていることを通知するために使用されます。管理対象デバイスのユーザは、このバンドル動作インジケータウィンドウを閉じられません。

Windows 2000 デバイスでは、管理対象デバイス上のバンドル実行の進行状況を示すコントロールは、バンドル動作インジケータウィンドウに表示されません。

## 3.21 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks Reporting Server をインストールしておく必要があります。ZENworks Reporting Server のインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

バンドルに対して事前定義されたレポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks Reporting Server の [レポーティング] パネルで、[ZENworks Reporting Server Info View] をクリックして ZENworks Reporting Server InfoView を起動します。
- 3 *Novell ZENworks Reports > Predefined Reports > Bundles and Policies* フォルダに移動します。
- 4 バンドル用には、次の事前定義されたレポートが付属しています。
  - **デバイス別に割り当てられたバンドルおよびポリシー**：特定のデバイスに割り当てられているすべてのバンドルとポリシーに関する情報を表示します。
  - **バンドルの展開ステータス**：デバイス名、展開ステータス、およびバンドル名を入力するようプロンプトを表示し、バンドルの展開の詳細を表示します。
  - **バンドル情報**：名前、タイプ、パス、バージョン、バンドルの割り当て先デバイスの情報など、バンドルの詳細を表示します。
  - **サーバ別コンテンツ**：選択したサーバのコンテンツ情報を表示します。コンテンツ名、コンテンツタイプ、レプリケーション状態、ディスク容量などの情報が含まれます。

- ◆ **バンドルおよびポリシー別コンテンツ** : バンドルのコンテンツ情報を表示します。コンテンツサーバ、コンテンツタイプ、レプリケーション状態、ディスク容量などの情報が含まれます。

レポートの作成と管理の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システムレポーティングリファレンス](#)』マニュアルを参照してください。

# バンドルグループの管理

バンドルグループを使用すると、バンドルをグループ化して管理を容易にすることができ、バンドルグループ内でのバンドルの割り当ておよびスケジューリングが簡単になります。

ZENworks® コントロールセンターまたは `zman` コマンドラインユーティリティを使用して、バンドルグループを作成できます。このセクションでは、ZENworks コントロールセンターを使用してこの作業を実行する方法を説明します。`zman` コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』の「バンドルコマンド」を参照してください。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 85 ページのセクション 4.1 「バンドルグループの作成」
- ◆ 86 ページのセクション 4.2 「バンドルグループのリネームまたは移動」
- ◆ 87 ページのセクション 4.3 「バンドルグループのシステム要件のコピー」
- ◆ 87 ページのセクション 4.4 「バンドルグループの削除」
- ◆ 87 ページのセクション 4.5 「バンドルグループのデバイスへの割り当て」
- ◆ 90 ページのセクション 4.6 「バンドルグループのユーザへの割り当て」
- ◆ 92 ページのセクション 4.7 「バンドルをグループに追加する」
- ◆ 92 ページのセクション 4.8 「バンドルグループをコンテンツサーバにコピーする」

## 4.1 バンドルグループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [新規] > [バンドルグループ] の順にクリックします。

ステータス	名前	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン
<input type="checkbox"/>	フォルダ...				
<input type="checkbox"/>	バンドルグループ...	ms (詳細)	フォルダ		
<input type="checkbox"/>	BundleGroup	バンドルグループ			
<input type="checkbox"/>	Calc	Windowsバンドル	シンプルアプリケーション	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	FileBundle	ファイルバンドル	ファイルのコピー	はい	0
<input type="checkbox"/>	Imaging Script #1	イメージングバンドル	イメージングスクリプト	はい	0
<input type="checkbox"/>	MSI	Windowsバンドル	MSIアプリケーション	はい	0

- 3 次のフィールドに入力します：

**グループ名** : バンドルグループの名前を入力します。名前は、同じフォルダにある他の項目 (バンドル、グループ、フォルダなど) の名前と異なる必要があります。入力した名前は、ZENworks コントロールセンターに表示されます。

詳細については、「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。

**フォルダ** : バンドルを配置する ZENworks コントロールセンターフォルダの名前を入力するか、参照して選択します。デフォルトは /バンドルですが、バンドルを分類する追加フォルダを作成できます。

別のフォルダにグループを作成する場合は、フォルダを参照して選択します。デフォルトでは、グループは現在のフォルダで作成されます。

**説明** : バンドルグループのコンテンツの短い説明を入力します。この説明は、ZENworks コントロールセンターに表示されます。


- 4 [次] をクリックして [グループメンバーの追加] ページを表示し、グループのメンバーとするバンドルを指定します。

バンドルはいくつでもグループに追加できます。別のバンドルグループをグループに追加することはできません。

- 4a [追加] をクリックして、[メンバーの選択] ダイアログボックスを表示します。

バンドルを追加しようとしているため、[メンバーの選択] ダイアログボックスは Bundles フォルダが表示された状態で開きます。

- 4b グループに追加するバンドルを参照して選択します。手順は次のとおりです。

- 4b1 フォルダの隣にある  をクリックして、選択するバンドルを見つけるまでフォルダを移動します。

探しているバンドルの名前がわかる場合は、[項目名] ボックスを使用してバンドルを検索できます。

- 4b2 [名前] カラムで下線リンクをクリックして、バンドルを選択し、[選択済み] リストで名前を表示します。

- 4b3 (オプション) ステップ 4a からステップ 4b を繰り返して、[選択済み] リストに追加バンドルを追加します。

- 4b4 [OK] をクリックして、選択済みバンドルをグループに追加します。

- 5 [次へ] をクリックして [概要] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。

- 6 (オプション) [作成後に詳細を設定] オプションを選択して、グループの作成後にグループのプロパティページが表示されるようにします。その後、追加のバンドルプロパティを設定できます。

- 7 [終了] をクリックすると、グループが作成されます。

バンドルグループのコンテンツをデバイスまたはユーザに配布する前に、[87 ページのセクション 4.5 「バンドルグループのデバイスへの割り当て」](#) または [90 ページのセクション 4.6 「バンドルグループのユーザへの割り当て」](#) を進める必要があります。

## 4.2 バンドルグループのリネームまたは移動

[バンドル] ページの [編集] ドロップダウンリストを使用して既存のオブジェクトを編集します。[編集] ドロップダウンリストにアクセスするには、リストのオブジェクト名の隣のチェックボックスをクリックしてオブジェクトを選択する必要があります。

選択したオブジェクトのタイプに応じて、選択したオブジェクトの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。たとえば、バンドルオブジェクトを選択すると、バンドルの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。バンドルグループオブジェクトを選択した場合は、バンドルグループオブジェクトの名前を変更あるいは移動できますが、コピーはできません。オプションが非表示になっている場合、選択されたオブジェクトタイプに対してそのオプションは使用可能ではありません。

複数のオブジェクトに対しては実行できないアクションもあります。たとえば、複数のチェックボックスを選択した場合は、[リネーム] オプションを [編集] メニューで使用することはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループ名の隣のボックスを選択し、[編集] をクリックしてから、オプションをクリックします。  
リネーム:[リネーム] をクリックして、フォルダに新しい名前を付け、[OK] をクリックします。  
移動:[移動] をクリックして、選択したオブジェクトの宛先フォルダを選択してから、[OK] をクリックします。

## 4.3 バンドルグループのシステム要件のコピー

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループの横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [システム要件のコピー] の順にクリックします。  
複数のチェックボックスを選択する場合は、[システム要件のコピー] オプションを [編集] メニューで使用することはできません。
- 4 [バンドル>] または [ポリシー] を選択してから、[追加] をクリックして、選択したバンドルグループのシステム要件をコピーするバンドルまたはポリシーを選択します。

## 4.4 バンドルグループの削除

バンドルグループを削除しても、バンドルは削除されません。また、バンドルは、すでにインストールされたデバイスからアンインストールされません。バンドルをデバイスからアンインストールするには、バンドルグループを削除する前に、各バンドルで [アンインストール] オプションを使用する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループ (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

## 4.5 バンドルグループのデバイスへの割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループ (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [デバイスへの割り当て] をクリックします。



4 グループの割り当て先であるデバイス、デバイスグループ、およびデバイスフォルダを参照して選択します。手順は次のとおりです。

**4a** フォルダの隣にある (たとえば、[ワークステーション] フォルダまたは [サーバ] の隣) をクリックし、選択したいデバイス、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。

[ワークステーション] や [ワークステーショングループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[項目のタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。また、探している項目の名前が分かっている場合は、[項目名] ボックスを使用して、項目を検索できます。

**4b** [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、デバイス、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。

**4c** [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [デバイス] リストに追加します。

5 ZENworks Adaptive Agent によってバンドルグループのアイコンを表示させる管理対象デバイス上のロケーションを指定します。選択可能な場所は次のとおりです。

**アプリケーションウィンドウ** : アプリケーションウィンドウ内にアイコンを配置します。

**デスクトップ** : デバイスのデスクトップ上にアイコンを配置します。

**クイック起動** : Windows タスクバーのクイック起動エリアにアイコンを配置します。

**[スタート] メニュー** : [スタート] メニュー上にアイコンを配置します。

**システムトレイ** : Windows のタスクバーにあるシステムトレイ (通知エリア) にアイコンを配置します。

6 [次へ] をクリックして [スケジュール] ページを表示し、定義するスケジュールを選択します。

- ◆ **配布スケジュール** : ZENworks サーバから管理対象デバイスまたはユーザーへバンドルが配布される日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは初回起動時にデバイスまたはユーザーに配布されます。

- ◆ **起動スケジュール** : ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルはユーザーが起動した場合にのみ起動されます。



- ◆ **使用可能スケジュール**：バンドルがデバイスまたはユーザによって利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは常に利用可能です。
- 7 (条件付き) [配布スケジュール] をステップ 6 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの配布スケジュール] ページが表示されます。
- 配布スケジュールは、ZENworks サーバから管理対象のデバイスへバンドルが配布される日時を定義します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、バンドルが最初に起動された際にデバイスに配布されます。
- 8 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。
- ◆ 125 ページのセクション D.3 「今すぐ」
  - ◆ 123 ページのセクション D.1 「特定の日付」
  - ◆ 125 ページのセクション D.4 「繰り返し」
  - ◆ 124 ページのセクション D.2 「イベント」
- 9 必要に応じて、次のオプションを選択します：
- ウェイクオンラン**：デバイスがスケジュール時刻に作動していない場合、ZENworks は、WOL(Wake on LAN) 技術を使用して、デバイスの電源投入を試みます。デバイスがウェイクオンランをサポートしている必要があります。
- 配布後直ちにインストール**：バンドルがデバイスに配布された後直ちにインストールアクションが実行されます。
- インストール後直ちに起動**：バンドルがインストールされた後直ちに起動アクションが実行されます。このオプションは [配布後直ちにインストール] オプションが有効になっている場合のみ選択できます。
- 10 (条件付き) [起動スケジュール] をステップ 6 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの起動スケジュール] ページが表示されます。
- 起動スケジュールは、ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を決定します。デフォルトのスケジュール(スケジュールなし)は、ユーザが起動した時のみ、バンドルが起動されます。
- 11 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。
- ◆ 123 ページのセクション D.1 「特定の日付」
  - ◆ 125 ページのセクション D.4 「繰り返し」
  - ◆ 124 ページのセクション D.2 「イベント」
- 12 (条件付き) [使用可能スケジュール] をステップ 6 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドル可用性スケジュール] ページが表示されます。
- 使用可能スケジュールは、バンドルが管理対象のデバイス上で利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。デフォルトスケジュール(スケジュールなし)では、バンドルは常に利用可能です。

スケジュールは、バンドルがインストールされているかどうかに関係なく適用されません。たとえば、ユーザがまだバンドルをインストールしていない場合は、スケジュールで定義された時間にのみバンドルをインストールできます。すでにユーザがバンドルをインストールしている場合、スケジュールで指定された時間にのみバンドルを実行できます。

- 13 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のリンクをクリックしてください。
  - ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
  - ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- 14 [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 15 [終了] をクリックします。

## 4.6 バンドルグループのユーザへの割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループ (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [ユーザへの割り当て] をクリックします。



- 4 グループの割り当て先であるユーザ、ユーザグループ、およびユーザフォルダを参照して選択します。手順は次のとおりです。
  - 4a フォルダの隣にある をクリックして、選択するユーザ、グループ、またはフォルダが見つかるまでフォルダを移動します。  
[ユーザ] や [ユーザグループ] などの特定のアイテムを探す場合は、[アイテムタイプ] リストを使用して、表示されるアイテムのタイプを制限できます。また、探している項目の名前が分かっている場合は、[項目名] ボックスを使用して、項目を検索できます。
  - 4b [名前] 列にある下線付きのリンクをクリックし、ユーザ、グループ、またはフォルダを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。
  - 4c [OK] をクリックして、選択済みのデバイス、フォルダ、およびグループを [ユーザ] リストに追加します。

- 5 ZENworks Adaptive Agent によってバンドルグループのアイコンを表示させる管理対象デバイス上のロケーションを指定します。選択可能な場所は次のとおりです。
- アプリケーションウィンドウ:** アプリケーションウィンドウ内にアイコンを配置します。
- デスクトップ:** デバイスのデスクトップ上にアイコンを配置します。
- クイック起動:** Windows タスクバーのクイック起動エリアにアイコンを配置します。
- [スタート] メニュー:** [スタート] メニュー上にアイコンを配置します。
- システムトレイ:** Windows のタスクバーにあるシステムトレイ (通知エリア) にアイコンを配置します。
- 6 [次へ] をクリックして [スケジュール] ページを表示し、定義するスケジュールを選択します。
- **配布スケジュール:** ZENworks サーバから管理対象デバイスまたはユーザへバンドルが配布される日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは初回起動時にデバイスまたはユーザに配布されます。
  - **起動スケジュール:** ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を定義します。スケジュールを設定しない場合、バンドルはユーザが起動する場合にのみ起動されます。
  - **使用可能スケジュール:** バンドルがデバイスまたはユーザによって利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。スケジュールを設定しない場合、バンドルは常に利用可能です。
- 7 (条件付き) [配布スケジュール] をステップ 6 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの配布スケジュール] ページが表示されます。
- 配布スケジュールは、ZENworks サーバから管理対象のデバイスへバンドルが配布される日時を定義します。デフォルトのスケジュール (スケジュールなし) は、バンドルが最初に起動された際にデバイスに配布されます。
- 8 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。
- [125 ページのセクション D.3 「今すぐ」](#)
  - [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
  - [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
  - [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)
- 9 必要に応じて、次のオプションを選択します：
- ウェイクオンラン:** デバイスがスケジュール時刻に作動していない場合、ZENworks は、WoL(Wake on LAN) 技術を使用して、デバイスの電源投入を試みます。デバイスがウェイクオンランをサポートしている必要があります。
- 配布後直ちにインストール:** バンドルがデバイスに配布された後直ちにインストールアクションが実行されます。
- インストール後直ちに起動:** バンドルがインストールされた後直ちに起動アクションが実行されます。このオプションは [配布後直ちにインストール] オプションが有効になっている場合のみ選択できます。
- 10 (条件付き) [起動スケジュール] をステップ 6 で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドルの起動スケジュール] ページが表示されます。

起動スケジュールは、ZENworks Adaptive Agent が自動的にバンドルを起動する日時を決定します。デフォルトのスケジュール (スケジュールなし) は、ユーザが起動した時のみ、バンドルが起動されます。

- 11 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。
  - ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
  - ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
  - ◆ [124 ページのセクション D.2 「イベント」](#)
- 12 (条件付き) [使用可能スケジュール] を [ステップ 6](#) で選択した場合は、[次] をクリックすると [バンドル可用性スケジュール] ページが表示されます。

使用可能スケジュールは、バンドルが管理対象のデバイス上で利用可能になる日時を定義します。ZENworks Adaptive Agent は、このスケジュールで定義された期間のみバンドルアイコンを表示します。デフォルトスケジュール (スケジュールなし) では、バンドルは常に利用可能です。

スケジュールは、バンドルがインストールされているかどうかに関係なく適用されます。たとえば、ユーザがまだバンドルをインストールしていない場合は、スケジュールで定義された時間にのみバンドルをインストールできます。すでにユーザがバンドルをインストールしている場合、スケジュールで指定された時間にのみバンドルを実行できます。

- 13 [スケジュールタイプ] フィールドで、次のスケジュールのいずれかを選択し、フィールドに入力します。詳細については、ウィザードページの [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のリンクをクリックしてください。
  - ◆ [123 ページのセクション D.1 「特定の日付」](#)
  - ◆ [125 ページのセクション D.4 「繰り返し」](#)
- 14 [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 15 [終了] をクリックします。

## 4.7 バンドルをグループに追加する

詳細については、[56 ページのセクション 3.4 「バンドルのグループへの追加」](#) を参照してください。

## 4.8 バンドルグループをコンテンツサーバにコピーする

デフォルトでは、バンドルは各コンテンツサーバにコピーされます。特定のコンテンツサーバをホストとして指定する場合は、バンドルはそのコンテンツサーバでのみホスティングされます。これは、すべてのコンテンツサーバにはコピーされません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、バンドルグループ (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。


- 3 [アクション] > [コンテンツサーバの指定] の順にクリックします。
- 4 [コンテンツが明示的に包括されるコンテンツサーバ/配布ポイント] ページで、コンテンツサーバを選択します。

このページでは、前に選択したコンテンツ (バンドルとポリシー) をホストするコンテンツサーバ (ZENworks サーバと配布ポイント) を識別します。コンテンツは、選択したコンテンツサーバでしかホストされません。他のすべてのコンテンツサーバから除外されます。

このウィザードを使用して作成するコンテンツとコンテンツサーバ間のリレーションシップは、既存のすべてのリレーションシップを上書きします。たとえば、バンドル A がサーバ 1 とサーバ 2 でホストされていて、このウィザードを使用してサーバ 1 だけをインクルードした場合、バンドル A はサーバ 2 では使用できなくなります。

**4a** [使用可能] リストで、目的の ZENworks サーバと配布ポイントを選択します。  
Shift+ クリックおよび Ctrl+ クリックを使用して、複数のバンドルまたはポリシーを選択できます。

配布ポイントの親 ZENworks サーバをインクルードしないで、配布ポイントにコンテンツをインクルードすることはできません。配布ポイントとその親の両方を選択する必要があります。

**4b**  ボタンをクリックして、選択したコンテンツサーバを [選択済み] リストに移動します。
- 5 [次へ] をクリックして [完了] ページを表示し、情報を確認して、必要に応じて [戻る] ボタンを使用して情報を修正します。
- 6 [完了] をクリックして、コンテンツとコンテンツサーバ間のリレーションシップを作成します。作成したリレーションシップに応じて、コンテンツは次にスケジュールされたコピーの際にコンテンツサーバに (またはコンテンツサーバから) コピーまたは削除されます。



# フォルダの管理

フォルダは、組織的なオブジェクトです。フォルダを使用すると、バンドルおよびバンドルグループをご使用の ZENworks® システムで管理できる階層に構造化できます。たとえば、バンドルのタイプごとのフォルダ (ディレクティブバンドルフォルダ、Windows バンドルフォルダ、ファイルバンドルフォルダなど) が必要な場合があります。または、アプリケーションが部署固有である場合は、各部署ごとのフォルダ (経理部フォルダ、給料部フォルダなど) が必要な場合があります。

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 95 ページのセクション 5.1 「フォルダの作成」
- ◆ 96 ページのセクション 5.2 「フォルダの名前変更または移動」
- ◆ 96 ページのセクション 5.3 「フォルダの削除」

## 5.1 フォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [新規] > [フォルダ] の順にクリックします。

ステータス	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン
<input type="checkbox"/>	フォルダ			
<input type="checkbox"/>	BundleGroup	バンドルグループ		
<input type="checkbox"/>	Calc	Windowsバンドル	シンプルアプリケーション	はい 0
<input type="checkbox"/>	Directive	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい 0
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい 0
<input type="checkbox"/>	FileBundle	ファイルバンドル	ファイルのコピー	はい 0
<input type="checkbox"/>	Imaging Script #1	イメージングバンドル	イメージングスクリプト	はい 0
<input type="checkbox"/>	MSI	Windowsバンドル	MSIアプリケーション	はい 0

- 3 フォルダに対する固有の名前を入力します。このフィールドは必須です。  
ZENworks コントロールセンター内でオブジェクト (フォルダ、バンドル、バンドルグループ、カタログなど) に名前を付ける場合は、名前が命名規則に従うようにしてください。すべての文字がサポートされているわけではありません。命名規則の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターの命名規則」を参照してください。
- 4 ZENworks コントロールセンターインタフェースでこのフォルダを含むフォルダの名前を入力するか参照して、フォルダを選択します。このフィールドは必須です。
- 5 フォルダのコンテンツの短い説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックします。



## 5.2 フォルダの名前変更または移動

[バンドル] ページの [編集] ドロップダウンリストを使用して既存のオブジェクトを編集します。[編集] ドロップダウンリストにアクセスするには、リストのオブジェクト名の隣のチェックボックスをクリックしてオブジェクトを選択する必要があります。

選択したオブジェクトのタイプに応じて、選択したオブジェクトの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。たとえば、バンドルオブジェクトを選択すると、バンドルの名前を変更、コピー、あるいは移動できます。フォルダオブジェクトを選択した場合は、フォルダオブジェクトを名前変更あるいは移動できますが、コピーはできません。オプションが非表示になっている場合、選択されたオブジェクトタイプに対してそのオプションは使用可能ではありません。

複数のオブジェクトに対しては実行できないアクションもあります。たとえば、複数のチェックボックスを選択した場合は、[リネーム] オプションを [編集] メニューで使用することはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、フォルダ名の隣のボックスを選択してから、[編集] をクリックします。



ステータス	名前	タイプ	カテゴリ	使用可能	バージョン
<input checked="" type="checkbox"/>		フォルダ			
<input type="checkbox"/>		バンドルグループ			
<input type="checkbox"/>	Calc	Windowsバンドル	シンプルアプリケーション	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	Directive Bundle	ディレクティブバンドル	ディレクティブバンドル	はい	0
<input type="checkbox"/>	FileBundle	ファイルバンドル	ファイルのコピー	はい	0
<input type="checkbox"/>	Imaging Script #1	イメージングバンドル	イメージングスクリプト	はい	0
<input type="checkbox"/>	MSI	Windowsバンドル	MSIアプリケーション	はい	0

- 3 オプションを選択します。
  - **リネーム**: [リネーム] をクリックして、フォルダに新しい名前を付け、[OK] をクリックします。
  - **移動**: [移動] をクリックして、選択したオブジェクトの宛先フォルダを選択し、[OK] をクリックします。

## 5.3 フォルダの削除

フォルダを削除すると、コンテンツ (バンドル、バンドルグループ、サブフォルダ) もすべて削除されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。
- 2 [バンドル] リストで、フォルダ (複数可) の横のチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。



# ZENworks Adaptive Agent による バンドルの管理

ZENworks<sup>®</sup> Adaptive Agent は、管理者がネットワークを介してデバイスを管理できる、Novell<sup>®</sup> ZENworks Configuration Management ソフトウェアの一部です。

---

**注：**このセクションは、Adaptive Agent オンラインヘルプシステムに基づく情報を含んでおり、エンドユーザの観点で記述されています。

---

ZENworks Adaptive Agent は通常は Adaptive Agent と呼ばれ、管理者がデバイスのある場所まで出向かずに次のようなことを実行できるよう支援します。

- ◆ ソフトウェア、パッチ、その他のファイルをデバイスに配信する
- ◆ デバイスの行動を決定するポリシーを管理する
- ◆ デバイスのハードウェアとソフトウェアのインベントリを取得する
- ◆ リモートの場所からデバイスにアクセスしてトラブルシューティングし、ハードウェアとソフトウェアの問題を修復する。

ソフトウェアアプリケーションとその他のファイルは、バンドルとしてデバイスに配布されます。バンドルには、デバイスにソフトウェアをインストールするために必要なすべてのコンテンツ（ファイルなど）および指示（レジストリ変更、ショートカット情報など）が含まれます。

以降では、ZENworks Adaptive Agent を使用してバンドルを管理する方法を説明します。

- ◆ [97 ページのセクション 6.1 「バンドルとアプリケーション」](#)
- ◆ [98 ページのセクション 6.2 「ユーザ割り当てのバンドルとデバイス割り当てのバンドル」](#)
- ◆ [98 ページのセクション 6.3 「バンドルへのアクセス」](#)
- ◆ [103 ページのセクション 6.4 「バンドルアイコンの理解」](#)
- ◆ [104 ページのセクション 6.5 「バンドルの起動」](#)
- ◆ [105 ページのセクション 6.6 「バンドルダウンロードの延期」](#)
- ◆ [105 ページのセクション 6.7 「バンドルの検証」](#)
- ◆ [105 ページのセクション 6.8 「バンドルのプロパティの表示」](#)
- ◆ [106 ページのセクション 6.9 「バンドルのアンインストール」](#)


## 6.1 バンドルとアプリケーション

バンドルは、デバイスにすでにある Windows のメモ帳などの標準アプリケーションとは異なります。バンドルをダブルクリックして起動すると、ZENworks Adaptive Agent は、アプリケーションファイルのインストール、スクリプトの実行、デバイスレジストリ、特定の INI ファイル、または環境変数の変更など、アプリケーションを起動する前に、まず最初にさまざまな配布タスクを完了する可能性があります。これらのタスクは、デバイス上でアプリケーションが正常に動作するようにすべて管理者によって設定されます。

バンドルのアイコンが淡色表示またはグレー表示になることがあります。これは、管理者がアプリケーションに定義した要件をデバイスが満たしていないか、バンドルがその時点で使用可能なようにスケジュールされていないことを示します。Adaptive Agent は、要件が満たされるか、スケジュールが適切になるまでは、アプリケーションをデバイスに配布しません。

## 6.2 ユーザ割り当てのバンドルとデバイス割り当てのバンドル

デバイスに表示されるバンドルは、ユーザに割り当てられるか、ユーザのデバイスに割り当てられます。ユーザに割り当てられるバンドルは、ユーザ割り当てバンドルと呼ばれ、デバイスに割り当てられたバンドルは、デバイス割り当てバンドルと呼ばれます。

ZENworks Adaptive Agent は、ユーザディレクトリ (Microsoft Active Directory または Novell® eDirectory™) にログインしている場合にのみ、ユーザ割り当てバンドルを表示します。ログインしていない場合は、ZENworks Configuration Management ログイン画面でログインできます。ログインするには、通知領域にある  アイコンを右クリックしてから、[ログイン] をクリックします。

デバイス割り当てバンドルは、ログインしているかどうかにかかわらず常に表示されます。デバイス割り当てバンドルは、デバイスを使用するユーザなら誰でも起動できます。

## 6.3 バンドルへのアクセス

ZENworks Adaptive Agent には、割り当てられたバンドルにアクセスする方法が 3 種類提供されています。

- ◆ [98 ページのセクション 6.3.1 「ZENworks Window」](#)
- ◆ [101 ページのセクション 6.3.2 「ZENworks Explorer」](#)
- ◆ [102 ページのセクション 6.3.3 「ZENworks Icon」](#)

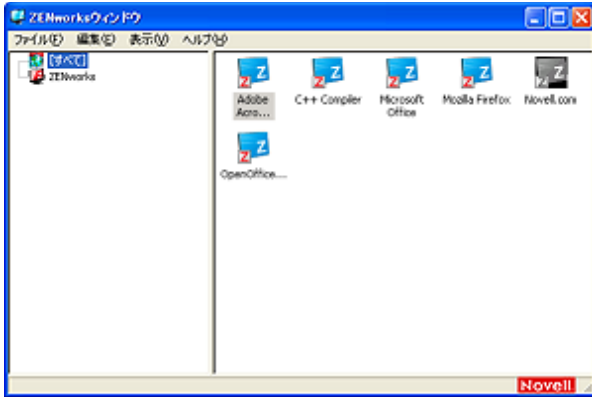
### 6.3.1 ZENworks Window

Zenworks Window は、[スタート] メニューまたはコマンドプロンプトから起動できるスタンドアロンのウィンドウです。

- ◆ [98 ページの「\[スタート\] メニューの使用」](#)
- ◆ [99 ページの「コマンドプロンプトの使用」](#)
- ◆ [100 ページの「ZENworks Window を Windows シェルとして使用」](#)

#### [スタート] メニューの使用

- 1 [スタート] > [すべてのプログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks アプリケーション Window] の順にクリックします。



[ZENworks Window] の左ペインには、次の項目が表示されます。

- ◆ [すべて] フォルダ: バンドルが配置されているフォルダにかかわらず、配布されているバンドルすべてが表示されます。
- ◆ [ZENworks] フォルダ: 別のフォルダに割り当てられていないバンドルすべてが表示されます。バンドルのデフォルトフォルダは ZENworks フォルダです。ただし、管理者はバンドルを整理するために追加フォルダを作成したり、ZENworks フォルダを名前変更したりすることもできます。

左ペインでフォルダを選択すると、右ペインにフォルダ内に含まれるバンドルが表示されます。次の操作を行うことができます。

- ◆ バンドルをインストールするか、すでにインストールされているバンドルのアプリケーションを起動する。
- ◆ バンドルのプロパティを表示する。プロパティには、バンドルの説明、バンドルのヘルプ担当者についての情報、バンドルを使用できる時間、バンドルに設定されたシステム要件などが含まれます。
- ◆ インストールしたアプリケーションを修復する。
- ◆ アプリケーションをアンインストールする。これは管理者が制御する機能で、有効になっていない場合もあります。

## コマンドプロンプトの使用

1 コマンドプロンプトを開き、次のコマンドを実行します。

```
nalwin
```

nalwin を使用してアプリケーションウィンドウを起動する場合、次のコマンドラインスイッチを使用できます。

表 6-1 Application Window のコマンドラインスイッチ

スイッチ	説明
:	最初のスプラッシュスクリーンを非表示にします。
例 :nalwin :	

スイッチ	説明
<code>/?</code>	ヘルプを表示します。
例 :nalwin /?	
<code>/c="window_title"</code>	指定したテキストをアプリケーションウィンドウのタイトルとして使用します。デフォルトのウィンドウタイトルは「User 用の ZENworks Window」で、User はユーザの識別名です。
例 :nalwin /c="%Username%'s Apps"	指定したテキストに、eDirectory 情報を表示するマクロ (変数) を含めることができます。例の <code>c="%Username%'s Apps"</code> では、タイトルにはユーザの共通名が代わりに表示されます (たとえば「JSmith's Apps」)。
	<b>注:</b> 引用符で囲む必要があるのは、ウィンドウタイトルにスペースが入っている場合のみです。
<code>/max</code>	Application Window の最初のロード時にウィンドウを最大化し、前回の Application Window セッションの終了時に保存したウィンドウの状態 (サイズと位置) を無効にします。
例 :nalwin /max	
<code>/min</code>	Application Window の最初のロード時にウィンドウを最小化し、前回の Application Window セッションの終了時に保存したウィンドウの状態 (サイズと位置) を無効にします。
例 :nalwin /min	
<code>/r</code>	Application Launcher の起動フラグを 0 にリセットします。この処理は、Application Launcher が正常終了した場合は自動的に行われます。ただし、Application Launcher が異常終了した場合 (たとえばユーザが <Ctrl>+<Alt>+<Del> を使用して nalwin.exe をシャットダウンした場合)、起動フラグはリセットされません。このため、ワークステーションが再起動されるか、このスイッチが使用されるまで、Application Launcher は起動できません。
例 :nalwin /r	
<code>/s</code>	アプリケーションウィンドウが Windows シェルとして動作するように指定します。たとえば、[ファイル] メニューの [Application Launcher の終了] オプションは [シャットダウン] に変わり、標準の Windows シャットダウンオプションが使用できるようになります。
例 :nalwin /s	これは、Windows シェルが実際に置き換えられたわけではありません。Application Window を最小化すると、通常のデスクトップにアクセスできます。

## ZENworks Window を Windows シェルとして使用

ZENworks Window が Windows シェルとして使用されている場合は、デバイスで ZENworks Window だけが表示されます。デバイスのデスクトップにアクセスできないため、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、および ZENworks Icon も表示されません。

ZENworks Window を Windows シェルとして使用することは、管理対象デバイス上のユーザが ZENworks Window に表示されたアプリケーションのみにアクセスできるように制限したい場合に役に立ちます。たとえば、ユーザがメモ帳や電卓などのアプリケーションのみにアクセスできるようにしたい場合は、ZENworks Window がこれらのアプリケーションのみを表示するようにしてください。デバイスをシャットダウンするには、[ファイル] > [シャットダウン] の順にクリックします。

Windows 2000/XP デバイス上で ZENworks Window をシェルとして使用するには、次の手順に従います。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーションで regedit.exe を実行して、次の設定を検索します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon

- 2 SHELL 値を explore.exe から次のように変更します。

c:\program files\novell\zenworks\nalwin.exe

ZENworks Window を起動時に最大化する場合は、nalwin.exe に /max スイッチを追加します (例 :nalwin.exe /max)。

- 3 regedit.exe を終了します。
- 4 Windows を再起動します。

## 6.3.2 ZENworks Explorer

[ZENworks Explorer] は、Windows Explorer 用の拡張機能であり、Windows Explorer、デスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、および通知領域にバンドルを表示できるようになります。

図 6-1 Windows Explorer に表示されたバンドル

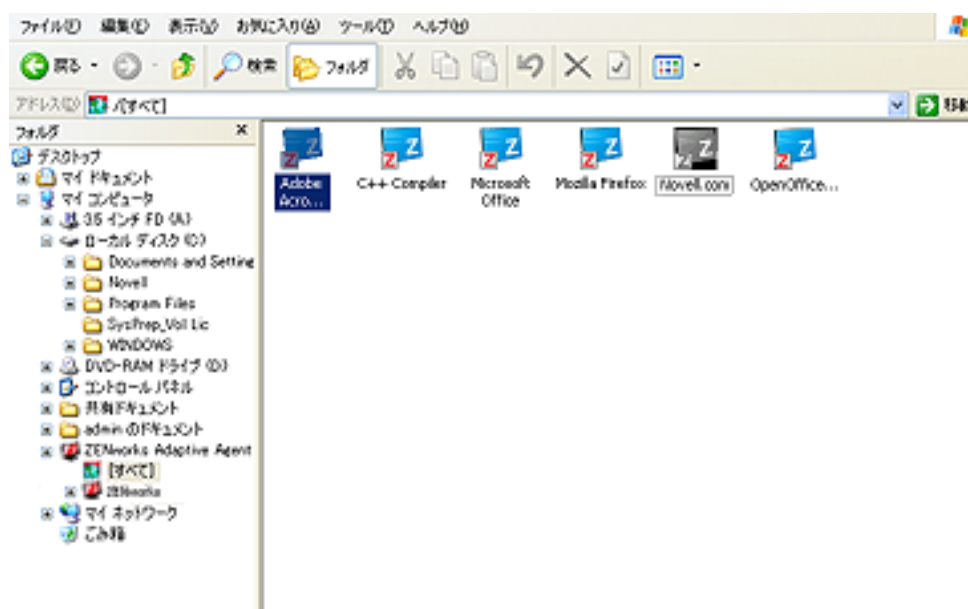
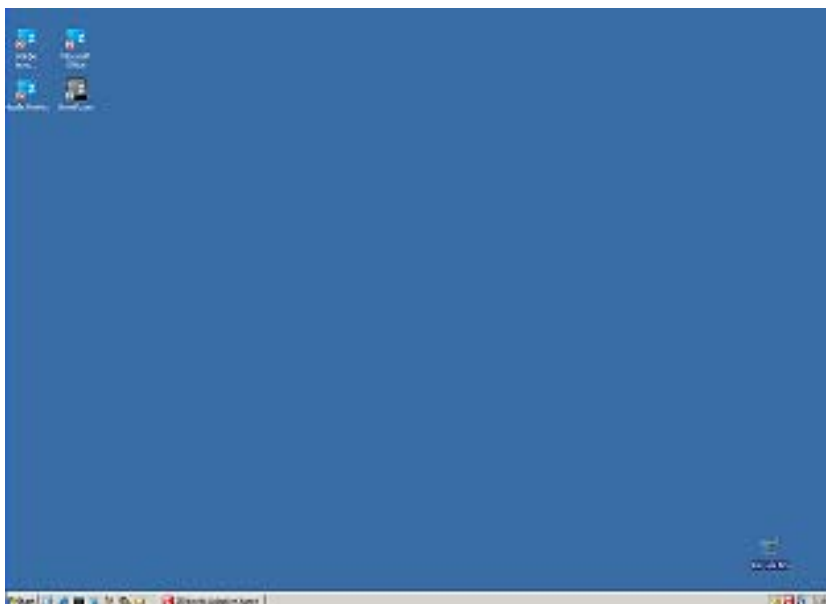


図 6-2 デスクトップに表示されたバンドル



ZENworks Explorer でも、ZENworks Window と同じタスクをバンドルに対して実行できます。

---

**注：**Windows では、フォルダパスには特定の文字 ( \ | : \* ? " < > | ). ZENworks Explorer フォルダパスの名前の一部にこれらの文字を使用すると、これらの文字は [スタート] メニューでアンダースコア ( \_ ) として表示されます。これらの文字は、ZENworks Window では正しく表示されます。

---

### 6.3.3 ZENworks Icon


ZENworks Icon  は、Windows 通知領域にあります。アイコンをダブルクリックすると、ZENworks Adaptive Agent のプロパティを表示できます。左のナビゲーションペインにある [バンドル] リンクをクリックすると、ユーザおよびご使用のデバイスに割り当てられたバンドルを表示できます。

図 6-3 ZENworks Adaptive Agent



バンドルリストには、次の情報が表示されます。







- ◆ **名前**: バンドルの名前が表示されます。名前をクリックすると、バージョン、フォルダとアイコンの場所、およびヘルプ連絡先など、バンドルのプロパティを表示できます。
- ◆ **ステータス**: バンドルのインストールステータスが表示されます。
- ◆ **有効**: バンドルがデバイスで使用できるかどうかを表示します。[有効] ボックスがオンになっている場合、バンドルはすべてのシステム要件と使用されるスケジュール制約を満たしています。バンドルアイコン をクリックして、バンドルを起動できます。

このボックスが選択されていない場合、バンドルは使用できません。理由を確認するには、バンドル名をクリックして、システム要件とスケジュールのプロパティを表示します。

## 6.4 バンドルアイコンの理解

バンドルアイコンは、バンドルの現在のステータスを反映して変更されます。次の表に、デフォルトのライトブルーのバックグラウンドアイコンによるバンドルアイコンを示します。管理者が異なるバックグラウンドアイコンを使用するを選択する可能性もありますが、 および などのステータスアイコンは同じです。

アイコン	ステータス	説明
	使用可能	バンドルはデバイスで有効です。バンドルを起動できます。インストールされたバンドルを検証できます。バンドルを検証するには、アイコンを右クリックして [検証] をクリックします。バンドルの検証方法の詳細については、 <a href="#">バンドルの検証</a> を参照してください。

アイコン	ステータス	説明
	使用不可	バンドルを起動できません。デバイスがバンドルに設定されたシステム要件を満たしていないか、バンドルが現在使用できるようにスケジュールされていません。
	ダウンロード中	バンドルが保存されているネットワークの場所からバンドルをダウンロード中です。
	インストール中	バンドルをデバイスにインストール中です。
	稼働中	バンドルは現在稼働中です。
	アンインストール中	バンドルをデバイスから削除中です。
	インストールされ ていません	バンドルのインストールに失敗したか、まだインストールされていません。


## 6.5 バンドルの起動


デフォルトでは、ZENworks Adaptive Agent は、最初にバンドルを起動するまで、バンドルをデバイスに配布 (ダウンロードおよびインストール) しません。配布プロセスには、バンドルのファイルのインストール、スクリプトの実行、デバイスのレジストリ、特定の INI ファイル、または環境変数の変更が含まれることがあります。また、ローカルデバイスやネットワークサーバ上にアプリケーションの実行可能ファイルへのショートカットが作成されるだけの場合もあります。

バンドルを起動するには、次の手順に従います。

- 1 次の場所のいずれかにあるバンドルにアクセスします。

**[ZENworks Window]** : [スタート] メニューから、[プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] の順にクリックします。

**[ZENworks Explorer]** : Windows エクスプローラを開き、 ZENworks Adaptive Agent エントリを探します。ZENworks 管理者のバンドル設定方法によっては、バンドルアイコンはデスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、または通知領域にも表示されます。

**ZENworks Icon:** 通知領域で、 アイコンをダブルクリックしてから、[バンドル] をクリックします。

- 2 バンドルアイコンをダブルクリックします。



---

**注:** 複数のパーソナリティマイグレーションバンドルを同時に起動しないでください。同時に起動すると、バンドルが正常に起動されず、最初に起動されたバンドルのログのみが personalitylog.xml ファイルに保存されます。また、最初に起動されたバンドルのみのダイナミック管理者のユーザプロファイルが削除されます。残りのバンドルのダイナミック管理者のユーザプロファイルは手動で削除する必要があります。


---

## 6.6 バンドルダウンロードの延期

バンドルの起動後に、ダウンロードが始まってからダウンロードを停止する必要がある場合は、ダウンロードを後に延期できます。ダウンロードを再開する場合は、以前に停止した時点から続行されます。

- 1 次の場所のいずれかにあるバンドルにアクセスします。

**[ZENworks Window]** : [スタート] メニューから、[プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] の順にクリックします。

**[ZENworks Explorer]** : Windows エクスプローラを開き、 ZENworks Adaptive Agent エントリを探します。ZENworks 管理者のバンドル設定方法によっては、バンドルアイコンはデスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、または通知領域にも表示されます。


- 2 バンドルアイコンを右クリックして、[延期] をクリックします。

## 6.7 バンドルの検証

インストール済みアプリケーションが正常に機能していないか、最新の状態でないと思われる場合は、アプリケーションのバンドル情報が正しいかどうかを検証できます。正しくない場合は、ZENworks Adaptive Agent はバンドルをワークステーションに再インストールします。

- 1 次の場所のいずれかにあるバンドルにアクセスします。

**[ZENworks Window]** : [スタート] メニューから、[プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] の順にクリックします。

**[ZENworks Explorer]** : Windows エクスプローラを開き、 ZENworks Adaptive Agent エントリを探します。ZENworks 管理者のバンドル設定方法によっては、バンドルアイコンはデスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、または通知領域にも表示されます。


- 2 バンドルアイコンを右クリックして、[検証] をクリックします。

## 6.8 バンドルのプロパティの表示

バンドルのプロパティを表示して、バージョン番号、現在のインストール状態、およびヘルプ連絡先を確認できます。さらに、バンドルが使用できない場合は、システム要件またはスケジュール制約が原因で使用できないかどうかを確認できます。

- 1 次の場所のいずれかにあるバンドルにアクセスします。

**[ZENworks Window]** : [スタート] メニューから、[プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] の順にクリックします。

**[ZENworks Explorer]** : Windows エクスプローラを開き、 ZENworks Adaptive Agent エントリを探します。ZENworks 管理者のバンドル設定方法によっては、バンドルアイコンはデスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、または通知領域にも表示されます。

- 2 バンドルアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

## 6.9 バンドルのアンインストール

アンインストールは、管理者が制御する機能です。デフォルトでは、アンインストールは有効になっていません。したがって、ユーザがバンドルをアンインストールできるのは、管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。アンインストールはバンドル単位ベースで有効になります。管理者が有効にしている設定に応じて、アンインストールできるバンドルとアンインストールできないバンドルがあります。


バンドルをアンインストールすると、ZENworks Adaptive Agent はデバイスからすべてのファイルを削除し、バンドルのインストール中にデバイスに行った設定すべてを元に戻します。削除されるのは、Adaptive Agent によってそのバンドル専用インストールされたファイルのみです。たとえば、共有ファイル(別のアプリケーションも使用しているファイル)またはユーザが作成したファイル(ワープロ文書やスプレッドシートなど)は削除されません。

バンドルをアンインストールした後も、バンドルのアイコンはデバイスに表示されたままです。このアイコンを使って、必要に応じてバンドルを再インストールすることができます。

バンドルをアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 次の場所のいずれかにあるバンドルにアクセスします。

**[ZENworks Window]** : [スタート] メニューから、[プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] の順にクリックします。

**[ZENworks Explorer]** : Windows エクスプローラを開き、 ZENworks Adaptive Agent エントリを探します。ZENworks 管理者のバンドル設定方法によっては、バンドルアイコンはデスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、または通知領域にも表示されます。

- 2 バンドルアイコンを右クリックして、[アンインストール] をクリックします。

# パラメータのインストール、アンインストール、および修復

# A

Windows MSI バンドルを作成する際、パラメータのインストール、アンインストール、および修復を選択できます。次のセクションでは、各種のオプションの選択について説明します。

- [107 ページのセクション A.1 「パラメータのインストール」](#)
- [110 ページのセクション A.2 「パラメータのアンインストール」](#)
- [112 ページのセクション A.3 「パラメータの修復」](#)

## A.1 パラメータのインストール

[パラメータのインストール] ダイアログボックスでは、目的のパラメータを指定できます。

図 A-1 [パラメータのインストール] ダイアログボックス

パラメータのインストール

再開オプション

- なし (デフォルト)
- 再起動しない (/norestart)
- 再起動を要求 (/promptrestart)
- 常に再起動 (/forcerestart)

表示オプション

- UIなし (/qn)
- フルUI (/qf)
- UIの省略 (/qr)
- 基本UI (/qb)
  - 終点でモーダルダイアログなし (-)
  - 終点でのモーダルダイアログ (+)
  - [キャンセル] ボタンを非表示にする (!)

インストールオプション

- インストール (/i)
- 管理インストール (/a)
- 広告
  - すべてのユーザ用 (/im)
  - ログインユーザのみ (/iu)

コマンドラインパラメータ:

/i

OK キャンセル

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 109 ページのセクション A.1.1 「オプションの再起動」
- ◆ 109 ページのセクション A.1.2 「表示オプション」
- ◆ 110 ページのセクション A.1.3 「インストールオプション」
- ◆ 110 ページのセクション A.1.4 「コマンドラインパラメータ」

## A.1.1 オプションの再起動

場合によっては、アプリケーションのインストールにはワークステーションの再起動が必要になります。

[パラメータのインストール] ダイアログボックスで、目的の再起動オプションを選択します。

**なし (デフォルト):** MSI アプリケーションの設定を使用して、再起動が発生するかどうかを決定します。ZENworks® は [再起動] オプションを強制しません。

**再起動しない (/norestart):** インストールプロセス中にワークステーションを再起動しないでください。インストールは、ワークステーションが次回に起動するまで完了しません。

**再起動のプロンプト (/promptrestart):** ワークステーションの再起動の前にユーザにプロンプトが表示されます。ユーザが [いいえ] を選択すると、次回に手動で再起動するまでインストールは実行されません。

**常に再起動 (/forcerestart):** ワークステーションに、ユーザにプロンプトを表示せずに再起動させます。

## A.1.2 表示オプション

[パラメータのインストール] ダイアログボックスで、目的の表示オプションを選択します。インストールの実行にユーザインタフェースを使用するかどうか、モーダルダイアログボックスをインストールプロセスの最後に表示するかどうか (モーダルダイアログボックスには、インストールの完了前にユーザからの応答が必要です)、またはユーザがインストールをキャンセルできないように [キャンセル] ボタンを隠すかを、選択できます。

**No UI (/qn):** ユーザインタフェースのないアプリケーションをインストールします (サイレントインストール)。

---

**注:** これがデフォルトのインストールオプションです。ZENworks Configuration Management がアプリケーションをインストールしているときに、ユーザがリブートしてしまったり、ヘルプデスクに問い合わせてしまったりしないよう、この処理の実行をユーザに通知する場合は、表示オプションを [基本 UI (/qb)] に変更し、[終点でモーダルダイアログなし (-)] および [[キャンセル] ボタンを非表示にする (!)] を設定します。

ダイアログボックスでオプションを選択するか、/i/qb! を [コマンドラインパラメータ] フィールドに入力することができます。

---

**フル UI (/qf):** フルユーザインタフェースおよびモーダルダイアログボックスがインストールの最後に表示される、アプリケーションをインストールします。

**縮小 UI (/qr):** 縮小ユーザインタフェースおよびモーダルダイアログボックスがインストールの最後に表示される、アプリケーションをインストールします。

**基本 UI (/qb):** 進行バーで構成された基本のユーザインタフェースのあるアプリケーションをインストールします。次の設定は、このオプションとともに使用できます。

- ◆ **最後にモーダルダイアログがない (-):** インストールの最後にモーダルダイアログボックスが表示されない基本のユーザインタフェースが表示されます。
- ◆ **最後がモーダルダイアログ (+):** インストールの最後にモーダルダイアログボックスが表示される基本のユーザインタフェースが表示されます。

- **[キャンセル] ボタンを隠す (!):** [キャンセル] ボタンのない基本のユーザインタフェースが表示されますので、ユーザはインストールプロセスをキャンセルすることはできません。

### A.1.3 インストールオプション

[パラメータのインストール] ダイアログボックスで、目的のインストールオプションを選択します。

**インストール (/i):** アプリケーションをインストールします。

**管理者インストール (/a):** アプリケーションの管理者インストールポイントを作成します。このオプションは、ネットワークインストールに便利です。

**すべてのユーザ (/im):** コンピュータにアプリケーションをアドバタイズし、最初の使用時にすべてのユーザ用のアプリケーションをインストールします。

**ログインユーザのみ (/iu):** コンピュータにログイン (現在の) ユーザ用にアプリケーションをアドバタイズし、最初の使用時にアプリケーションをインストールします。このオプションは、[システム] インストールの実行時またはアプリケーションをインストールする動的管理者の使用時には、使用しないでください。

動的管理者は、オンザフライで作成された管理者アカウントで、アプリケーションのインストールなどの特定の手順を実行します。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、必須タスクが実行され、アカウントが削除されます。

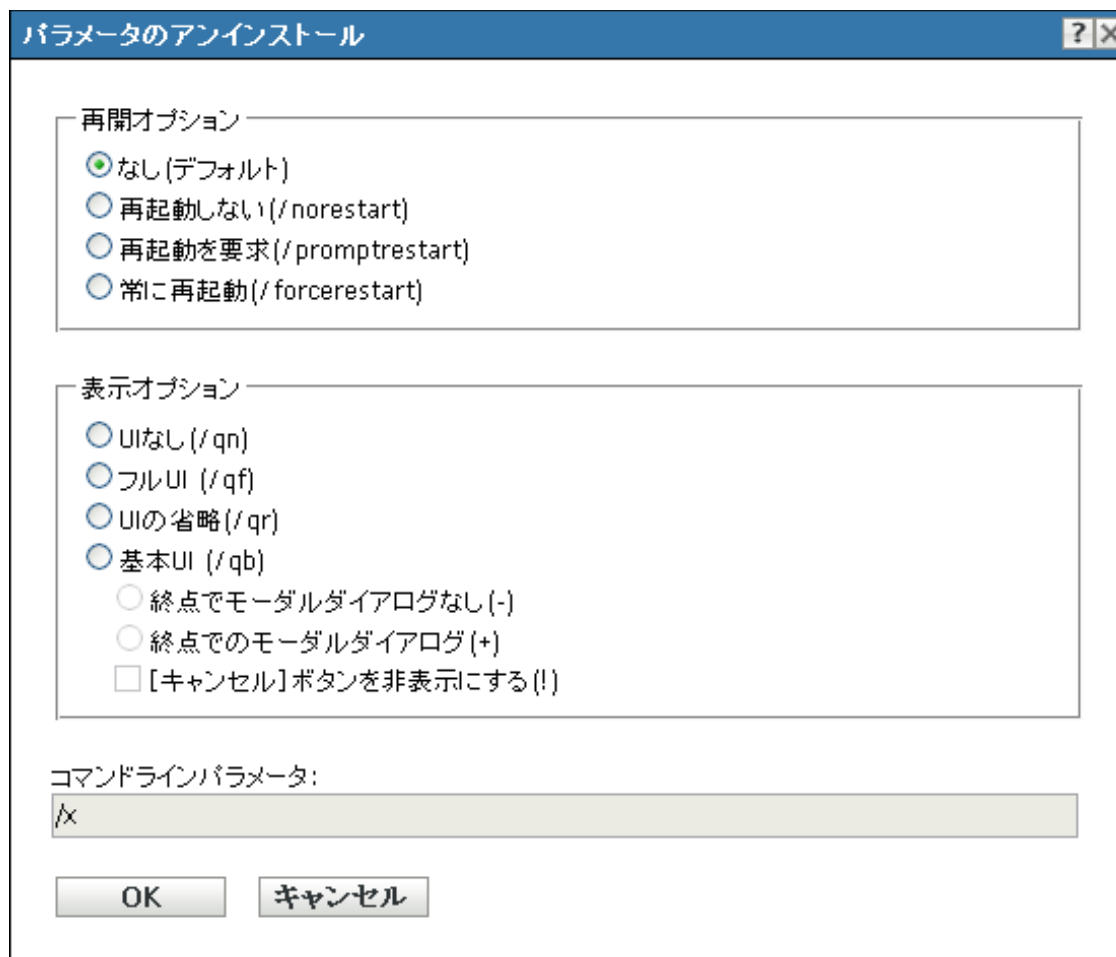
### A.1.4 コマンドラインパラメータ

アプリケーションのインストール中に使用するインストールコマンドラインパラメータが表示されます。[再起動]、[表示]、および [インストール] のオプションを選択すると、このフィールド内のコマンドラインパラメータは自動的に入力されます。

## A.2 パラメータのアンインストール

[パラメータのアンインストール] ダイアログボックスでは、目的のパラメータを指定します。

図 A-2 [パラメータのアンインストール] ダイアログボックス



詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- 111 ページのセクション A.2.1 「オプションの再起動」
- 112 ページのセクション A.2.2 「表示オプション」
- 112 ページのセクション A.2.3 「コマンドラインパラメータ」

## A.2.1 オプションの再起動

場合によっては、アプリケーションのアンインストールにはワークステーションの再起動が必要になります。

[パラメータのアンインストール] ダイアログボックスで、目的の再起動オプションを選択します。

**なし (デフォルト):** MSI アプリケーションの設定を使用して、再起動が発生するかどうかを決定します。ZENworks では [再起動] オプションは任意です。

**再起動しない (/norestart):** アンインストールプロセス中にワークステーションを再起動しないでください。アンインストールは、ワークステーションが次回に起動するまで完了しません。

**再起動のプロンプト (/promptrestart):** ワークステーションの再起動の前にユーザにプロンプトが表示されます。ユーザが [いいえ] を選択すると、次回に手動で再起動するまでアンインストールは実行されません。

**常に再起動 (/forcerestart):** ワークステーションに、ユーザにプロンプトを表示せずに再起動させます。

## A.2.2 表示オプション

[パラメータのアンインストール] ダイアログボックスで、目的の表示オプションを選択します。アンインストールの実行にユーザインタフェースを使用するかどうか、モーダルダイアログボックスをアンインストールプロセスの最後に表示するかどうか (モーダルダイアログボックスには、アンインストールの完了前にユーザからの応答が必要です)、またはユーザがアンインストールをキャンセルできないように [キャンセル] ボタンを隠すかを、選択できます。

**No UI (/qn):** ユーザインタフェースのないアプリケーションをアンインストールします (サイレントアンインストール)。

**フル UI (/qf):** フルユーザインタフェースおよびモーダルダイアログボックスがアンインストールの最後に表示される、アプリケーションをアンインストールします。

**縮小 UI (/qr):** 縮小ユーザインタフェースおよびモーダルダイアログボックスがアンインストールの最後に表示される、アプリケーションをアンインストールします。

**基本 UI (/qb):** 進行バーで構成された基本のユーザインタフェースのあるアプリケーションをアンインストールします。次の設定は、このオプションとともに使用できます。

- ◆ **最後にモーダルダイアログがない (-):** アンインストールの最後にモーダルダイアログボックスが表示されない基本のユーザインタフェースが表示されます。
- ◆ **最後がモーダルダイアログ (+):** アンインストールの最後にモーダルダイアログボックスが表示される基本のユーザインタフェースが表示されます。
- ◆ **[キャンセル] ボタンを隠す (!):** [キャンセル] ボタンのない基本のユーザインタフェースが表示されますので、ユーザはアンインストールプロセスをキャンセルすることはできません。

## A.2.3 コマンドラインパラメータ

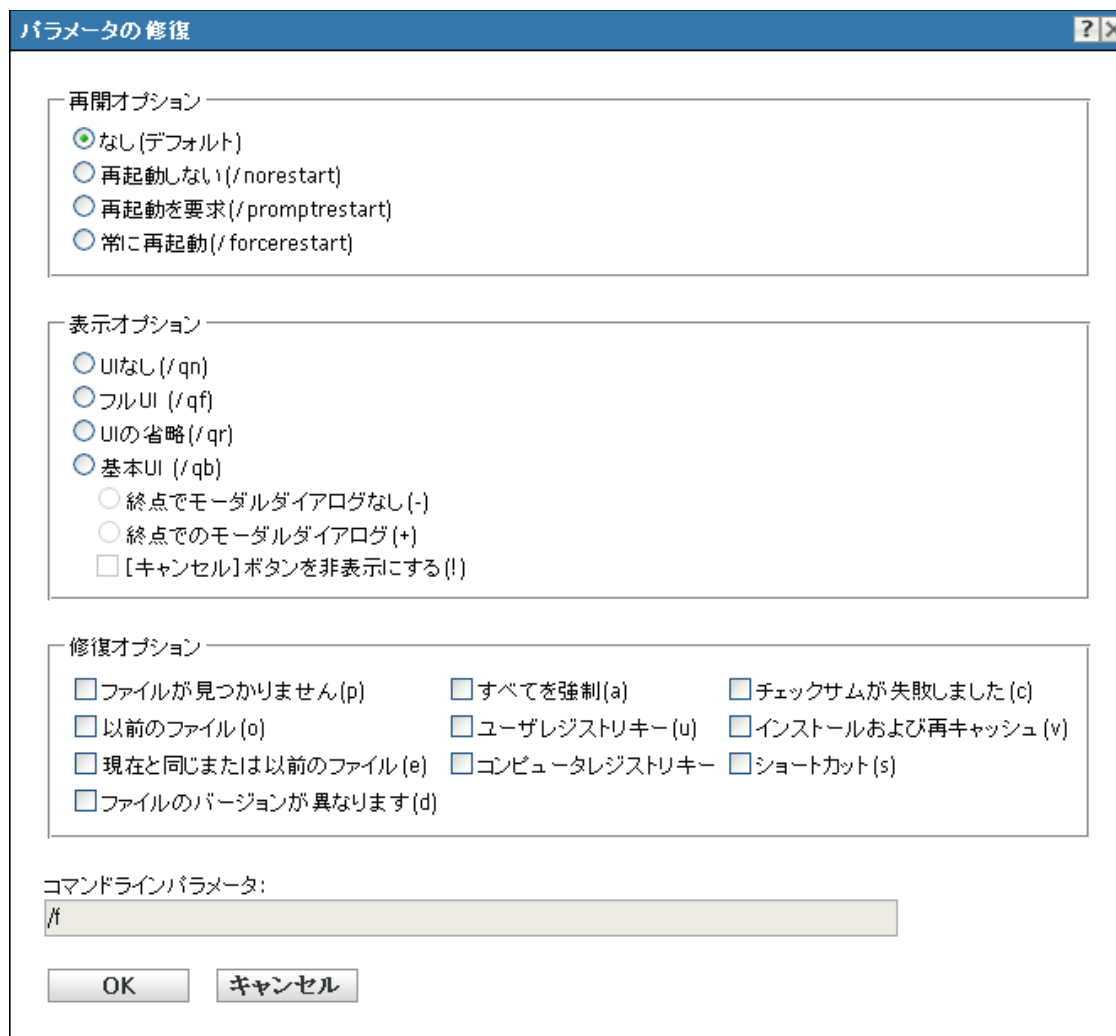
アプリケーションのアンインストール中に使用するコマンドラインパラメータが表示されます。[再起動] および [表示] のオプションを選択すると、このフィールド内のコマンドラインパラメータは自動的に入力されます。

## A.3 パラメータの修復

[パラメータの修復] ダイアログボックスでは、目的のパラメータを指定できます。



図 A-3 [パラメータの修復] ダイアログボックス



詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 113 ページのセクション A.3.1 「オプションの再起動」
- ◆ 114 ページのセクション A.3.2 「表示オプション」
- ◆ 114 ページのセクション A.3.3 「修復オプション」
- ◆ 115 ページのセクション A.3.4 「コマンドラインパラメータ」

### A.3.1 オプションの再起動

場合によっては、アプリケーションの修復にはワークステーションの再起動が必要になります。

[パラメータの修復] ダイアログボックスで、目的の再起動オプションを選択します。

**なし (デフォルト):** MSI アプリケーションの設定を使用して、再起動が発生するかどうかを決定します。ZENworks では [再起動] オプションは任意です。

**再起動しない (/norestart):** 修復プロセス中にワークステーションを再起動しないでください。修復プロセスは、ワークステーションが次回に起動するまで完了しません。

**再起動のプロンプト (/promptrestart):** ワークステーションの再起動の前にユーザにプロンプトが表示されます。ユーザが [いいえ] を選択すると、次回に手動で再起動するまで修復プロセスは実行されません。

**常に再起動 (/forcerestart):** ワークステーションに、ユーザにプロンプトを表示せずに再起動させます。

## A.3.2 表示オプション

[パラメータの修復] ダイアログボックスで、目的の表示オプションを選択します。修復プロセスの実行でユーザインタフェースを使用するか使用しないか、モーダルダイアログボックスを修復プロセスの最後に表示するかどうか (モーダルダイアログボックスでは、修復プロセスの完了前にユーザからの応答が必要です)、またはユーザが修復プロセスをキャンセルできないように [キャンセル] ボタンを非表示とするかなどを選択できます。

**No UI (/qn):** ユーザインタフェースのないアプリケーションを修復します (サイレンと修復プロセス)。

**フル UI (/qf):** フルユーザインタフェースを使用して、また修復プロセスの最後にモーダルダイアログボックスを表示する状態でアプリケーションを修復します。

**縮小 UI (/qr):** 縮小ユーザインタフェースを使用して、また修復プロセスの最後にモーダルダイアログボックスを表示される状態でアプリケーションを修復します。

**基本 UI (/qb):** 進行バーで構成された基本のユーザインタフェースのあるアプリケーションを修復します。次の設定は、このオプションとともに使用できます。

- ◆ **最後にモーダルダイアログがない (-):** 修復プロセスの最後にモーダルダイアログボックスが表示されない状態で、基本のユーザインタフェースを表示します。
- ◆ **最後にモーダルダイアログ (+):** 修復プロセスの最後にモーダルダイアログボックスが表示される状態で、基本のユーザインタフェースを表示します。
- ◆ **[キャンセル] ボタンを隠す (!):** [キャンセル] ボタンのない基本のユーザインタフェースが表示されますので、ユーザは修復プロセスをキャンセルすることはできません。

## A.3.3 修復オプション

[パラメータの修復] ダイアログボックスで、目的の修復オプションを選択します。

**ファイルが見つかりません (p):** 失われているファイルがある場合のみ、そのファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**以前のファイル (o):** ファイルが失われている場合、またはインストールされているファイルのバージョンが MSI パッケージに含まれているバージョンより古い場合に、そのファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**現在と同じまたは以前のファイル (e):** ファイルが失われている場合、またはインストールされているファイルのバージョンが MSI パッケージに含まれているバージョンと同じか古い場合に、そのファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**ファイルのバージョンが異なります (d):** ファイルが失われている場合、またはインストールされているファイルのバージョンが MSI パッケージに含まれているバージョンと異なる場合に、そのファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**すべてを強制 (a):** すべてのファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**ユーザレジストリキー (u):** ユーザごとのエントリすべてを、MSI パッケージから Windows のシステムレジストリに修復するように Windows Installer に指示します。ユーザごとのエントリとは、HKEY\_CURRENT\_USER レジストリハイブおよび HKEY\_USERS レジストリハイブに含まれているエントリです。

**コンピュータレジストリキー (m):** コンピュータごとのエントリすべてを、MSI パッケージから Windows のシステムレジストリに修復するように Windows Installer に指示します。コンピュータごとのエントリとは、HKEY\_LOCAL\_MACHINE および HKEY\_CLASSES\_ROOT レジストリハイブに含まれているエントリです。

**チェックサムが失敗しました (c):** ファイルが失われている場合、またはファイルが破損していることがチェックサムで検証された場合、すべての実行可能ファイルに対するチェックサムを実行してファイルを修復するように Windows Installer に指示します。MSI パッケージの File Table の Attributes 列に *msidbFileAttributesChecksum* があるファイルのみが修復されます。

**インストールおよび再キャッシュ (v):** ソースパッケージではなく、再キャッシュ (ローカル) ソースからファイルを修復するように Windows Installer に指示します。

**ショートカット (s):** MSI アプリケーションのショートカットを修復して既存のショートカットやアイコンを上書きするように Windows Installer に指示します。

### A.3.4 コマンドラインパラメータ

アプリケーションの修復プロセス中に使用するコマンドラインパラメータが表示されます。[再起動]、[表示]、および [修復] のオプションを選択すると、このフィールド内のコマンドラインパラメータは自動的に入力されます。



# 認証フック

# B

認証フックを使用すると、バンドルのインストールおよび起動を制御できます。

認証ロジックを含む実行可能ファイルを作成し、ファイル名は `authhook` で始まるようにします。たとえば、`authhookinstall.exe` とします。バンドルのインストールまたは起動中に、バンドルマネージャは `authhook*` に一致するファイルを ZENworks<sup>®</sup> の `bin` ディレクトリで探します。ファイルが見つかったら、バンドルマネージャは 4 つの引数であるゾーン名、バンドル ID、バンドル名、および現在のバンドルのユーザ名をファイルに渡します。実行時、ファイルはコードを返します。バンドルマネージャは、返されたエラーコードが 264 に一致する場合にのみ、バンドルをインストールまたは起動します。



# Novell File Upload 拡張機能

# C

Novell® File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照してファイルをアップロードすることができません。

Novell File Upload 拡張機能のインストール後は、ファイルのアップロードに同じ Web ブラウザ (Mozilla\* Firefox\* や Microsoft Internet Explorer など) を使用する場合、このデバイスに対してこの手順を再度実行する必要はありません。ただし、後継リリースの Novell File Upload 拡張機能では、デバイスへの再インストールが必要です。Novell File Upload 拡張機能の再インストール方法については、[120 ページのセクション C.2 「Novell File Upload 拡張機能の再インストール」](#) を参照してください。

次のセクションには、ブラウザ固有の情報が含まれています。

- [119 ページのセクション C.1 「Novell File Upload 拡張機能のインストール」](#)
- [120 ページのセクション C.2 「Novell File Upload 拡張機能の再インストール」](#)

## C.1 Novell File Upload 拡張機能のインストール

Novell File Upload 拡張機能をデバイスにインストールしないと、ファイルパスとアップロードファイルを参照できません。

### C.1.1 Mozilla Firefox の場合

次の手順を実行します。

- 1 [\[Novell File Upload 拡張機能のインストール\]](#) リンクをクリックします。

Web ブラウザのセキュリティ設定によっては、ブラウザにより Novell File Upload 拡張機能のインストールが阻止されていることを示すメッセージが表示されることがあります。

ブラウザウィンドウの上部に次のメッセージが表示されます。

Firefox はこのサイトからコンピュータへのソフトウェアのインストールを中止しました。 .

図 C-1 Firefox メッセージ

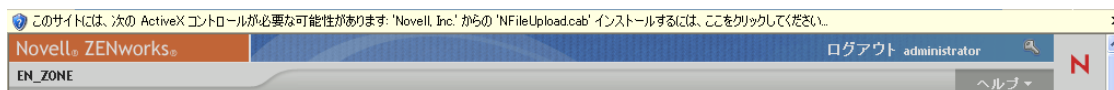


- 2 メッセージの右側にある [\[E オプションの編集\]](#) ボタンをクリックし、[\[許可\]](#) をクリックし、次に [\[閉じる\]](#) をクリックします。
- 3 [\[Novell File Upload 拡張機能のインストール\]](#) リンクを再度クリックします。
- 4 [\[今すぐインストール\]](#) をクリックして、Web ブラウザを再起動します。

## C.1.2 Microsoft Internet Explorer の場合

ActiveX コントロールがワークステーションに存在していない場合に、Web ページが ActiveX コントロールを参照すると、ActiveX\* コントロールをダウンロードするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。このプロンプトは情報バーに表示されます。情報バーは Internet Explorer ツールバーと Web ページの間に表示されます。通知が表示された後、次のナビゲーションで画面から消えます。

図 C-2 Internet Explorer のメッセージ



情報バーの表示はデフォルトで有効になっていますが、情報バーが表示されないようにデフォルトの設定を変更することができます。コントロールのパブリッシャ (Novell など) を、ユーザが信頼済みとして指定している場合、情報バーが表示されることなく ActiveX コントロールが自動的にインストールされます。

Internet Explorer を実行している場合 (デフォルトの設定を使用し、Novell を信頼済みサイトとしてマークしていないと仮定)、次のメッセージが情報バーに表示されます。

セキュリティ保護のため、このサイトによる、このコンピュータへの ActiveX コントロールのインストールが Internet Explorer により停止されました。オプションを表示するには、ここをクリックしてください ...

- 1 情報バーをクリックし、[ActiveX コントロールのインストール] をクリックします。
- 2 以前送信した情報を Internet Explorer が再送信する必要があるというメッセージが表示されたら、[再試行] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして、Novell File Upload 拡張機能をインストールします。

Internet Explorer を再起動する必要はありません。

## C.2 Novell File Upload 拡張機能の再インストール

ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイスにすでにインストールされている ZENworks 10 Configuration Management File Upload 拡張機能を更新するには、次の手順を実行します。

- 1 Novell File Upload 拡張機能をアンインストールします。

**Internet Explorer の場合 :** 次の手順を実行します。

1. Internet Explorer\* ブラウザのインスタンスをすべて閉じます。
2. ブラウザの新しいインスタンスを起動します。
3. [ツール] > [インターネットオプション] > [全般] の順にクリックします。
4. [閲覧の履歴] パネルで [設定] をクリックします。
5. [インターネット一時ファイルと履歴の設定] ウィンドウで [オブジェクトの表示] をクリックします。
6. [Downloaded Program Files] ウィンドウで [NFileUpload Class] を右クリックし、[削除] をクリックします。



**Firefox の場合 :** 次の手順を実行します。

1. [ツール] > [アドオン] の順にクリックします。
  2. [アドオン] ウィンドウで [Novell ZENworks File Upload Extension 10.1.0] をクリックして、[削除] をクリックします。
  3. Firefox\* ブラウザを閉じます。
  4. *Firefox\_install\_directory/plugins* ディレクトリを探し、*npzenworks.dll* および *nsINZENScriptablePlugin.xpt* ファイルをディレクトリから削除します。
  5. Firefox を再起動します。
- 2** ZENworks 10 Configuration Management (10.1) File Upload 拡張機能をインストールします。次回、ZENworks コントロールセンターを使用してファイルパスとアップロードファイルを参照する際に、最新の Novell File Upload 拡張機能をインストールするよう要求されます。プロンプトに従って Novell File Upload 拡張機能をインストールします。詳細については、[119 ページのセクション C.1 「Novell File Upload 拡張機能のインストール」](#) を参照してください。



# バンドルのスケジュールのタイプ

次のようなスケジュールを利用できます。

- ◆ 123 ページのセクション D.1 「特定の日付」
- ◆ 124 ページのセクション D.2 「イベント」
- ◆ 125 ページのセクション D.3 「今すぐ」
- ◆ 125 ページのセクション D.4 「繰り返し」

## D.1 特定の日付

[特定の日付] スケジュールオプションでは、イベントを実行する 1 つまたは複数の日付を指定できます。

図 D-1 特定の日付スケジュール

スケジュールタイプ:

開始日:

毎年イベントを実行  
 デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する:

スケジュールの実行が開始される時間を選択:  
 開始時刻にすぐに実行  
 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

開始時間:  :   終了時刻:  :

協定世界時(UTC)を使用 (現在のUTC 10:21)

Wake on Lan(デバイスにのみ適用)  
 配布後直ちにインストール  
 インストール後直ちに起動

**開始日付:** 📅 をクリックして、イベントの日付の選択に使用できるカレンダーを表示します。一度に複数の日付を追加できます。

**イベントを毎年実行する:** [開始日付] リストに表示されている日に毎年イベントを実行するには、このオプションを選択します。

スケジュールの実行が開始される時間を選択：次のいずれかを行います。

- **開始時刻にただちに開始**：[開始時刻] フィールドで指定する時刻にイベントが開始されます。
- **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**：[開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。

**協定世界時 (UTC) を使用**：開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいます。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

## D.2 イベント

このスケジュールオプションでは、スケジュール済みのアクションをトリガするイベントを指定できます。

図 D-2 イベントスケジュール

スケジュールタイプ：

このスケジュールがトリガされるイベントを選択：

- ユーザのログイン
- ユーザのログアウト
- デバイス起動
- デバイスロック時
- デバイスアンロック時
- ZENworksログイン
- ZENworksログアウト
- ネットワークに接続しているデバイス (Windowsのみ)

Wake-on-LAN (デバイスのみに適用)

配布後直ちにインストール

インストール後直ちに起動

<< 戻る      次 >>      キャンセル

次のトリガから選択します。

**ユーザのログイン**：デバイスのオペレーティングシステムへのユーザログイン。

**ユーザのログアウト**：デバイスのオペレーティングシステムからのユーザログアウト。

**デバイスのブート**：デバイスの電源が入ります。

**デバイスのシャットダウン**：デバイスの電源が切れます。

**デバイスロック時**：オペレーティングシステムがロックされます。

**デバイスアンロック時**：オペレーティングシステムがアンロックされます。

**ZENworks ログイン**：ZENworks® 管理ゾーンへのユーザログイン。

**ZENworks ログアウト**：ZENworks 管理ゾーンからのユーザログアウト。

**ネットワークに接続しているデバイス (Windows のみ)**：接続解除されたデバイスが、新しい有線またはワイヤレスネットワーク接続を検出します。

---

**注**：デバイスの起動時に、ZENworks® Adaptive Agent はデバイスの更新スケジュールに従って ZENworks サーバに接続し、バンドル、ポリシー、構成、登録に関する情報を更新します。情報の変更がある場合、イベントトリガの 1 つが発生しても、Adaptive Agent は変更がデバイスに反映される前に情報を更新する必要があります。デフォルトでは、デバイス起動後デバイスは 300 ～ 360 秒間でランダムに更新され、12 時間間隔で完全に更新されます。

たとえば、バンドルを作成し、デバイスがネットワークに接続したときにそのバンドルが起動するようにスケジュールした場合、デバイスがネットワークに接続した場合でも、Adaptive Agent がそのバンドルをアップロードまたは起動する前に、デバイスは手動で更新されるか、スケジュールに従って更新される必要があります。

---

## D.3 今すぐ

イベントをただちに実行するには、このスケジュールオプションを選択します。

## D.4 繰り返し

[繰り返し] スケジュールオプションでは、指定の間隔でイベントを繰り返すことができます。

---

**注**：以下のセクションでは、反復スケジュールのすべてが説明されています。スケジュールするイベントまたはアクションによっては、一部のオプションは選択できません。

---

図 D-3 反復スケジュール

スケジュールタイプ:

繰り返し

デバイスの更新時

リフレッシュ後に実行を延期: 0 日 0 時間 0 分

曜日

日	月	火	水	木	金	土
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

開始時間: 1 : 00 am

[詳細オプション](#)

月

日付: 1

月の最終日

最初 日曜日

開始時間: 1 : 00 am

[詳細オプション](#)

固定間隔

0 月 0 週 0 日 0 時間 0 分

開始日: 07/08/28 開始時間: 1 : 00 am

[詳細オプション](#)

Wake on Lan(デバイスにのみ適用)

配布後直ちにインストール

インストール後直ちに起動

<< 戻る

次 >>

キャンセル

**デバイスの更新時:** このスケジュールでは、ZENworks Adaptive Agent によりデバイスでの更新が実行されるたびにイベントが発生します。更新時にただちにイベントが発生しないようにする場合は、[リフレッシュ後に実行を延期] オプションを選択し、イベントを延期する日数、時間、または分数を指定します。

**曜日:** このスケジュールでは、イベントを実行する曜日を指定できます。イベントは、毎週同じ曜日に実行されます。

[曜日] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日曜日 ... 土曜日** : イベントを実行する曜日を指定します。
- ◆ **開始時刻** : イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : 設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

月 : このスケジュールでは、月の中でイベントを実行する日を 1 日または複数日指定できます。

[月] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日にち (月)** : イベントを実行する日にち (月) を指定します。有効な日は 1 から 31 です。29、30、または 31 を指定する場合、それらの日がない月にはイベントは実行されません。
- ◆ **最終日 (月)** : 日にちには関係なく、月の最終日 (28、30、または 31) にイベントが実行されます。
- ◆ **第 1 土曜日** : 週の特定日を指定します。たとえば、第 1 日曜日、または第 3 火曜日。 をクリックして、複数の日を追加します。
- ◆ **開始時刻** : イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : 設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] ボックスと [終了時刻] ボックスに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

**固定間隔**：このスケジュールでは、イベントを実行する日の間隔を指定できます。たとえば、14日ごとにイベントを実行することができます。

[**固定間隔**] を選択して、以下のフィールドに入力します。

- ◆ **月、週、日、時間、分**：イベントが実行される時間の間隔を指定します。月、週、日、時間、および分の任意の組み合わせを使用できます。たとえば、7日、8時間と1週間、8時間は同じスケジュールになります。
- ◆ **開始日**：間隔の最初の開始日を指定します。
- ◆ **開始時刻**：間隔の最初の開始時刻を指定します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**：設定したスケジュールが何らかの原因によりイベントを実行できなかった場合に、このイベントが即座に実行されます。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用**：開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **スケジュール実行を以下の日付範囲に限定**：イベントの実行が、開始日付、終了日付、および終了時刻で指定された期間に限定されます。



# アクション

[アクション] パネルには、バンドルで使用可能なアクションセットが表示されます。バンドルタイプによって、可能なアクションセットは、[配布] [インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[終了]、および [プレブート] です。たとえば、Windows バンドルを選択した場合、5 つすべてのアクションセットを使用できます。イメージングバンドルを選択した場合、[プレブート] アクションセットのみを使用できます。

アクションを、使用可能なアクションセットのいずれかに追加できます。追加する場合は、アクションセットを適用可能な場合はいつでも、そのアクションが実行されます。たとえば、あるアクションを [インストール] アクションセットに追加する場合は、バンドルがインストールされた場合はいつでも、そのアクションが実行されます。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks® コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

次のセクションでは、[配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、および [停止] のアクションセットで設定できるアクションについて説明します。プレブートアクションセットに設定できるアクションの詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management Preboot Services およびイメージングリファレンス](#)』の「[プレブートアクション](#)」を参照してください。

- ◆ [130 ページのセクション E.1 「アクション - パーソナリティの適用」](#)
- ◆ [132 ページのセクション E.2 「アクション - ディレクトリのコピー」](#)
- ◆ [135 ページのセクション E.3 「アクション - ファイルのコピー」](#)
- ◆ [137 ページのセクション E.4 「アクション - ディレクトリの作成 / 削除」](#)
- ◆ [139 ページのセクション E.5 「アクション - 遅延」](#)
- ◆ [141 ページのセクション E.6 「アクション - メッセージの表示」](#)
- ◆ [143 ページのセクション E.7 「アクション - ファイルの配布」](#)
- ◆ [143 ページのセクション E.8 「アクション - INI ファイルの編集」](#)
- ◆ [147 ページのセクション E.9 「アクション - テキストファイルの編集」](#)
- ◆ [150 ページのセクション E.10 「アクション - プロセスの終了」](#)
- ◆ [151 ページのセクション E.11 「アクション - ファイルの削除」](#)
- ◆ [152 ページのセクション E.12 「アクション - バンドルのインストール」](#)
- ◆ [153 ページのセクション E.13 「アクション - ディレクトリのインストール」](#)
- ◆ [156 ページのセクション E.14 「アクション - ファイルのインストール」](#)

- ◆ 160 ページのセクション E.15 「アクション - MSI のインストール」
- ◆ 164 ページのセクション E.16 「アクション - MSP のインストール」
- ◆ 166 ページのセクション E.17 「アクション - ネットワーク MSI のインストール」
- ◆ 169 ページのセクション E.18 「アクション - バンドルの起動」
- ◆ 170 ページのセクション E.19 「アクション - Java アプリケーションの起動」
- ◆ 172 ページのセクション E.20 「アクション - URL の起動」
- ◆ 173 ページのセクション E.21 「アクション - 実行可能ファイルの起動」
- ◆ 178 ページのセクション E.22 「アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動」
- ◆ 181 ページのセクション E.23 「アクション - ユーザにプロンプトを表示」
- ◆ 183 ページのセクション E.24 「アクション - 再起動 / シャットダウン」
- ◆ 186 ページのセクション E.25 「アクション - レジストリの編集」
- ◆ 192 ページのセクション E.26 「アクション - スクリプト実行」
- ◆ 198 ページのセクション E.27 「アクション - サービスの開始 / 停止」
- ◆ 200 ページのセクション E.28 「アクション - パーソナリティの保存」
- ◆ 202 ページのセクション E.29 「アクション - アプリケーションの終了」
- ◆ 204 ページのセクション E.30 「アクション - アプリケーションプロンプトの終了」
- ◆ 205 ページのセクション E.31 「アクション - インストールアクションを元に戻す」
- ◆ 206 ページのセクション E.32 「アクション - バンドルのアンインストール」
- ◆ 207 ページのセクション E.33 「アクション - バンドルの検証」
- ◆ 208 ページのセクション E.34 「アクション - インストールアクションの検証」

## E.1 アクション - パーソナリティの適用

[パーソナリティの適用] ページでは、マイグレーションで使用されるパーソナリティマイグレーションテンプレートおよび PNP(Platform Neutral Package) を指定できます

パーソナリティ移行テンプレートの詳細については、『[ZENworks 10 Personality Migration リファレンス](#)』を参照してください。

図 E-1 アクション- [パーソナリティの適用] ダイアログボックス

アクション追加 - パーソナリティの適用

アクション名: \* パーソナリティの適用

移行に使用するテンプレートを指定します \*

このデバイスからテンプレートをアップロードする:

管理対象デバイス上のテンプレートを指定する:

(たとえば、C:\Templates\PersonalityMigrationTemplate.xml)

PNPファイルのロード元のパス \*


PNPファイルを復号化するパスワード  
パスワードの入力

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。次に、[アクション] タブをクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして [パーソナリティの適用] アクションを選択します。

**このデバイスからテンプレートをアップロードする** このオプションを選択して、をクリックし、[コンテンツのアップロード] ダイアログボックスを表示します。アップロードするテンプレートを参照して選択します。

**管理対象デバイス上のテンプレートを指定する** このオプションを選択して、管理対象デバイス上のパーソナリティ移行テンプレートファイルのパスを指定します。ファイルのUNCパスを指定することもできます。

**PNP ファイルのロード元のパス** 移行設定およびデータを含んでいる管理対象デバイス上の PNP ファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスを指定することもできます。

**PNP ファイルを復号化するパスワード** このチェックボックスをオンにして、PNP ファイルを復号化するパスワードを入力します。

---

**注:** PNP ファイルをスパンした場合、スパンしたファイルと PNP ファイルを同じフォルダ内に残しておきます。

---

## E.2 アクション - ディレクトリのコピー

[アクション - ディレクトリのコピー] ダイアログボックスでは、コピーするディレクトリ、およびその宛先ディレクトリを指定できます。また、実行可能ファイルのセキュリティレベルも指定できます。

---

**注:** ファイルまたはディレクトリをコピーすると、ファイルまたはディレクトリが 1 つの場所から別の場所にコピーされます。ファイルが ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされることはありません。ファイルまたはディレクトリのコピーは、コンテンツを使用しないコピーと呼ばれています。ファイルまたはディレクトリをコピーする際、必ず管理対象デバイスでコピー操作を実行し、コピー元およびコピー先の両方のパスが解決されている必要があります。また、ファイルまたはディレクトリをコピーするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされません。

ファイルまたはディレクトリをインストールすると、ファイルまたはディレクトリは ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされてから、割り当てられたデバイスに配布されます。ファイルまたはディレクトリのインストールは、コンテンツを使用するコピーとして説明されています。ファイルまたはディレクトリをインストールするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされます。

実行可能ファイルをインストールしても、ファイルは起動あるいは実行されません。ファイルを起動または実行するには、バンドルに実行可能ファイルの起動アクション ( 実行可能ファイルの起動、Java アプリケーションの起動など ) を追加する必要があります。

---

図 E-2 [アクション-ディレクトリのコピー] ダイアログボックス

アクション追加 - ディレクトリのコピー

アクション名: \* ディレクトリのコピー

ソースディレクトリ: \*

参照

パスはバンドルを実行しているデバイスによって解決されなければなりません。

コピー先ディレクトリ: \*

パスはバンドルを実行しているデバイスによって解決されなければなりません。

非表示

読み込み専用

コピーオプション:

常にコピー

[詳細オプション](#)

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、

[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前] ) をクリックし、  
[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの1つを選択し  
ます。

**ソースディレクトリ** : Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしてい  
ない場合は、インストールしてからでないと、ディレクトリを参照することができませ  
ん。詳細については、[Novell File Upload 拡張機能](#)を参照してください。

[参照] をクリックして、[フォルダの参照] ダイアログボックスを表示します。コピーす  
るディレクトリを参照して選択します。パスは、バンドルが実行されるデバイスによっ  
て解決可能である必要があります。

**コピー先ディレクトリ** : ディレクトリをコピーするデバイスのコピー先パスを指定しま  
す。パスは、バンドルが実行されるデバイスによって解決可能である必要があります。

**非表示** : [非表示] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが非  
表示になるように指定します。

**読み込み専用** : [読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にディ  
レクトリが読み込み専用になるように指定します。

**コピーオプション** : リストからコピーオプションを選択します :

- ◆ **常にコピー** : ファイルが現在ワークステーション上にあるかどうかに関係なくディレ  
クトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **存在する場合にコピー** : ファイルが現在ワークステーション上にある場合のみ、ディ  
レクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **存在しない場合にコピー** : ファイルが現在ワークステーション上にない場合のみ、  
ディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **新しければコピー** : 既存ファイルの日時よりもファイルの変更日時が新しい場合、ま  
たはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ディレクトリのコンテ  
ンツをコピーします。
- ◆ **存在して新しければコピー** : すでにワークステーションに存在し、ファイルの変更日  
時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ディレクトリのコンテンツを  
コピーします。
- ◆ **新しいバージョンの場合にコピー** : ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバー  
ジョンより新しい場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします (バージョン  
情報が分かる場合)。
- ◆ **ユーザへ確認** : ディレクトリのコンテンツをコピーするかどうかを確認するメッセ  
ージを表示します。
- ◆ **異なる場合はコピー** : 作成日付、作成時間、またはファイルのサイズが既存のファ  
イルの日付、時間、またはサイズと異なる場合、ディレクトリのコンテンツをコピー  
します。

**実行プログラムのセキュリティレベル** : [詳細オプション] をクリックして、実行プログ  
ラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは  
「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプ  
ションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユー  
ザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベル  
を継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者(次を参照)として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：このアクションは、ログインユーザの資格情報を使用します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行(システムがデスクトップを操作することを許可しない)**：アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション(たとえば、ある種の MSI アプリケーション)をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

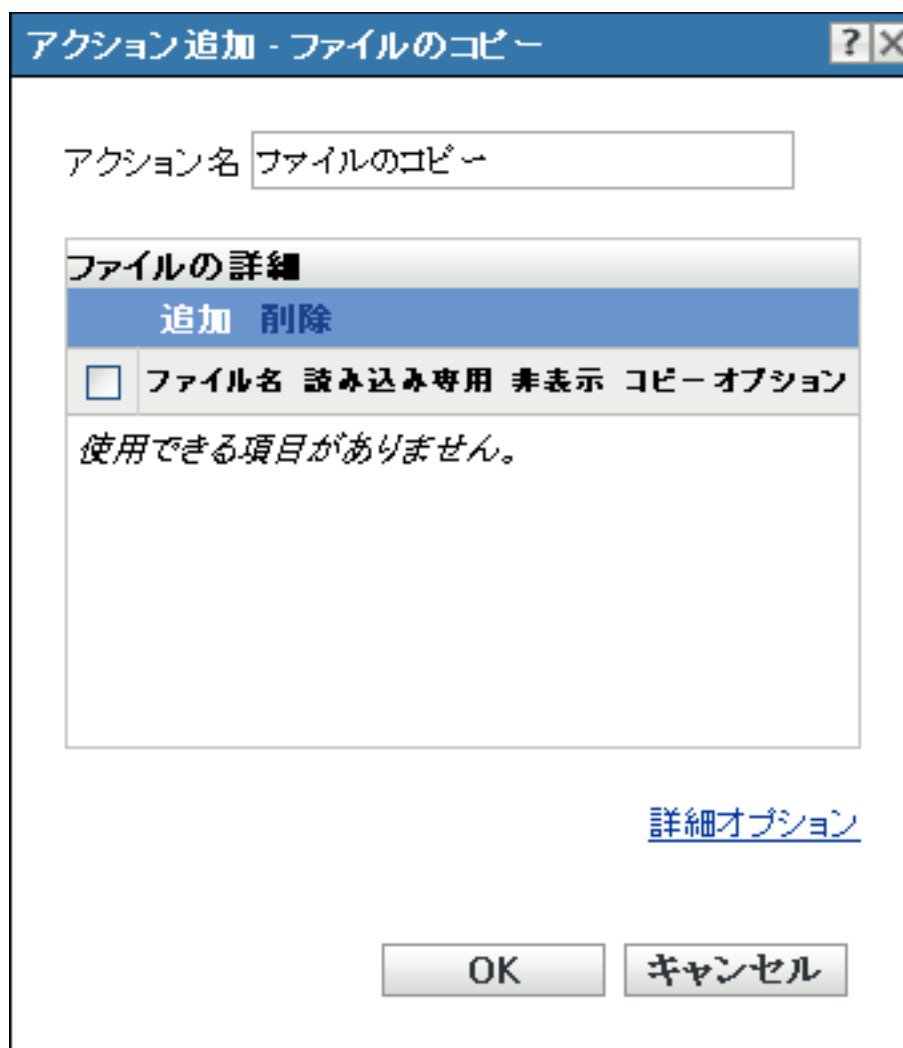
**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

## E.3 アクション - ファイルのコピー

[アクション - ファイルのコピー] ダイアログボックスでは、デバイスにコピーするファイルを指定できます。

図 E-3 [アクション- ファイルのコピー] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ファイルの詳細:** [追加] をクリックして、[ファイルの選択] ダイアログボックスを表示します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。



Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者(次を参照)として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：このアクションは、ログインユーザの資格情報を使用します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない)**：アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション(たとえば、ある種の MSI アプリケーション)をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

## E.4 アクション - ディレクトリの作成 / 削除

[アクション - 作成 / 削除] ダイアログボックスでは、管理対象デバイスでディレクトリを作成または削除できます。

図 E-4 [アクション-ディレクトリの作成/削除] ダイアログボックス

アクション追加 - ディレクトリの作成/削除

アクション名: ディレクトリの作成/削除

アクションタイプ:  ディレクトリの作成  
 ディレクトリの削除

ディレクトリ名: \*

パスはバンドルを実行しているデバイスによって解決されなければなりません。

[詳細オプション](#)

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスできます。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクトティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクトティブバンドルの作成」を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ディレクトリの作成:** アクションが実行された場合に、管理対象デバイスでディレクトリを作成します。

**ディレクトリの削除:** アクションが実行された場合に、管理対象デバイスでディレクトリを削除します。

**ディレクトリ名:** 管理対象デバイスで作成または削除するディレクトリの完全なパスを指定します。このパスはバンドルが実行されるデバイスによって解決される必要があります。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者(次を参照)として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：このアクションは、ログインユーザの資格情報を使用します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない)**：アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション(たとえば、ある種の MSI アプリケーション)をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

## E.5 アクション - 遅延

[アクション - 遅延] ダイアログボックスでは、アクションセット内の 2 つのアクション間のシステム遅延を指定できます。

図 E-5 [アクション-遅延] ダイアログボックス

アクション追加 - 遅延

アクション名

時間遅延の設定方法

指定時間に遅れています。

時間遅延  (秒単位)

最大時間遅延および開始するプロセス/サービスの設定方法

開始するプロセスまたはサービスを待機

プロセスおよびサービスのリスト:

追加...  
編集...  
削除

最長待機時間  (秒単位)

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**指定時間に対する遅延：**希望する時間遅延を秒単位で指定します。アクションの完了後、次のアクションの実行前にシステムは指定済みの時間だけ遅延します。

**開始するプロセスまたはサービスを待機：**アクションセット内の次のアクションが実行される前に開始する必要があるプロセスまたはサービスを指定します。

プロセスまたはサービスをリストに追加するには、次の手順に従います。

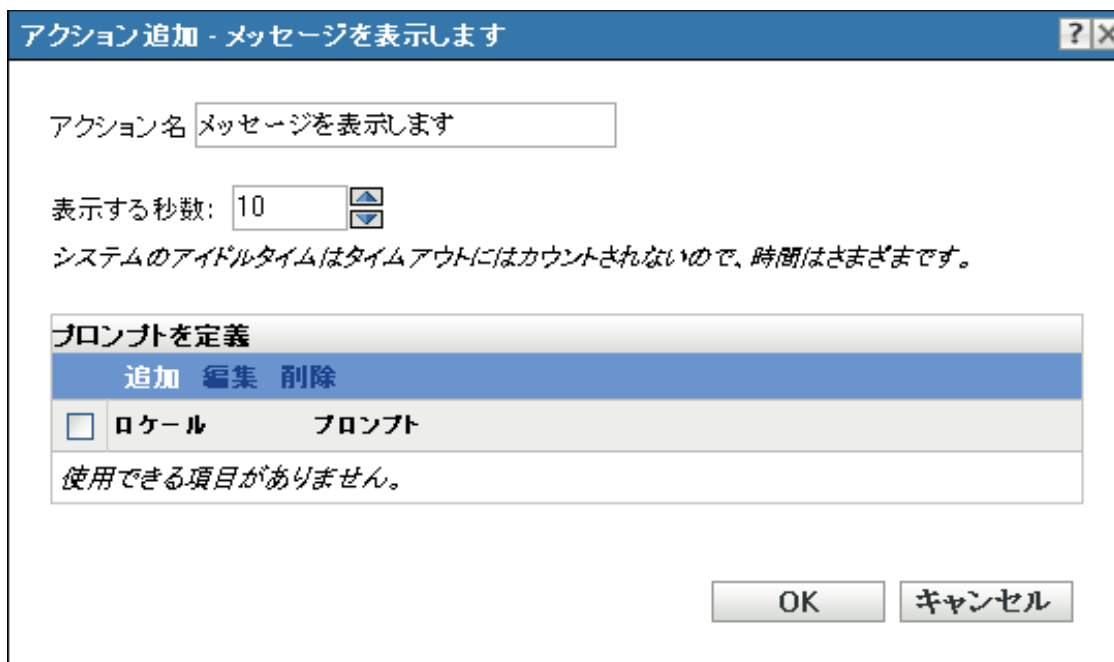
- 1 [追加] をクリックして、[サービス/プロセスの追加] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [プロセス] を選択して、次のアクションが実行される前に開始する必要があるプロセスを指定し、[OK] をクリックします。プロセスの名前またはプロセスのフルパスのいずれかを指定できます。たとえば、notepad.exe と指定することも、`${SystemRoot}\system32\notepad.exe` と指定することもできます。  
または  
[サービス] を選択して、次のアクションが実行される前に開始する必要があるサービスを指定し、[OK] をクリックします。
- 3 必要に応じて、手順 2 を繰り返します。
- 4 アクションセット内の次のアクションを実行する前に、開始するプロセスまたはサービスの最大待ち時間を指定します。プロセスまたはサービスが指定済み時間内に開始されない場合は、次のアクションが実行されます。
- 5 [OK] をクリックします。

[編集] をクリックしてプロセスまたはサービスを変更するか、[削除] をクリックしてプロセスまたはサービスを削除します。

## E.6 アクション - メッセージの表示

[アクション - メッセージの表示] ダイアログボックスでは、アクションが実行された場合のデバイスに表示されるメッセージを指定できます。

図 E-6 [アクション-メッセージの表示] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**表示する秒数:** デバイスにメッセージが表示される秒数を指定します。

**プロンプトを定義:** デバイス上に表示するプロンプトを定義します。さらに、異なるメッセージで別のロケールを指定できます。

メッセージを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [追加] をクリックして、[ロケールとプロンプトの選択] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [ロケール] ドロップダウンリストから言語を選択します。メッセージは、指定したロケールでのみデバイス上に表示されます。独自のロケール設定を持つ異なるメッセージを作成できます。
- 3 デバイスに表示するテキストを指定します。  
テキストに {0} を含めると、0 までの秒数をカウントダウンする動作カウンタを提供できます。カウンタが 0 になると、プロンプトは自動的に受け入れられます。たとえば、次のテキストを指定できます。

作業を保存して、開いているアプリケーションをすべて閉じてください。

このメッセージは、[表示する秒数] フィールドで指定した秒数表示されます。

4 [OK] をクリックします。

[編集] をクリックしてプロンプトを変更するか、[削除] をクリックしてプロンプトを削除します。

## E.7 アクション - ファイルの配布

[ファイルの配布] アクションは、ZENworks サーバから管理対象デバイスまたはユーザーにバンドルのコンテンツを配布します。このアクションに実行する必要がある環境設定タスクはありません。

## E.8 アクション - INI ファイルの編集

[アクション - INI ファイルの編集] ダイアログボックスでは、ファイルを指定し、そのファイルで実行される変更のリストを設定できます。また、ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成できます。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- [143 ページのセクション E.8.1 「ファイル名」](#)
- [143 ページのセクション E.8.2 「エンコーディング」](#)
- [144 ページのセクション E.8.3 「ファイルが存在しない場合は、作成」](#)
- [144 ページのセクション E.8.4 「INI の変更」](#)
- [146 ページのセクション E.8.5 「詳細オプション」](#)

### E.8.1 ファイル名

変更するファイルを指定します。たとえば、C:\Program Files\OpenOffice.org 2.0\program\setup.ini です。

### E.8.2 エンコーディング

使用するエンコーディングを指定します。

**自動検出:** [ファイル名] フィールドで指定した元のファイルで使用したエンコーディングを使用します。これはデフォルトの設定です。

**ASCII:** ASCII エンコーディングを使用します。

**Unicode:** Unicode\* エンコーディングを使用する。

**UTF-8:** UTF-8 (8-bit UCS/Unicode Transformation Format) エンコーディングを使用します。

### E.8.3 ファイルが存在しない場合は、作成

ファイルが存在しない場合に、[ファイル名] フィールドで指定済みのファイルを作成するかどうかを指定します。ファイルは、[ファイルパス] で指定した名前と拡張子で作成されます。[ファイルパス] で指定したファイルに拡張子がない場合、作成されるファイルにも拡張子は付けられません。

このオプションを選択し、[エンコーディング] を [自動検出] に設定した場合、ファイルは [ファイルパス] で指定した名前と拡張子を使用して UTF-8 形式で作成されます。

### E.8.4 INI の変更

[Ini の変更点] ページでは、変更する INI ファイルの指定、ファイルへのセクションの追加、そのファイル内のセクションへのキーの追加、および他の INI ファイルからの変更のインポートを行うことができます。

図 E-7 [アクション-INI ファイルの編集] ダイアログボックス: [Ini の変更点] ページ

アクション追加 - INIファイルの編集

アクション名: INIファイルの編集

Iniの変更点      詳細オプション

iniファイルを指定し、そのファイルで実行される変更を設定します。

ファイル名 \*  (例: C:\Program Files\OpenOffice.org 2.0\program\setup.ini)

ファイルが存在しない場合は、作成

追加 ▾ 編集 ▾ 削除 インポート

Iniの変更点

次のようにアクションを実行: \* システム ▾

注: マップされたドライブにあるINIファイルを編集するには、ユーザとしてアクションを実行します。

OK      キャンセル



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

次の表は、INI の変更を管理するために実行できるタスクの一覧を示しています。

**表 E-1** INI タスク

タスク	手順	追加の詳細
変更する INI ファイルを指定する	1. 変更するファイルを指定します。	たとえば、C:\Program Files\OpenOffice.org 2.0\program\setup.ini です。
セクションを追加する	1. [追加] をクリックし、次に [新しいセクション変更] をクリックして [変更を追加] ダイアログボックスを開きます。 2. フィールドに入力し、[OK] をクリックします。 詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。	既存のセクションを指定し、リストに新しいキーを追加すると、既存のセクションは新しく追加されたキーによって更新されます。たとえば、k1=v1 というキーを持つセクション sect1 がすでに存在し、新しいセクション sect1 に k1=v1、k2=v2 というキーを指定すると、新しく追加されたキー k2=v2 が sect1 に追加されます。
セクションにキーを追加する	1. キーを追加するセクションをクリックします。 2. INI ファイル内のセクションに追加するキーを指定します。たとえば、[key1] または [key1=value1] のようにキーを入力してから、[追加] をクリックしてキーをリストに移動します。 エントリを編集または削除できます。また、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えできます。ファイルへの変更は、リストされた順に実行されます。	
Ini の変更点の編集	1. 編集する目的の項目をクリックします。[変更を追加] ダイアログボックスが表示されます。	そのセクションに設定されている [セクション変更タイプ] が、デフォルトで [変更の追加] ダイアログボックスに表示されます。
セクションまたはキーを削除する	1. 目的の項目の横にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。	

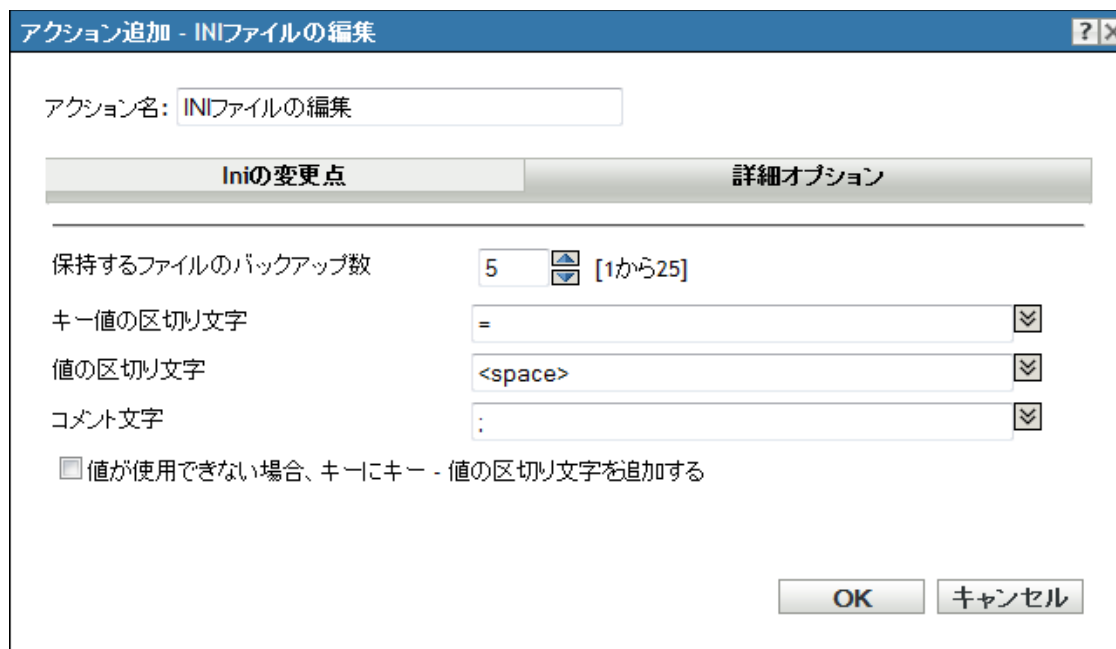
タスク	手順	追加の詳細
他のファイルから INI の変更をインポートする	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [インポート] をクリックして、[Ini の変更点をファイルからインポートする] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. 変更のインポート元のファイルを指定して、[OK] をクリックします。</li> </ol>	
項目の順序を変更する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 項目の横にあるチェックボックスをオンにして、[編集] をクリックし、次にオプション ( [ソート]、[上へ移動]、[下へ移動] ) を選択します。</li> </ol>	
親フォルダのすべてのオブジェクトを選択する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親フォルダの横にあるチェックボックスをオンにして、[編集] &gt; [すべての子を選択] の順にクリックします。</li> </ol>	
親フォルダのすべてのオブジェクトの選択を解除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親フォルダの横にあるチェックボックスをオンにして、[編集] &gt; [すべての子を選択解除] の順にクリックします。</li> </ol>	
選択をクリア	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [編集] &gt; [選択をクリア] をクリックします。</li> </ol>	

名前を付けてアクションを実行: [次のようにアクションを実行] リストから [システム] (デフォルト) または [ユーザ] を指定します。ファイルの削除に、デバイスのファイルシステムのすべての領域へのアクセスが必要な場合は、[システム] を指定します。マップされたネットワークドライブを使用してファイルおよびディレクトリを指定する場合、[ユーザ] としてアクションを実行する必要があります。

## E.8.5 詳細オプション

[詳細オプション] ページでは、ファイルの作成 (ファイルがない場合)、保持するバックアップファイルの数の指定、およびキー値セパレータとコメント文字の指定を行うことができます。

図 E-8 [アクション-Ini ファイルの編集] ダイアログボックス: [詳細オプション] ページ



ファイルが存在しない場合は、作成: ファイルが存在しない場合に、[ファイル名] フィールドで指定済みのファイルを作成するかどうかを指定します。

**保持するファイルのバックアップの数:** 保持する INI ファイルのバックアップの数を指定します。デフォルトはバックアップの数は 5 ですが、1 から 25 の間のいずれの数字でも指定できます。ファイルのバックアップの数がここで指定した数を超える場合は、最も古いバックアップファイルが上書きされます。

**キーと値の区切り:** キーと値を区切る文字を指定します。等号記号 (=) またはコロン (: ) を使用できます。

**値の区切り文字:** 複数の値を区切る文字を指定します。等号 (=)、コンマ (,)、スペース ()、ハッシュ (#)、セミコロン (;)、コロン (: ) などの文字を使用できます。

**コメント文字:** INI ファイル内のコメントに先行する文字を指定します。セミコロン (;) またはシャープ記号 (#) を使用できます。

**値が使用可能でない場合、キーに値の区切り文字を追加:** 値が使用可能でなくてもキーに値の区切り文字を追加するにはこのオプションを選択します。たとえば、Acrobat Reader\* で使用する *setup.ini* ファイルでは、*CmdLine* キーに値はありませんが、キーと値の区切り文字は必要です。

## E.9 アクション - テキストファイルの編集

[アクション - テキストファイルの編集] ダイアログボックスでは、ファイルを指定し、そのファイルで実行される変更のリストを設定できます。

図 E-9 [アクション-テキストファイルの編集] ダイアログボックス

アクション追加 - テキストファイルの編集

アクション名: テキストファイルの編集

---

管理対象デバイス上のファイルを設定する

ファイル名 \*   
(たとえば、 $S\{SystemDrive}\backslash Program Files\myfile.txt$ )

保持するファイルのバックアップ  [1から25]

エンコード

---

ファイル操作

このデバイスでの既存のファイルからコンテンツをインポート

ファイルのコンテンツ \*

ファイルが存在しない場合は、作成

次のようにアクションを実行: \*

注: マップされたドライブにあるファイルを編集するには、ユーザとしてアクションを実行します。

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ **アクションバンドルカテゴリ**を使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ **ZENworks コントロールセンター**で、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ファイル名** : 変更するファイルを指定します。たとえば、`{SystemDrive}\Program Files\myfile.txt` です。

**保持するファイルのバックアップ** : 保持するテキストファイルのバックアップの数を指定します。デフォルトはバックアップの数は 5 ですが、1 から 25 の間のいずれの数字でも指定できます。ファイルのバックアップの数がここで指定した数を超える場合は、最も古いバックアップファイルが上書きされます。

**エンコード** : 使用するエンコーディングを指定します。

- ◆ **自動検出** : [ファイル名] フィールドで指定した元のファイルで使用したエンコーディングを使用します。これはデフォルトの設定です。
- ◆ **ASCII** : ASCII エンコーディングを使用します。
- ◆ **Unicode** : Unicode\* エンコーディングを使用する
- ◆ **UTF-8** : UTF-8 (8-bit UCS/Unicode Transformation Format) エンコーディングを使用します。

**ファイル操作 > ファイルのコンテンツを指定** : このオプションを使用して、テキストファイルのコンテンツを指定します。

- ◆ **このデバイスでの既存のファイルからコンテンツをインポート** : コンテンツのインポート元のテキストファイルを参照して選択します。
- ◆ **ファイルのコンテンツ** : 新たに作成されたファイルのコンテンツを指定します。
- ◆ **ファイルが存在しない場合は、作成** : ファイルが存在しない場合に、[ファイル名] フィールドで指定済みのファイルを作成するかどうかを指定します。このオプションを選択し、[エンコーディング] を [自動検出] に設定した場合、ファイルは [ファイルパス] で指定した名前と拡張子を使用して UTF-8 形式で作成されます。

**ファイル操作 > ファイルに変更を指定** : このオプションを使用して、テキストファイルに対する変更を指定します。

- ◆ **変更リスト** : テキストファイルへの変更を指定します。[追加] をクリックして [変更を追加] ダイアログボックスを開き、フィールドに入力してから [OK] をクリックします。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

エントリを編集または削除できます。また、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えできます。ファイルへの変更は、リストされた順に実行されます。

- ◆ **ファイルが存在しない場合は、作成** : ファイルが存在しない場合に、[ファイル名] フィールドで指定済みのファイルを作成するかどうかを指定します。

- ◆ **ファイルのコンテンツ** : [ファイルが存在しない場合は、作成] チェックボックスを選択した場合は、指定済みファイルが存在しない場合は作成される、新しく作成されたファイルのコンテンツを指定します。
- ◆ **変更リストで設定された変更を適用** : [変更リスト] ボックスに追加した変更を新しく作成されたファイルに適用するかどうかを指定します。

**名前を付けてアクションを実行** : [次のようにアクションを実行] リストから [システム] (デフォルト) または [ユーザ] を指定します。ファイルの削除に、デバイスのファイルシステムのすべての領域へのアクセスが必要な場合は、[システム] を指定します。マップされたネットワークドライブを使用してファイルおよびディレクトリを指定する場合、[ユーザ] としてアクションを実行する必要があります。

## E.10 アクション - プロセスの終了

[アクション - プロセスの終了] ダイアログボックスでは、停止するプロセスの実行プログラムの名前を指定できます (たとえば、notepad、mspaint、winword などです)。プロセスがデバイス上で実行されない場合は、[プロセスの終了] タスクが完了します。

図 E-10 [アクション - プロセスの終了] ダイアログボックス

アクション追加 - プロセスの終了

アクション名

デバイスの停止プロセスアクションを設定します。  
プロセスを停止するには、実行名を使用します。

停止するプロセス \*

(例: notepad、mspaint、winword)

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

## E.11 アクション - ファイルの削除

[アクション - ファイルの削除] ダイアログボックスでは、デバイスから削除するファイルまたはディレクトリを指定できます。

図 E-11 [アクション - ファイルの削除] ダイアログボックス

アクション追加 - ファイルの削除

アクション名

削除するファイル/ディレクトリを指定します。パス中に、\*、?のようなワイルドカードを使用することもできます。  
例: C:\backup\\*.log

ソースファイル/ディレクトリのフルパス: \*

システムファイルをインクルード

空白の場合にのみ、フォルダを削除する

ファイルがロックされている場合は、再試行してください  時間、すべての  秒

次のようにアクションを実行 \*

注: ファイルをマップされたドライブから削除するには、ユーザとしてアクションを実行します。

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

このアクションを使用して、自動システムクリーンアップを実行できます。たとえば、c:\windows\Temp\Temporary Internet Files ディレクトリおよび c:\windows\Temp\*.log in に一致するすべてのファイルをデバイスから削除するように指定できます。

読み込み専用ファイルは削除できません。複数のファイル (読み込み専用ファイルも含めて) が含まれるディレクトリを指定する場合、ファイルの削除アクションが実行されてもディレクトリおよび読み込み専用ファイルは削除されません。ただし、読み込み専用でないファイルはデバイスから削除されます。

**ソースファイル/ディレクトリのフルパス:** 削除するファイルまたはディレクトリのフルパスを指定し、[追加] をクリックして、ファイルまたはディレクトリをリストに追加します。ワイルドカード文字を使用できます。マップされたネットワークドライブを使用してパスを指定する場合、[名前を付けてアクションを実行] リストから [ユーザ] を選択する必要があります。

**システムファイルをインクルード:** システムファイルを削除するには、このオプションを選択します。システムファイルおよび非システムファイルを含むディレクトリの削除を指定する場合は、このオプションを指定するまでは、非システムファイルのみが削除されます。

**空白の場合にのみ、フォルダを削除する:** 指定したファイルまたはディレクトリをデバイスから削除すると空になる、すべてのフォルダを削除する場合に、このオプションを選択します。

**When a File is Locked, Retry \_ Times, Every \_ Seconds (ファイルがロックされている場合は、再試行してください\_回、\_秒ごとに):** アクションの実行時にファイルがロックされている場合は、そのファイルを削除できません。チェックボックスを選択してから、再試行の数と試行の間の時間を指定します。デフォルトでは、アクションは 3 回、間隔は 5 秒ごとに再試行されます。

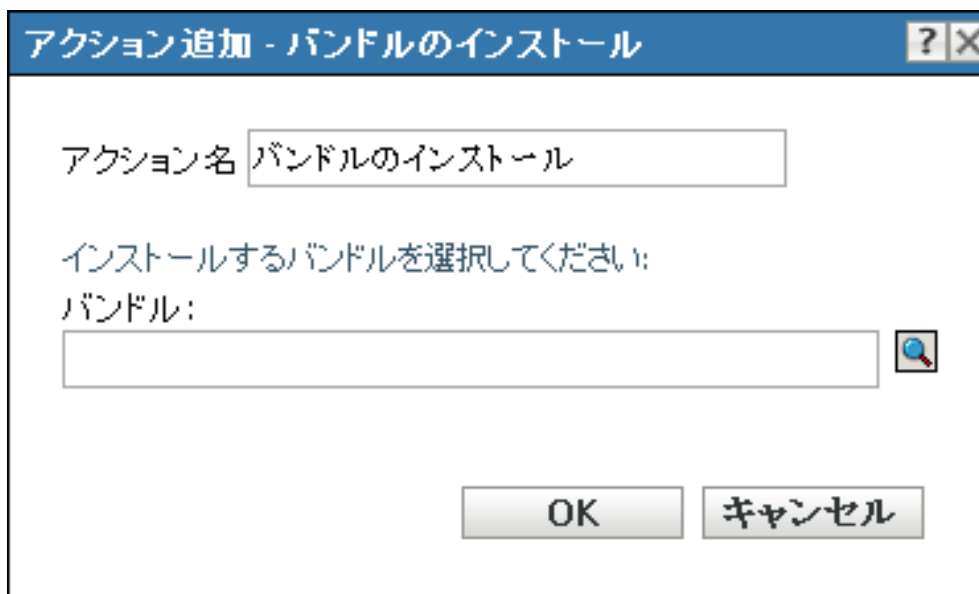
**名前を付けてアクションを実行:** [次のようにアクションを実行] リストから [システム] (デフォルト) または [ユーザ] を指定します。ファイルの削除に、デバイスのファイルシステムのすべての領域へのアクセスが必要な場合は、[システム] を指定します。マップされたネットワークドライブを使用してファイルおよびディレクトリを指定する場合、[ユーザ] としてアクションを実行する必要があります。

## E.12 アクション - バンドルのインストール

[アクション - バンドルのインストール] ダイアログボックスでは、デバイスにインストールするバンドルを参照して選択できます。バンドルは、そのデバイスに以前割り当てられていない場合でも、デバイスにインストールされます。



図 E-12 [アクション-バンドルのインストール] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

ディレクティブバンドルのインストールに、[バンドルのインストール] アクションは使用できません。

このアクションを作成すると、バンドル従属が作成されます。詳細については、[13 ページのセクション 1.4「従属バンドル」](#)を参照してください。

## E.13 アクション - ディレクトリのインストール

[アクション-ディレクトリのインストール] ダイアログボックスでは、インストールされるディレクトリ、宛先およびソースディレクトリ、デバイスにインストールされた後でディレクトリを非表示にするか読み込み専用にするか、およびコピーオプションを指定できます。このページを使用して Novell File Upload 拡張機能をインストールすることもできます。この拡張機能により、ディレクトリを参照できます。

ファイルまたはディレクトリをコピーすると、ファイルまたはディレクトリが 1 つの場所から別の場所にコピーされます。ファイルが ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされることはありません。ファイルまたはディレクトリのコピーは、コンテンツを使用しないコピーと呼ばれています。ファイルまたはディレクトリをコピーする際、

必ず管理対象デバイスでコピー操作を実行し、コピー元およびコピー先の両方のパスが解決されている必要があります。また、ファイルまたはディレクトリをコピーするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされません。

ファイルまたはディレクトリをインストールすると、ファイルまたはディレクトリはZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされてから、割り当てられたデバイスに配布されます。ファイルまたはディレクトリのインストールは、コンテンツを使用するコピーとして説明されています。ファイルまたはディレクトリをインストールするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされます。ディレクトリにコンテンツが何もない場合は、コンテンツリポジトリにはアップロードされません。これによって、この空のディレクトリに依存する後続のアクションは失敗します。


実行可能ファイルをインストールしても、ファイルは起動あるいは実行されません。ファイルを起動または実行するには、バンドルに実行可能ファイルの起動アクション(実行可能ファイルの起動、Java アプリケーションの起動など)を追加する必要があります。

図 E-13 [アクション-インストールディレクトリ] ダイアログボックス

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。

- ◆ ファイルバンドル作成処理の一部。詳細については、[24 ページのセクション 2.2 「ファイルバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ソースディレクトリ:**  をクリックして、デバイスにインストールするディレクトリを参照して選択します。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、インストールするディレクトリを参照してアップロードすることができません。詳細については、[119 ページの 「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

**コピー先ディレクトリ:** ディレクトリのインストール先であるデバイスの宛先ディレクトリを指定します。

**非表示:** [非表示] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが非表示になるように指定します。

**読み込み専用:** [読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にディレクトリが読み込み専用になるように指定します。

**コピーオプション:** リストからコピーオプションを選択します:

- ◆ **常にコピー:** ファイルが現在ワークステーション上にあるかどうかに関係なくディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **存在する場合にコピー:** ファイルが現在ワークステーション上にある場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **存在しない場合にコピー:** ファイルが現在ワークステーション上にない場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **新しければコピー:** 既存ファイルの日時よりもファイルの変更日時が新しい場合、またはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **存在して新しければコピー:** すでにワークステーションに存在し、ファイルの変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ディレクトリのコンテンツをコピーします。
- ◆ **新しいバージョンの場合にコピー:** ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバージョンより新しい場合のみ、ディレクトリのコンテンツをコピーします (バージョン情報が分かる場合)。
- ◆ **ユーザへ確認:** ディレクトリのコンテンツをコピーするかどうかを確認するメッセージを表示します。
- ◆ **異なる場合はコピー:** 作成日、作成時間、またはファイルのサイズが既存のファイルの日付、時間、またはサイズと異なる場合、ディレクトリのコンテンツをコピーします。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者(次を参照)として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：このアクションは、ログインユーザの資格情報を使用します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない)**：アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション(たとえば、ある種の MSI アプリケーション)をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

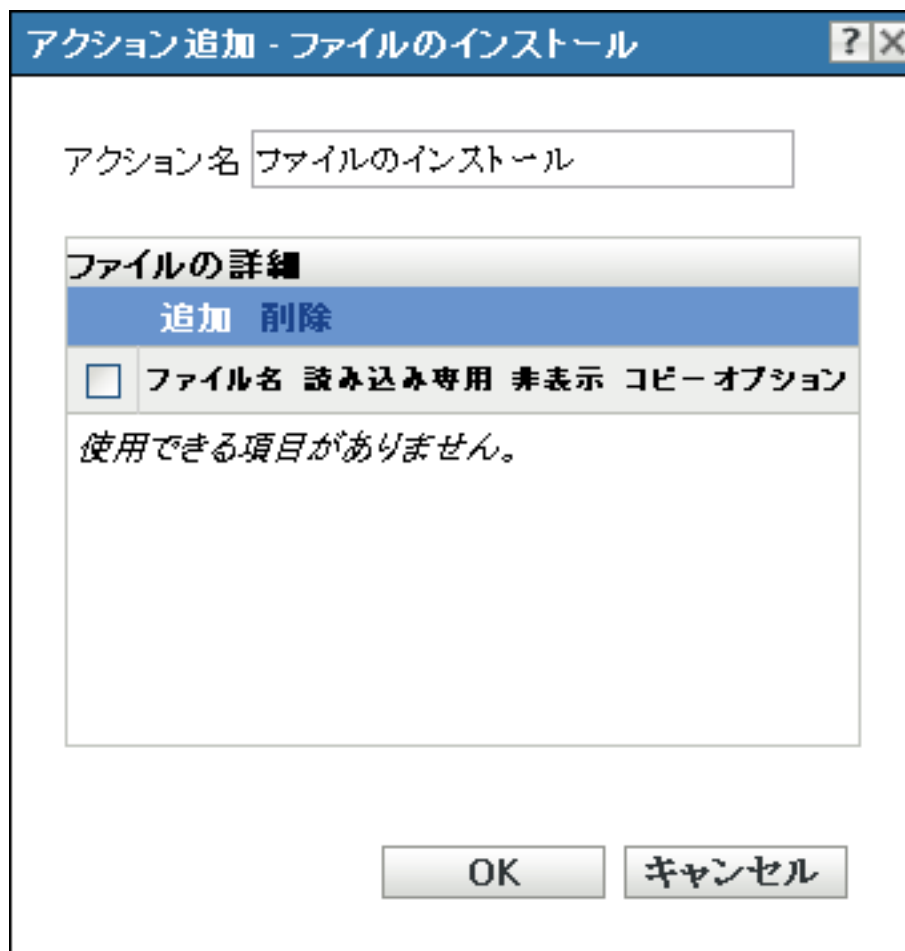
**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

## E.14 アクション - ファイルのインストール

[アクション - ファイルのインストール] ダイアログボックスでは、コンテンツサーバとデバイス間でコピーするファイル、宛先ディレクトリとファイル名、およびコピーオプションを指定できます。

図 E-14 [アクション - Install Files (ファイルのインストール)] ダイアログボックス

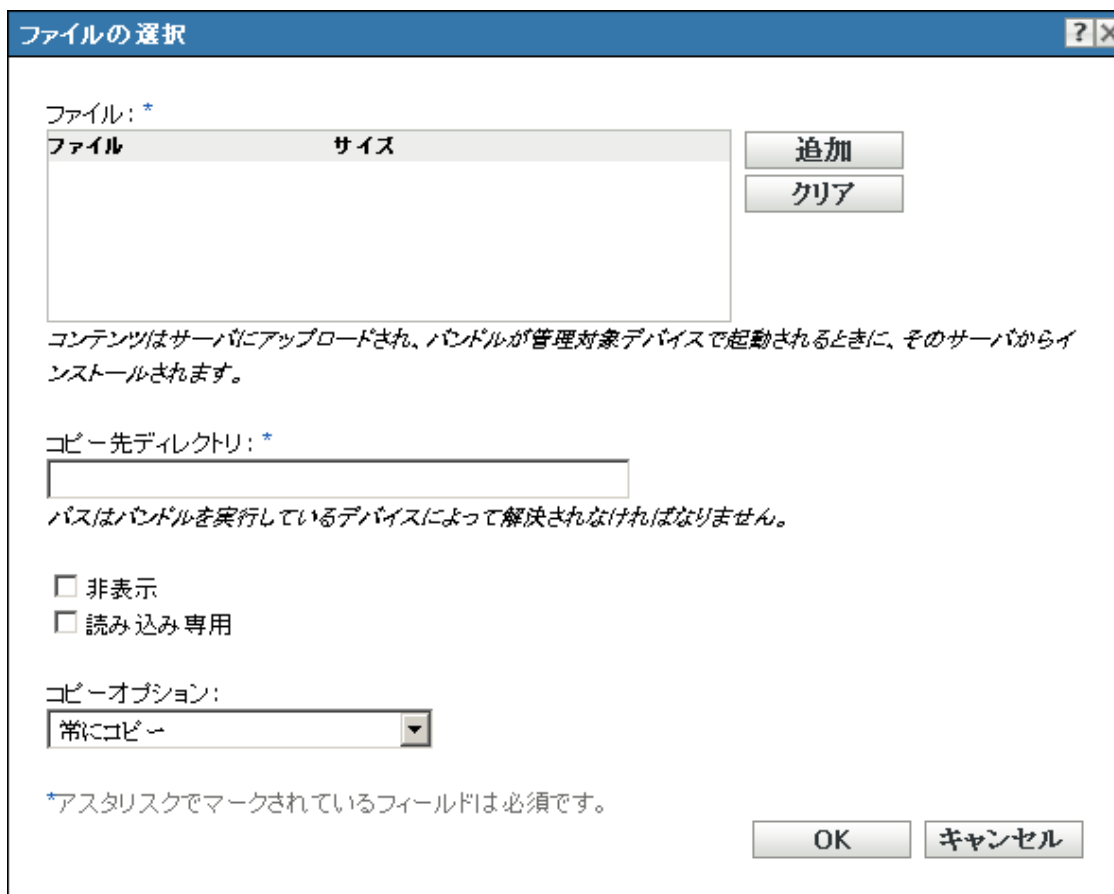


このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ファイルバンドル作成処理の一部。詳細については、[24 ページのセクション 2.2 「ファイルバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

[アクション - インストール] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。[ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 E-15 [ファイルの選択] ダイアログボックス



[ファイルの選択] ダイアログボックスでは、コピーするファイル、宛先ディレクトリとソースディレクトリ、デバイスにコピーされた後でファイルを非表示にするか読み込み専用にするか、およびコピーオプションを指定できます。このページを使用して、Novell File Upload 拡張機能をインストールすることもできます。この拡張機能をインストールしてからでないと、ファイルの参照およびアップロードはできません。

ファイルまたはディレクトリをコピーすると、ファイルまたはディレクトリが1つの場所から別の場所にコピーされます。ファイルが ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされることはありません。ファイルまたはディレクトリのコピーは、コンテンツを使用しないコピーと呼ばれています。ファイルまたはディレクトリをコピーする際、必ず管理対象デバイスでコピー操作を実行し、コピー元およびコピー先の両方のパスが解決されている必要があります。また、ファイルまたはディレクトリをコピーするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされません。

ファイルまたはディレクトリをインストールすると、ファイルまたはディレクトリは ZENworks コンテンツレポジトリにアップロードされてから、割り当てられたデバイスに配布されます。ファイルまたはディレクトリのインストールは、コンテンツを使用するコピーとして説明されています。ファイルまたはディレクトリをインストールするとき、ファイルまたはディレクトリは管理対象デバイスにキャッシュされます。

実行可能ファイルをインストールしても、ファイルは起動あるいは実行されません。ファイルを起動または実行するには、バンドルに実行可能ファイルの起動アクション(実行可能ファイルの起動、Java アプリケーションの起動など)を追加する必要があります。

**ファイル:** [追加] をクリックして [ファイルの選択] ダイアログボックスを表示します。デバイスにコピーするファイルを選択して、[開く] をクリックします。目的のファイルをコピーするために、必要な回数この手順を繰り返します。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照できません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#) を参照してください。

**コピー先ディレクトリ:** ファイルのインストール先であるデバイスの宛先ディレクトリを指定します。

**非表示:** [非表示] チェックボックスを選択して、インストール後にファイルが非表示になるように指定します。

**読み込み専用:** [読み込み専用] チェックボックスをオンにして、インストール後にファイルが読み込み専用になるように指定します。

**コピーオプション:** リストからコピーオプションを選択します:

- ◆ **常にコピー:** ファイルがワークステーション上に現在あるかどうかに関係なくファイルをコピーします。
- ◆ **存在する場合にコピー:** ファイルがワークステーション上に現在ある場合にそのファイルをコピーします。
- ◆ **存在しない場合にコピー:** ファイルがワークステーション上に現在ない場合にそのファイルをコピーします。
- ◆ **新しければコピー:** 既存ファイルの日時よりもファイルの変更日時が新しい場合、またはファイルが現在ワークステーション上にない場合に限り、ファイルをコピーします。
- ◆ **存在して新しければコピー:** すでにワークステーションに存在するファイルで、その変更日時が既存のファイルの変更日時より新しい場合に限り、ファイルをコピーします。
- ◆ **新しいバージョンの場合にコピー:** ファイルの内部バージョンが既存ファイルのバージョンより新しい場合に限り、ファイルをコピーします (バージョン情報がある場合)。
- ◆ **ユーザへ確認:** ファイルをコピーするかどうかを確認するメッセージを表示します。
- ◆ **異なる場合はコピー:** ファイルの作成日、作成時間、またはサイズが既存ファイルの日付、時間、またはサイズと異なる場合に限り、ファイルをコピーします。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者(次を参照)として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：このアクションは、ログインユーザの資格情報を使用します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行(システムがデスクトップを操作することを許可しない)**：アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション(たとえば、ある種の MSI アプリケーション)をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

## E.15 アクション - MSI のインストール

[アクション - MSI のインストール] ダイアログボックスでは、MSI ファイルの場所、そのインストール、アンインストール、修復のパラメータ、転送ファイル、および実行プログラムのセキュリティレベルを指定できます。



図 E-16 [アクション-MSI のインストール] ダイアログボックス

アクション追加 - MSIのインストール

アクション名 MSIのインストール

.msiファイル: \*

msiexec用のパラメータを選択します。  
パラメータをインストールしてください: \*

パラメータをアンインストールしてください:

パラメータを修復してください:

変換ファイルの選択

追加 削除

ファイルの変換      ネットワークファイルの場所

使用できる項目がありません。

MSIプロパティ:

追加 編集 削除

名前 値

使用できる項目がありません。

\*アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。  
[詳細オプション](#)


OK キャンセル


このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。


- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**.msi ファイル:** をクリックして、[.msi ファイルの選択] ダイアログボックスを表示します。インストールする .msi ファイルを参照して選択します。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルを参照してアップロードすることができません。詳細については、119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」を参照してください。

**パラメータのインストール:**  をクリックして、[\[パラメータのインストール\] ダイアログボックス](#)を表示してか、目的のパラメータを指定します。詳細については、[\[ヘルプ\] ボタン](#)をクリックしてください。

**パラメータのアンインストール:**  をクリックして、[\[パラメータのアンインストール\] ダイアログボックス](#)を表示し目的のパラメータを指定します。詳細については、[\[ヘルプ\] ボタン](#)をクリックしてください。

**パラメータの修復:**  をクリックして、[\[パラメータの修復\] ダイアログボックス](#)を表示し、目的のパラメータを指定します。詳細については、[\[ヘルプ\] ボタン](#)をクリックしてください。

**変換ファイル:** [\[追加\]](#) をクリックし、目的の転送ファイルを参照して選択します。転送ファイルをアップロード、またはその場所を指定できます。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照することができません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

組織内の異なるグループで同じアプリケーションを使用することがよくありますが、同じ機能セットを必要としないこともあります。Windows Installer の利点の 1 つは、10 個のグループで、10 個の異なる機能セットまたは同じアプリケーションに対して別の修正を必要としている場合、各グループに異なる変換ファイル (MST) を適用して、10 個のすべてのユーザーグループに同じ MSI パッケージを展開できます。

変換ファイルとは、MSI インストールに適用された変更のコレクションです。これには、機能がインストールされるかどうか、どのようにインストールされるか、どのファイル、ショートカット、およびレジストリエントリが含まれるか、および [\[プログラムの追加と削除\]](#) のアプレット情報などの、すべての変更情報が含まれています。

ベンダから提供された MSI パッケージを持っている場合は、AdminStudio ZENworks Edition を使用して、変換を作成および管理できます。

**MSI プロパティ:** MSI パッケージには、アプリケーションの管理インストール中に定義されたプロパティ値が含まれています。これらのプロパティ値によって、Microsoft Windows Installer がワークステーションにアプリケーションをインストールする方法が決まります。必要に応じて、一部のプロパティ値を変更することもできます。たとえば、ユーザの作業ファイルを保存するデフォルトの場所をプロパティ値が定義している場合があります。そのプロパティを [\[プロパティ\]](#) リストに追加して、プロパティの値を変更することにより、MSI パッケージで定義されているデフォルトの場所を変更することができます。

必要に応じて、MSI パッケージに含まれていなかったパブリックプロパティを追加することができます。その場合は、MSI パッケージに有効なプロパティのみを追加するように注意する必要があります。次のオプションを指定できます。

- ◆ **追加:** プロパティ値を上書きするには、プロパティ値を変更して、そのプロパティを [\[プロパティ\]](#) リストに追加し、MSI パッケージで定義された値以外のプロパティ値を使用することを Application Launcher が認識するようにします。追加するには、[\[追加\]](#) をクリックして、[\[MSI プロパティ\]](#) ダイアログボックスを表示します。[\[名前\]](#) フィールドで値を上書きするプロパティを選択し、[\[値\]](#) フィールドで新しい値を指定します。次に、[\[OK\]](#) をクリックすると、選択したプロパティが [\[MSI プロパティ\]](#) リストに追加されます。
- ◆ **編集:** [\[MSI プロパティ\]](#) リストにあるプロパティを変更するには、プロパティを選択し、[\[編集\]](#) をクリックして値データを変更してから [\[OK\]](#) をクリックします。

- ◆ **削除:** [MSI プロパティ] リストからプロパティを削除するには、削除するプロパティを選択して、[削除] をクリックします。プロパティを削除すると、その後アプリケーションをインストールする際には、MSI パッケージで定義されているプロパティ値を使用することになります。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者 (次を参照) として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行:** MSI アプリケーションは、ログインユーザの資格情報を継承します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアプリケーションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

アプリケーションの表示モードを [標準]、[最小化]、[最大化]、または [非表示] から選択します。[非表示] モードでは、ユーザインタフェースを使用できない状態でアプリケーションが正常に実行されます。これは、ユーザの操作を必要とすることなく、アプリケーションで処理を実行するような場合に役立ちます。

[インストール中に管理者特権をユーザに許可] を選択して、管理者特権をログインユーザに付与します。ただし、ユーザに管理者権限を与えることはセキュリティ上のリスクを伴います。このオプションが選択されている場合、デバイスに MSI をインストールする際、管理対象デバイス上のユーザはパスワードを入力するよう求められます。MSI をインストールするには、ユーザはパスワードが設定されたユーザアカウントを使用してデバイスにログインする必要があります。

---

**注:** Vista デバイスでは、管理者がデバイスにログインしており、[インストール中に管理者特権をユーザに許可] オプションがオンになっている場合、アクションは消音モードで実行されます。

---

- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない):** アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインタフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行:** 動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

注: Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

## E.16 アクション - MSP のインストール

[アクション - MSP のインストール] では、MSP ファイルの場所、コマンドラインパラメータ、および実行プログラムのセキュリティレベルを指定できます。

図 E-17 [アクション - MSP のインストール] ダイアログボックス

アクション追加 - MSPのインストール

アクション名

.mspファイル: \*

通常インストール用の .mspファイルのアップロード:


ネットワークインストール用の .mspファイルのUNCパスを入力:

コマンドラインパラメータ:

\*アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。  
[詳細オプション](#)

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**.msp ファイル:**  をクリックして、[msp ファイルの選択] ダイアログボックスを表示できます。参照して、MSP ファイルを選択します。また、ネットワークインストールのために、.msp ファイルの UNC パスを入力することもできます。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照することができません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

**コマンドラインパラメータ:** MSP ファイルのインストール時に実行するコマンドラインパラメータを指定します。

**実行プログラムのセキュリティレベル:** [詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者 (次を参照) として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行:** MSI アプリケーションは、ログインユーザの資格情報を継承します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアプリケーションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

アプリケーションの初期ウィンドウサイズを次から選択します。[標準]、[最小化]、[最大化]、または [非表示]。[非表示] モードでは、ユーザインタフェースを使用できない状態でアプリケーションが正常に実行されます。これは、ユーザによる操作を必要とすることなく、アプリケーションで処理を実行するような場合に役立ちます。

- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない):** アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインタフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。

- ◆ **動的管理者として実行**：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション（たとえば、ある種の MSI アプリケーション）をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

## E.17 アクション - ネットワーク MSI のインストール

[アクション - ネットワーク MSI のインストール] ダイアログボックスでは、MSI ファイルの場所、そのインストール、アンインストール、修復のパラメータ、転送ファイル、および実行プログラムのセキュリティレベルを指定できます。


図 E-18 [アクション - ネットワーク MSI のインストール] ダイアログボックス


このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。


- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**.msi ファイル** : インストールする .msi ファイルを指定します。

Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照することができません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

**パラメータのインストール** :  をクリックして、[\[パラメータのインストール\] ダイアログボックス](#)を表示してか、目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

**パラメータのアンインストール** :  をクリックして、[\[パラメータのアンインストール\] ダイアログボックス](#)を表示し目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

**パラメータの修復** :  をクリックして、[\[パラメータの修復\] ダイアログボックス](#)を表示し、目的のパラメータを指定します。詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

**変換ファイル** : [追加] をクリックし、目的の転送ファイルを参照して選択します。転送ファイルをアップロード、またはその場所を指定できます。

Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照することができません。詳細については、[119 ページの「Novell File Upload 拡張機能」](#)を参照してください。

組織内の異なるグループで同じアプリケーションを使用することがよくありますが、同じ機能セットを必要とするとは限りません。Windows Installer の利点の 1 つは、10 個のグループで、10 個の異なる機能セットまたは同じアプリケーションに対して別の修正を必要としている場合、各グループに異なる変換ファイル (MST) を適用して、10 個のすべてのユーザグループに同じ MSI パッケージを展開できます。

変換ファイルとは、MSI インストールに適用された変更のコレクションです。これには、機能がインストールされるかどうか、どのようにインストールされるか、どのファイル、ショートカット、およびレジストリエントリが含まれるか、および [プログラムの追加と削除] のアプレット情報などの、すべての変更情報が含まれています。

ベンダから提供された MSI パッケージを持っている場合は、AdminStudio ZENworks Edition を使用して、変換を作成および管理できます。

**MSI プロパティ** : MSI パッケージには、アプリケーションの管理インストール中に定義されたプロパティ値が含まれています。これらのプロパティ値によって、Microsoft Windows Installer がワークステーションにアプリケーションをインストールする方法が決まります。必要に応じて、一部のプロパティ値を変更することもできます。たとえば、ユーザの

作業ファイルを保存するデフォルトの場所をプロパティ値が定義している場合があります。そのプロパティを [プロパティ] リストに追加して、プロパティの値を変更することにより、MSI パッケージで定義されているデフォルトの場所を変更することができます。

必要に応じて、MSI パッケージに含まれていなかったパブリックプロパティを追加することができます。その場合は、MSI パッケージに有効なプロパティのみを追加するように注意する必要があります。次のオプションを指定できます。

- ◆ **追加**：プロパティ値を上書きするには、プロパティ値を変更して、そのプロパティを [プロパティ] リストに追加し、MSI パッケージで定義された値以外のプロパティ値を使用することを Application Launcher が認識するようにします。追加するには、[追加] をクリックして、[MSI プロパティ] ダイアログボックスを表示します。[名前] フィールドで値を上書きするプロパティを選択し、[値] フィールドで新しい値を指定します。次に、[OK] をクリックすると、選択したプロパティが [MSI プロパティ] リストに追加されます。
- ◆ **編集**：[MSI プロパティ] リストにあるプロパティを変更するには、プロパティを選択し、[編集] をクリックして値データを変更してから [OK] をクリックします。
- ◆ **削除**：[MSI プロパティ] リストからプロパティを削除するには、削除するプロパティを選択して、[削除] をクリックします。プロパティを削除すると、その後アプリケーションをインストールする際には、MSI パッケージで定義されているプロパティ値を使用することになります。

**実行プログラムのセキュリティレベル**：[詳細オプション] をクリックして、実行プログラムのセキュリティレベルのオプションを指定します。

Windows 2000/XP/Vista では、実行可能アプリケーションは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのどちらでも実行できます。デフォルトでは、[通常の実行] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。

ログインユーザのセキュリティレベルでは、アプリケーションを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、アプリケーションを「システム」スペースで、または動的管理者 (次を参照) として実行するように設定することができます。

- ◆ **ログインユーザとして実行**：MSI アプリケーションは、ログインユーザの資格情報を継承します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアプリケーションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

アプリケーションの表示モードを [標準]、[最小化]、[最大化]、または [非表示] から選択します。[非表示] モードでは、ユーザインタフェースを使用できない状態でアプリケーションが正常に実行されます。これは、ユーザの操作を必要とすることなく、アプリケーションで処理を実行するような場合に役立ちます。

[Grant administrator privilege to user during installation(インストール中に管理者特権をユーザに許可)] を選択して、管理者特権をログインユーザに付与します。ただし、ユーザに管理者権限を与えることはセキュリティ上のリスクを伴います。このオプションが選択されている場合、デバイスに MSI をインストールする際、管理対象デバイス上のユーザはパスワードを入力するよう求められます。MSI をインストールするには、ユーザはパスワードが設定されたユーザアカウントを使用してデバイスにログインする必要があります。



注: Vista デバイスでは、管理者がデバイスにログインしており、[インストール中に管理者特権をユーザに許可] オプションがオンになっている場合、アクションは消音モードで実行されます。

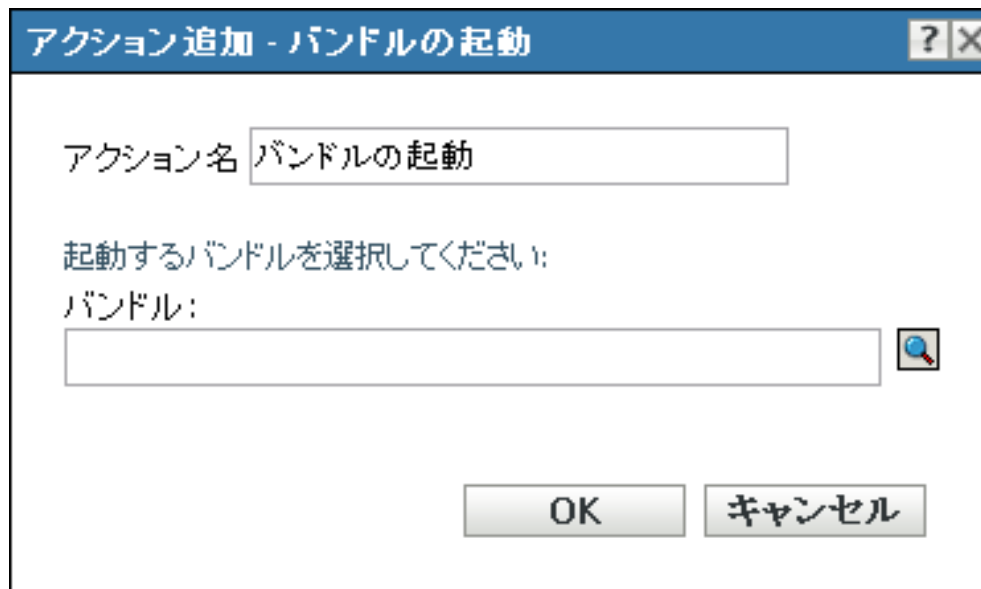
- ◆ **安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない):** アプリケーションは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アプリケーションには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [保護] に設定されているため、アプリケーションのインターフェースはユーザには表示されず、アプリケーションはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ないアプリケーションを実行する場合に便利です。
- ◆ **動的管理者として実行:** ダイナミック管理者は、アプリケーションのインストールなどの特定の操作を実行するためにその場でローカルに作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。ダイナミック管理者はネットワークへのアクセス権限は持っていないため、MSI が使用可能であるネットワーク共有はパブリックでアクセス可能である必要があります。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

注: Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションをダイナミック管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

## E.18 アクション - バンドルの起動

[アクション - バンドルの起動] ダイアログボックスでは、デバイスで起動するバンドルを指定できます。

図 E-19 [アクション - バンドルの起動] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

[アクション - 起動] ダイアログボックスで、 をクリックすると、[起動するバンドルを選択してください] ダイアログボックスが表示されます。

[検索対象] リストには、デフォルトで /バンドルが表示されます。バンドルを保持するサブフォルダを作成した場合は、下矢印を使用して適切なフォルダを選択します。[項目タイプ] リストのデフォルトは [すべてのタイプ] であり、すべてのタイプのバンドル (ディレクティブ、ファイル、イメージング、および Windows バンドル) が表示されます。また、探しているバンドルの名前がわかっている場合は、[項目名] ボックスを使用して、バンドルを検索できます。

このアクションを作成すると、バンドル従属が作成されます。詳細については、[13 ページのセクション 1.4 「従属バンドル」](#)を参照してください。

## E.19 アクション - Java アプリケーションの起動

[アクション - Java アプリケーションの起動] ダイアログボックスでは、管理対象デバイスで実行される Java\* プログラムを設定できます。

図 E-20 [アクション-Java アプリケーションの起動] ダイアログボックス

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ（[配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]）をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**Java プログラム名** : Java プログラム名を指定します。たとえば、com.novell.TestProg です。

**プログラムパラメータ** : プログラムパラメータを指定します。

**Java Runtime Executable (JRE) へのパス** : Java Runtime Executable (JRE\*) へのパスを指定します。

**JRE パラメータ** : JRE パラメータを指定します。

次のアクションに進む前に待機します：アプリケーションが起動した後の動作を指定します。

- ◆ **待機なし**：リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **起動アクションが完了したとき**：起動アクションが完了すると、リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **\_秒待機**：次のアクションに進む前に指定された秒数だけ待機します。
  - ◆ **待機時間を超えたらアクションを終了します**：[\_秒待機] オプションを選択すると、このオプションが有効になります。指定された秒数を超えていてアクションが正常に実行されない場合は、アクションは終了します。

**作業ディレクトリ**：[詳細オプション] をクリックして、Java アプリケーションの作業ディレクトリを指定します。

アプリケーションの初期作業ディレクトリを指定します。

**優先度**：[詳細オプション] をクリックして、Java アプリケーションの優先度を指定します。

アプリケーションを実行する処理の優先度を指定します。このオプションで、アプリケーション処理が使用できる CPU の処理量を設定できます。[リアルタイム]、[高]、[標準以上]、[標準]、[標準以下]、および [低] の優先度から選択します。

**名前を付けて実行**：[詳細オプション] をクリックして、Java アプリケーションの [名前を付けて実行] 設定を指定します。

- ◆ **システム**：アプリケーションをシステムアカウント (サービス) として実行します。
- ◆ **管理者**：アプリケーションを動的な管理者ユーザとして実行します。動的管理者とは、アプリケーションのインストールやスクリプトの実行など、特定の手順を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。

---

**注**：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。

---

- ◆ **ユーザ**：アプリケーションはログインユーザの資格情報を使用して実行されます。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアプリケーションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

## E.20 アクション - URL の起動

[アクション - URL の起動] ダイアログボックスでは、デバイスで起動する URL を指定できます。

図 E-21 [アクション-URL の起動] ダイアログボックス

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

[テスト URL] をクリックして Web ブラウザを開き、URL が正しいことを確認します。

## E.21 アクション - 実行可能ファイルの起動

[アクションの追加] - [実行プログラムの起動] ダイアログボックスでは、Windows 実行プログラム、コマンドラインパラメータ、およびその他の追加オプションの設定を指定できます。

図 E-22 [アクション-実行プログラムの起動] ダイアログボックス

アクション追加 - 実行可能ファイルの起動

アクション名: \* 実行可能ファイルの起動

全般      詳細      起動オプション

コマンド: \* [Novell File Upload拡張子をインストールして、ファイルパスを参照する](#)

コマンドラインパラメータ:

作業ディレクトリ:

正常なりターンコード:

カンマ区切りのコード(たとえば,2,3)

環境変数

追加 削除 編集

<input type="checkbox"/> 名前	値
使用できる項目がありません。	

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK      キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

### E.21.1 一般

[全般] ページでは、Windows 実行可能ファイルの場所、実行可能ファイルを起動するときに実行するコマンドラインパラメータ、実行可能ファイルの作業ディレクトリ、および実行可能ファイルが返す 0 以外の成功コードを指定できます。

フィールド	説明
コマンド	<p>ファイル名を含む、Windows 実行可能ファイルの場所を指定します。</p> <p>ローカルパスまたはネットワークドライブを指定できます。ローカルパスを指定する場合、実行ファイルがワークステーションの検索パスに含まれていない限り実行プログラムのフルパスを含める必要があります。ネットワークドライブを指定する場合、ワークステーションがパスを解決できるのであればマップドライブまたは UNC パスを使用できます。</p> <p>[追加] をクリックし、目的の転送ファイルを参照して選択します。転送ファイルをアップロード、またはその場所を指定できます。</p> <p>Novell File Upload 拡張機能はこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールしてからでないと、ファイルパスを参照することができません。詳細については、<a href="#">Novell File Upload 拡張機能</a>を参照してください。</p>
コマンドラインパラメータ	<p>実行プログラムが起動された際に実行するコマンドラインパラメータを指定します。</p>
作業ディレクトリ	<p>実行可能ファイルの作業ディレクトリを指定します。</p>
成功のリターンコード	<p>実行可能プログラムが返す、0 以外の成功コードを指定します。複数の成功コードをカンマで区切って指定できます。</p> <p>実行可能プログラムが 0 以外の成功コードたとえば Windows では、explorer.exe は成功コード 1 を返します。Explorer アプリケーションを正常に起動するには、アクションを起動する際に 1 を成功コードとして追加する必要があります。</p>
環境変数	<p>次のように環境変数を追加、編集、または削除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>追加:</b> [追加] をクリックして、[環境変数] ダイアログボックスを表示します。追加する環境変数の名前および値を指定します。たとえば、Name = JAVA_HOME; Value = C:\java1.4\ などです。</li> <li>◆ <b>削除:</b> 削除する環境変数を選択し、[削除] をクリックします。</li> <li>◆ <b>編集:</b> 編集する環境変数を選択し、[編集] をクリックします。[環境変数の編集] ダイアログボックスで、変数の新しい値を指定します。たとえば、Name = JAVA_HOME; Value = C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_06 などです。</li> </ul>

## E.21.2 Advanced ( 詳細 )

[詳細] ページでは、Windows 実行プログラムのセキュリティレベルと、Windows 実行プログラムが起動してから次のアクションに進むまでの待機時間を指定できます。

フィールド	説明
実行プログラムのセキュリティレベル	<p data-bbox="488 291 1349 344">[<i>詳細オプション</i>] をクリックして、Windows 実行プログラムのセキュリティレベルを指定します。</p> <p data-bbox="488 369 1349 510">実行プログラムは「ユーザ」スペースまたは「システム」スペースのいずれかで実行できます。デフォルトでは、[<i>通常の実行</i>] オプションが選択されています。このオプションを選択した場合、アプリケーションは「ユーザ」スペースで実行され、ログインユーザと同じワークステーションセキュリティレベルを継承します。</p> <p data-bbox="488 535 1349 646">ログインユーザのセキュリティレベルでは、実行プログラムを実行するための十分な権利やファイルアクセスが許可されない場合、実行プログラムを「システム」スペースで、または動的管理者 (以下参照) として実行するように設定することができます。</p> <ul data-bbox="516 674 1349 758" style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>ログインユーザとして実行</b>：実行プログラムは、ログインユーザの資格情報を継承します。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対する実行プログラムの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。</li> </ul> <p data-bbox="545 783 1349 924">実行プログラムのウィンドウの初期サイズの選択：[標準]、[最小化]、[最大化]、または [非表示] [非表示] モードでは、ユーザインタフェースを使用できない状態で実行プログラムが正常に実行されます。これは、ユーザの操作を必要とすることなく、実行プログラムで処理を実行するような場合に役立ちます。</p> <ul data-bbox="516 949 1349 1199" style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>安全なシステムユーザとして実行 (システムがデスクトップを操作することを許可しない)</b>：実行プログラムは、ローカルシステムユーザ下で実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、実行プログラムには、レジストリおよびファイルシステムへのフルアクセス権が設定されます。セキュリティレベルが [Secure (保護)] に設定されているため、実行プログラムのインタフェースはユーザには表示されず、実行プログラムはタスクマネージャにのみ表示されます。このオプションは、ワークステーションへのフルアクセスが必要ですが、ユーザの介入は必要ない実行可能ファイルを実行する際に役立ちます。</li> <li>◆ <b>動的管理者として実行</b>：動的管理者とは、アプリケーションサーバのインストールなど、特定の処理を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。</li> </ul> <p data-bbox="545 1434 1349 1604">動的管理者としてアクションを実行する際には、[次のアクションに進む前に待機します] グループボックス内の [アクションの終了時] オプションを必ず選択してください。このオプションを選択すると、ZENworks が動的管理者アカウントのクリーンアップおよび削除を開始する前に、アクションが完了し、プロセスが終了してリソースがリリースされることが保証されます。</p> <p data-bbox="545 1629 1349 1717"><b>注</b>：Microsoft ではローカル管理者アカウントのドメインコントローラでの使用を許可していないため、このアクションを動的管理者として Windows ドメインコントローラで実行すると失敗します。</p>



フィールド	説明
次のアクションに進む前に待機します	<p>[<b>詳細オプション</b>] をクリックして、Windows 実行プログラムを起動してから次のアクションに進むまでの待機時間を指定します。</p> <p>実行プログラムの起動後に何が起こるかを指定します。</p> <p><b>待機なし</b>：リスト内の次のアクションが即時実行されます。</p> <p><b>起動アクションが完了したとき</b>：起動アクションが完了すると、リスト内の次のアクションが即時実行されます。アクションを動的管理者として実行している場合で、プロファイルをクリーンアップしすぐに削除する場合は、このオプションを有効化します。このオプションを有効化しないと、プロファイルはデバイスが次回再起動された際にクリーンアップされ削除されます。</p> <p><b>_ 秒待機</b>：次のアクションに進む前に指定された秒数だけ待機します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>待機時間を超えたらアクションを終了します</b>：[_ 秒待機] オプションを選択すると、このオプションが有効になります。指定した秒数を超えてアクションが正常に実行されない場合、アクションは終了します。</li> </ul>

### E.21.3 起動オプション

[起動オプション] ページでは、Windows 実行プログラムの互換モード、表示設定、および入力設定を指定できます。

フィールド	説明
互換モード	<p>[<b>詳細オプション</b>] をクリックして、Windows 実行プログラムの互換モードを指定します。</p> <p>限られた環境で実行プログラムを起動します。実行プログラムの中には、互換性の問題から、Microsoft* Windows の新しいバージョンを使用しているワークステーション上では実行できないものもあります。[<b>互換モード</b>] を選択すると、ドロップダウンリストが利用できます。</p> <p>以前の Windows バージョンでは実行プログラムを正常に実行できたのに、現在の Windows バージョンでは実行プログラムを実行できない場合に、このオプションを選択します。リストから希望のプラットフォームを選択します。</p>
表示	<p>[<b>詳細オプション</b>] をクリックして、Windows 実行プログラムの表示設定を指定します。目的の表示オプションを選択します。[<b>256 色で実行します</b>]：この実行プログラムの実行中のカラー品質設定を 256 色に設定します。カラー品質設定は、実行プログラムを閉じると、デフォルト設定に戻ります。[<b>640 x 480 の画面解像度で実行します</b>]：実行プログラムの実行中の画面解像度設定を 640 x 480 に設定します。カラー品質設定は、実行プログラムを閉じると、デフォルト設定に戻ります。[<b>仮想テーマを無効にします</b>]：仮想テーマの実行プログラムへの適用を無効にします。実行プログラムのタイトルバー上のメニューまたはボタンに問題が発生している場合は、この設定によりそれらの問題が解決される可能性があります。テーマ設定は、実行プログラムを終了するとデフォルト設定に戻ります。</p>
入力設定	<p>[<b>詳細オプション</b>] をクリックして、Windows 実行プログラムの入力設定を指定します。</p> <p>手書き文字認識、音声認識、およびユーザ補助機能を一時的にオフにします。テキストサービスをオフにしても、追加した複数言語またはキーボードには影響しません。</p>

## E.22 アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動

[アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動] ダイアログボックスでは、ICA (Independent Computing Architecture) または RDP (Remote Desktop Protocol) クライアントセッションを起動および該当する設定を構成できます。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#) を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ( [インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前] ) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [178 ページのセクション E.22.1 「ICA セッション」](#)
- ◆ [180 ページのセクション E.22.2 「RDP セッション」](#)

### E.22.1 ICA セッション

ICA クライアントセッションで実行するアプリケーションがターミナルサーバに必要な場合に、このオプションを選択します。Citrix Metaframe\* では、ICA クライアントセッションが必要です。

図 E-23 [アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動] ダイアログボックス: [ICA セッション]

アクション追加 - Windowsシンククライアントアプリケーションの起動

アクション名

ICAセッション  
シンククライアントはICA(Independent Computing Architecture)クライアントセッションで実行するアプリケーションが必要な場合は、このオプションを選択します。Citrix MetaFrameにはICAクライアントセッションが必要です。

RDPセッション  
シンククライアントにRDP(Remote Desktop Protocol)クライアントセッションで実行するアプリケーションが必要な場合は、このオプションを選択します。Microsoft Windows Terminal ServerにはRDPクライアントセッションが必要です。

発行されたアプリケーション名:

アプリケーションをホストするサーバ: \*

**発行されたアプリケーション名:**発行されたアプリケーション名を Citrix で定義されているように正確に入力します。

**アプリケーションをホストするサーバ:**アプリケーションをホストする Citrix サーバを追加します。

- 1 ターミナルサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 2 [追加] をクリックします。

サーバが一覧表示されている順序が優先的に起動される順序です。[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、必要に応じて順序を変更できます。

## E.22.2 RDP セッション

ターミナルサーバが RDP クライアントセッション内でアプリケーションを実行する必要がある場合に、このオプションを選択します。Microsoft Windows ターミナルサーバでは、RDP クライアントセッションが必要です。

図 E-24 [アクション - Windows シンククライアントアプリケーションの起動] ダイアログボックス:  
[RDP セッション]

The screenshot shows a dialog box titled "アクション追加 - Windowsシンククライアントアプリケーションの起動" (Action Addition - Windows Synchronization Client Application Startup). The dialog contains the following fields and options:

- アクション名:** Windowsシンククライアントアプリケーション
- ICAセッション:** Unselected. Description: シンククライアントはICA(Independent Computing Architecture)クライアントセッションで実行するアプリケーションが必要な場合は、このオプションを選択します。Citrix MetaFrameにはICAクライアントセッションが必要です。
- RDPセッション:** Selected. Description: シンククライアントにRDP(Remote Desktop Protocol)クライアントセッションで実行するアプリケーションが必要な場合は、このオプションを選択します。Microsoft Windows Terminal ServerにはRDPクライアントセッションが必要です。
- ターミナルサーバのアドレス:** [Empty text box]
- サーバポート:** 3389 [Spin buttons]
- サーバドメイン:** [Empty text box]
- アプリケーションパス:** [Empty text box]
- アプリケーション作業ディレクトリ:** [Empty text box]
- 色の深さ:** ハイカラー(24ビット) [Dropdown menu]
- 全画面モードで操作します:** Unselected
- 指定された画面サイズを使用します:** Selected
  - デスクトップの幅:** 640 [Spin buttons]
  - デスクトップの高さ:** 480 [Spin buttons]

Buttons: OK, キャンセル

**ターミナルサーバのアドレス** : ターミナルサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

**サーバポート** : ターミナルサーバがデフォルトポート 3389 を使用していない場合は、正しいポート番号を指定します。

**サーバドメイン** : ターミナルサーバが、Windows NT ドメインまたは Active Directory ドメインに含まれている場合は、ドメイン名を指定します。ドメインのユーザ名およびパスワードが Novell eDirectory™ のユーザ名およびパスワードと一致する場合は、アプリケーションの起動時にターミナルサーバにログインすることを求めるメッセージが表示されません。

**アプリケーションパス** : アプリケーションの実行可能ファイルのパスを、ターミナルサーバを基準に指定します。

**アプリケーション作業ディレクトリ** : アプリケーションが作業ファイルに使用するディレクトリのパスを指定します。

**色の深さ** : RDP クライアントセッションに使用する色の数を選択します。256 色、ハイカラー (15 ビット)、ハイカラー (16 ビット)、またはトゥルーカラー (24 ビット) のいずれかを選択できます。デフォルトはトゥルーカラー (24 ビット) です。

**画面サイズ** : RDP クライアントセッションがデスクトップ領域全体を使用するようにする場合は、[*全画面モードで操作します*] を選択します。または、[*指定された画面サイズを使用します*] を選択し、手動で幅および高さを指定します (ピクセル指定)。

**リダイレクションの詳細設定** : リモートのデスクトップマシンにマップするドライブ、プリンタ、シリアルポート、およびスマートカードなどの設定を選択します。

## E.23 アクション - ユーザにプロンプトを表示

[アクション - ユーザにプロンプトを表示] ダイアログボックスでは、プロンプトをデバイスに表示し、その設定を構成できます。

図 E-25 [アクション- ユーザにプロンプトを表示] ダイアログボックス

アクション追加 - ユーザにプロンプトを表示

アクション名

ユーザキャンセルを許可:

これかめに設定されている場合、ダイアログボックスには[キャンセル]ボタンは表示されません。この設定で次回通常に起動されるときに、次のキャンセル機会がトリガされます。

表示する秒数:

プロンプトの表示頻度:

常時

デバイスにつき1回

ユーザにつき1回

プロンプトを定義

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> ロケール	プロンプト
使用できる項目がありません。	

(プロンプトの例を示します: マシンは {0} 秒後に再起動されます。作業を保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じてください。)

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ユーザキャンセルを許可:** ユーザがアクションセット内の残りのアクションをキャンセルできるかどうかを指定します。たとえば、再起動が必要なアプリケーションをアクションセットでインストールする場合に、このオプションを選択すると、ユーザは再起動をキャンセルすることができ、結果としてインストールがキャンセルされます。インストールのアクションセットは、そのスケジュールに従い再度実行されます。従って、このオプションは慎重に使用してください。デフォルト設定の 0 を使用する場合、[キャンセル] ボタンはダイアログボックスに表示されません。

**表示する秒数:**アクションの実行前にプロンプトを表示する秒数を指定します。たとえば、アプリケーションのインストール中に表示されるプロンプトを設定してから、デバイスが必要な再起動を実行するとします。ユーザがアクションセットをキャンセルできるように指定し、プロンプトを10秒間表示するように指定している場合、プロンプトが10秒間表示されてから、デバイスが再起動されます。

**プロンプトの表示頻度:**目的のオプションを選択します。

- ◆ **常時:**アクションが実行されるたびにプロンプトが表示されます。
- ◆ **デバイスにつき1回:**ログインしているユーザ数には関係なく、デバイスごとに一度だけプロンプトが表示されます。
- ◆ **ユーザにつき1回:**ユーザがログインしているデバイスの数には関係なく、ユーザごとに一度だけプロンプトが表示されます。

**プロンプトを定義:**デバイス上に表示するプロンプトを定義します。さらに、異なるメッセージで別のロケールを指定できます。

メッセージを作成するには、次の手順に従います。

- 1 **[追加]** をクリックして、**[ロケールとプロンプトの選択]** ダイアログボックスを表示します。
- 2 **[ロケール]** ドロップダウンリストから言語を選択します。メッセージは、指定したロケールでのみデバイス上に表示されます。独自のロケール設定を持つ異なるメッセージを作成できます。
- 3 デバイス上に表示するテキストを入力します。  
テキストに {0} を含めると、0 までの秒数をカウントダウンする動作カウンタを提供できます。カウンタが 0 になると、プロンプトは自動的に受け入れられます。たとえば、次のテキストを指定できます。  
マシンは {0} 秒で起動します。作業を保存して、開いているアプリケーションをすべて閉じてください。  
このメッセージは、**[表示する秒数]** フィールドで指定した秒数表示されます。
- 4 **[OK]** をクリックします。

## E.24 アクション - 再起動 / シャットダウン

[アクション - 再起動 / シャットダウン] ダイアログボックスでは、デバイスの再起動またはシャットダウンアクションを指定できます。

図 E-26 [アクション-再起動/シャットダウン] ダイアログボックス

アクション追加 - 再起動/シャットダウン
?

アクション名

デバイスの再起動/シャットダウンのアクションを設定します。

アクションの選択

再起動

シャットダウン

再起動/シャットダウン前の待機時間:  秒(0-1800)

再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示

ユーザによるキャンセルを許可します

**プロンプトを定義**

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/>	ロケール	プロンプト
使用できる項目がありません。		

(プロンプトの例を示します: マシンは {0} 秒後に再起動されます。作業を保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じてください)。

注意: アクションを実行する前に、ログインしているユーザに対して上のメッセージがデバイス上に表示されます。特定のロケール用のメッセージが入力されていない場合は、デフォルトの英語メッセージが使用されます。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

---

**注:** 再起動アクションは、一般に、反復起動スケジュールに [デバイスの更新時] を設定して使用しないでください。この設定が有効な状況はいくつかありますが、更新時に再起動されるようデバイスをスケジュールすると、無限ループを引き起こす恐れがあります。

---

**再起動:** このアクションが実行されるとデバイスを再起動します。

**シャットダウン:** このアクションが実行されるとデバイスをシャットダウンします。



**再起動/シャットダウンの前の待ち時間:** デバイスの再起動またはシャットダウンアクション前の時間を秒数 (-1 ~ 1800) で指定します。指定した秒数が経過すると、ユーザが [OK] をクリックしたかどうかに関係なく、デバイスは再起動またはシャットダウンします。[OK] をクリックしても、デバイスがただちに再起動またはシャットダウンすることはありません。

値 -1 を指定すると、デバイスは不定の期間待機し、特にデバイスが再起動またはシャットダウンされないようにします。-1 の値は、[再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示] と、オプションの [ユーザによるキャンセルを許可] オプションと共に使用する必要があります。-1 を指定し、[再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示] オプションを選択すると、ユーザが再起動またはシャットダウンプロセスを実行するために [OK] をクリックしない限り、メッセージには無期限に無期限に表示されます。このオプションを両方選択し、[ユーザによるキャンセルを許可] オプションを選択すると、ユーザが [OK] または [キャンセル] をクリックするまで引き続きメッセージが表示されます。

値 -1 を指定すると、デバイスは不定の期間待機し、特にデバイスが再起動またはシャットダウンされないようにします。-1 の値は、[再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示] と、オプションの [ユーザによるキャンセルを許可] オプションと共に使用する必要があります。-1 を指定し、[再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示] オプションを選択すると、ユーザが再起動またはシャットダウンプロセスを実行するために [OK] をクリックしない限り、メッセージには無期限に無期限に表示されます。このオプションおよび [ユーザによるキャンセルを許可] オプションを選択すると、ユーザが [OK] または [キャンセル] をクリックしない限り、メッセージは無期限に表示されます。

**再起動/シャットダウンの前に警告メッセージを表示:** デバイスが再起動またはシャットダウンされることをユーザに警告するメッセージをデバイス上に表示するように指定します。

たとえば、次のようなプロンプトを表示できます。

```
The machine will reboot in _ seconds. Please save your work and close any open applications.
```

アクションを実行する前、ユーザがログインしている場合のみメッセージがデバイス上に表示されます。

**ユーザによるキャンセルを許可:** ユーザが再起動またはシャットダウンのプロセスをキャンセルできるかどうかを指定します。

**プロンプトを定義:** デバイス上に表示するプロンプトを定義します。さらに、異なるメッセージを持つ異なるロケールを指定できます。他のロケールを指定しないと、デフォルトの英語のメッセージが使用されます。

メッセージを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [追加] をクリックして、[ロケールとプロンプトの選択] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [ロケール] ドロップダウンリストから言語を選択します。メッセージは、指定したロケールでのみデバイス上に表示されます。独自のロケール設定を持つ異なるメッセージを作成できます。
- 3 デバイス上に表示するテキストを入力します。

テキストに {0} を含めると、0 までの秒数をカウントダウンする動作カウンタを提供できます。カウンタが 0 になると、プロンプトは自動的に受け入れられます。たとえば、次のテキストを指定できます。

マシンは {0} 秒で起動します。作業を保存して、開いているアプリケーションをすべて閉じてください。

このメッセージは、[表示する秒数] フィールドで指定した秒数表示されます。

4 [OK] をクリックします。

## E.25 アクション - レジストリの編集

[アクション - レジストリの編集] ダイアログボックスでは、適用するレジストリ設定を設定できます。指定したレジストリ設定を適用する前にレジストリをバックアップし、レジストリが正しくフォーマットされ、十分にテストされていることを確認することをお勧めします。

[レジストリツリー] タブをクリックして、値およびキーを追加するか、セクションを名前変更または削除するか、またはレジストリファイルをインポートするツリー内のハイブを選択します。[詳細設定] タブをクリックして、アクションをどのように (システムまたはユーザとして) 実行するか指定して、修正したレジストリファイルを適用する前にレジストリファイルをバックアップします。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#) を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

詳細情報については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [186 ページのセクション E.25.1 「レジストリツリー」](#)
- ◆ [190 ページのセクション E.25.2 「詳細設定」](#)

### E.25.1 レジストリツリー

[レジストリツリー] ページでは、値およびキーを追加するか、セクションを名前変更または削除するか、またはレジストリファイルをインポートするツリー内のハイブを選択できます。

図 E-27 [アクション-レジストリの編集] ダイアログボックス: [レジストリツリー] ページ



次の表は、レジストリツリーの変更を管理するために実行できるタスクの一覧を示しています。

タスク	手順
レジストリ キーを追加 する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レジストリハイブを選択し、[新規] をクリックしてから [キー] をクリックします。</li> <li>2. キーの名前を指定します。例 ) Software            キーをバックスラッシュ (\) で区切って、複数レベルのキーを指定することもできます。例 ) Novell\ZENworks\Zfd            区切り文字にフォワードスラッシュ (/) を使用しないでください。</li> <li>3. 次のレジストリ操作のいずれかを選択します。           <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>常に作成</b> : 現在ワークステーションのレジストリにキーが存在しているかどうかに関係なくキーが作成されます。</li> <li>◆ <b>存在しない場合に作成</b> : 現在ワークステーションのレジストリにキーが存在しない場合のみキーが作成されます。</li> <li>◆ <b>リネーム</b> : 現在ワークステーションのレジストリにキーが存在する場合、その名前が変更されます。</li> <li>◆ <b>削除</b> : 現在ワークステーションのレジストリにキーが存在する場合、そのキーが削除されます。</li> <li>◆ <b>削除して再作成</b> : ワークステーションのレジストリにキーが存在している場合は、キーを削除してから再作成します。</li> <li>◆ <b>空の場合は削除</b> : 現在ワークステーションのレジストリにキーが存在し、そのキーが空の場合は削除されます。</li> <li>◆ <b>なし</b> : レジストリ操作は何も実行されません。</li> </ul> </li> </ol>

---

**タスク****手順**

---

レジストリ  
値を追加す  
る

1. 目的の項目の横にあるチェックボックスをオンにし、[レジストリ値] をクリックして、[Add Value To(レジストリ値の追加先)] ダイアログボックスを表示します。
  2. [Value Type(レジストリ値の種類)] リストから、次のオプションのいずれかを選択します。
    - ◆ **デフォルト**: 選択したキーにデフォルトの文字列値を追加します。
    - ◆ **文字列**: 選択したキーに文字列値を追加します。
    - ◆ **バイナリ**: 選択したキーにバイナリの値を追加します。大部分のハードウェアコンポーネント情報はバイナリデータとして保存され、16進数形式で表示されます。
    - ◆ **Dword**: 選択したキーに DWORD 値を追加します。DWORD 値は、長さ 4 バイトの数値で表されます。デバイスドライバやサービスの多くのパラメータはこのタイプで、バイナリ形式、16進数形式、または 10進数形式で表示されます。
    - ◆ **拡張可能文字列**: 選択したキーに拡張可能な文字列の値を追加します。拡張可能文字列は、可変長のデータ文字列です。このデータタイプには、プログラムまたはサービスがデータを使用するときに解決される変数が含まれていません。
    - ◆ **複数の文字列**: 選択したキーに複数の値を持つ文字列を追加します。複数の文字列値は、ユーザが判読できる形式のリストまたは複数の値で構成されます。各エントリはスペース、カンマ、または他の記号で区切られています。
    - ◆ **Qword**: 選択したキーに Qword 文字列を追加します。Qword 値は、64 ビットの整数である数値で表されるデータです。このデータは、レジストリエディタにバイナリ値として表示されます。
    - ◆ **リンク**: 選択したキーにリンク文字列値を追加します。リンク文字列値は、シンボリックリンクを指定する Unicode 文字列です。
    - ◆ **なし**: レジストリ操作は何も実行されません。
    - ◆ **フルリソース記述子**: 選択したキーにフルリソース記述子の値を追加します。フルリソース記述子は連続するネストされた配列で、ハードウェアコンポーネントやドライバのリソースリストを保存するためのものです。
    - ◆ **リソースリスト**: 選択したキーにリソースリストを追加します。リソースリストは連続するネストされた配列で、ハードウェアデバイスドライバ、またはそのドライバが制御する物理デバイスの 1 つが使用するリソースリストを保存するためのものです。
    - ◆ **リソース要件リスト**: 選択したキーにリソース要件リストを追加します。リソース要件リストは連続するネストされた配列であり、デバイスドライバまたはそのドライバが制御する物理デバイスが使用できるハードウェアリソースのデバイスドライバのリストを保存するためのものです。
  3. データを指定します。前の手順で選択した値の種類に応じて、データの種類は異なります。
  4. 次のレジストリ操作のいずれかを選択します。
    - ◆ **常に作成**: 設定がすでにレジストリに存在する場合でも、常に設定が作成されます。すでに存在する場合は、設定の現在の値が上書きされます。たとえば、PATH=C:\ がすでに存在する場合、PATH=C:\TEMP に置き換えられます。
    - ◆ **[存在する場合に作成]**: 設定はすでに存在する場合にのみ作成されます。設定の現在の値は上書きされます。たとえば、PATH=C:\ がすでに存在する場合、PATH=C:\TEMP に置き換えられます。
    - ◆ **存在しない場合に作成**: 設定が存在しない場合にのみ、設定が作成されます。
    - ◆ **削除**: 設定は削除されます。レジストリ設定に従属の設定がある場合、従属の設定も削除されます。
    - ◆ **存在する場合に追加し、そうでなければ作成**: 現在ワークステーションのレジストリに値が存在する場合は、レジストリ値が追加されます。レジストリ値が存在しない場合は、作成されます。  
**存在する場合に付加し、そうでなければ作成**: 現在ワークステーションのレジストリに値が存在する場合は、レジストリ値が先頭に付加されます。レジストリ値が存在しない場合は、作成されます。
-

タスク	手順
エントリの名前を変更する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的の項目の横にあるチェックボックスをオンにして、[編集] &gt; [名前変更] の順にクリックします。</li> <li>2. 新しい名前を指定します。</li> </ol>
エントリを削除する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的の項目の隣にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。</li> </ol>
レジストリファイルのコンテンツをインポートする	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [インポート] をクリックしてから、コンテンツのインポート元のレジストリファイルを指定します。</li> </ol>
レジストリ値の名前、レジストリキー、またはその両方を検索します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検索する値またはキーの名前を指定します。</li> <li>2. [レジストリキー/値]、[レジストリ値データ]、または [両方] を選択します。</li> <li>3. [レジストリツリー] リストで選択したノードに検索を限定するには、[選択したノード内のみで検索] チェックボックスをオンにします。</li> <li>4. [検索] をクリックします。</li> </ol>

## E.25.2 詳細設定

[詳細設定] ページでは、適用するレジストリ設定を設定できます。

図 E-28 [アクション-レジストリの編集] ダイアログボックス: [詳細設定] ページ

アクション追加 - レジストリの編集

アクション名 レジストリの編集

適用するレジストリ設定を設定します。変更する前にレジストリのバックアップを有効にすることを強くお勧めします。

レジストリツリー 詳細設定

次のようにアクションを実行 \* システム

[メモ: HKEY\_CURRENT\_USERキーを変更する場合は、「ユーザ」としてアクションを実行してください]

レジストリファイルの適用前に、レジストリのバックアップを取ります

バックアップファイルへのパス \*

(例: C:\BackupFile.reg)

[注意: 選択されている場合は、設定されたレジストリの変更を適用する前にレジストリ全体がバックアップされます。バックアッププロセスは時間のかかる操作であり、このアクションが実行されるたびに実行されます。詳細については、[ヘルプ]をクリックしてください。]

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

名前を付けてアクションを実行: アクションの実行方法を指定します。

- ◆ **システム**: アクションは、ローカルシステムユーザで実行され、管理者レベルの資格情報を継承します。たとえば、アクションは HKEY\_LOCAL\_MACHINE ハイブに対するフルアクセス権を保持します。
- ◆ **ユーザ**: レジストリファイルは、ログインユーザの資格情報を使用して適用されます。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するアクションの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。HKEY\_CURRENT\_USER ハイブ内のキーを変更する場合は、アクションを「ユーザ」として実行する必要があります。ユーザに割り当てられた権利によっては、アクションに HKEY\_LOCAL\_MACHINE ハイブに対する権利がある場合とない場合があります。[ユーザ] を選択する場合、ユーザはデバイスにログインする必要があります。ログインしないとアクションは失敗します。

レジストリファイルの適用前に、レジストリのバックアップを取ります: チェックボックスをオンにし、バックアップファイルのパスを指定します。たとえば、c:\BackupFile.reg のように指定します。

このオプションを選択すると、レジストリ全体がバックアップされてから、設定したレジストリファイルがインポートされます。バックアップ処理は、このアクションが実行されるたびに実行されます。この操作は時間がかかることがあり、バックアップファイルは大容量になることがあります。

レジストリを編集する前に、編集するレジストリ内のキーをエクスポートするか、このオプションを選択してレジストリ全体をバックアップしてください。そうすることで、問題が発生した場合に、レジストリを以前の状態に復元できます。

## E.26 アクション - スクリプト実行

[アクション - スクリプトの実行] ダイアログボックスでは、管理対象デバイスで実行するスクリプトを設定できます。[スクリプト実行] アクションを正常に完了させるには、スクリプトをサイレント (ユーザによる操作が必要ないよう) にしてください。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([配布]、[インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

設定は、[実行するスクリプト] リストから選択するスクリプトの種類によって異なります。次のオプションを指定できます。

- ◆ [192 ページのセクション E.26.1 「管理対象デバイスでファイルを指定」](#)
- ◆ [194 ページのセクション E.26.2 「自分のスクリプトを定義」](#)
- ◆ [196 ページのセクション E.26.3 「このデバイスから選択」](#)

### E.26.1 管理対象デバイスでファイルを指定

管理対象デバイスに存在するスクリプトを実行するには、このオプションを選択します。



図 E-29 [アクション-スクリプト実行] ダイアログボックス

アクション追加 - スクリプト実行

アクション名

スクリプトが管理対象デバイスで実行されるように設定します。

実行するスクリプト:

スクリプトファイル名: \*   
(例: C:\scripts\xyz.pl)

スクリプトパラメータ:

スクリプトエンジンへのパス:

スクリプトエンジンパラメータ:

次のアクションに進む前に待機します  待機なし  
 アクションの完了時  
 待機時間  秒  
 待機時間を超えたらアクションを終了します

[詳細オプション](#)

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

**スクリプトファイル名:** ターゲットデバイス上のスクリプトファイルのパスを指定します。たとえば、C:\scripts\xyz.pl のように指定します。

**スクリプトパラメータ:** スクリプトファイルを指定した後で、コマンドラインに配置する追加のパラメータを指定します。この結果、パラメータは実行可能なスクリプトに渡されます。

**スクリプトエンジンへのパス:** スクリプトを実行するために起動されるインタプリタを指定します。たとえば、C:\Program Files\Perl\bin\Perl.exe となります。

バッチスクリプト (VBScript など) ではない Windows スクリプトの場合は、[スクリプトエンジンへのパス] フィールドで Windows ベースのスクリプトホストのパス (C:\Windows\System32\wscript.exe など) を指定する必要があります。

**スクリプトエンジンのパラメータ**：スクリプトエンジンの起動時にコマンドラインに含めるパラメータを指定します。

**次のアクションに進む前に待機します**：スクリプト実行後のアクションを指定します：

- ◆ **待機なし**：リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **起動アクションが完了したとき**：起動アクションが完了すると、リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **\_ 秒待機**：次のアクションに進む前に指定された秒数だけ待機します。
  - ◆ **待機時間を超えたらアクションを終了します**：[\_ 秒待機] オプションを選択すると、このオプションが有効になります。指定去れた秒数を超えていてアクションが正常に実行されない場合は、アクションは終了されます。

**成功のリターンコード**：スクリプトが返す 0 以外の成功コードを指定します。複数の成功コードをカンマで区切って指定できます。

スクリプトが 0 以外の成功コードを返す場合は、アクションを起動する際にそれらの 0 以外の成功コードを指定する必要があります。たとえば Windows では、explorer.exe は成功コード 1 を返します。Explorer アプリケーションを正常に起動するには、アクションを起動する際に 1 を成功コードとして追加する必要があります。

**作業ディレクトリ**：[詳細オプション] をクリックして、スクリプトの作業ディレクトリを指定します。スクリプトの初期作業ディレクトリを指定します。

**優先度**：[詳細オプション] をクリックして、スクリプトの優先度を指定します。スクリプトを実行する処理の優先度を指定します。このオプションで、スクリプト処理が使用できる CPU 使用率を設定できます。[リアルタイム]、[高]、[標準以上]、[標準]、[標準以下]、および [低] の優先度から選択します。

**名前を付けて実行**：[詳細オプション] をクリックして、スクリプトの [名前を付けて実行] 設定を指定します。オプションを指定します。

- ◆ **システム**：スクリプトをシステムアカウント (サービス) として実行します。
- ◆ **管理者**：スクリプトを動的な管理者ユーザとして実行します。動的管理者とは、アプリケーションのインストールやスクリプトの実行など、特定の手順を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。
- ◆ **ユーザ**：スクリプトはログインユーザのアカウント情報を使用して実行されます。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するスクリプトの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

## E.26.2 自分のスクリプトを定義

ZENworks コントロールセンターにスクリプトを入力するには、このオプションを選択します。

図 E-30 [アクション- スクリプト実行] ダイアログボックス

アクション追加 - スクリプト実行

アクション名

スクリプトが管理対象デバイスで実行されるように設定します。

実行するスクリプト:

スクリプトコンテンツ: \* [\[編集\]](#)

ファイルを拡張子付きで保存:   
(例: .bat)

スクリプトエンジンへのパス:

スクリプトエンジンパラメータ:

次のアクションに進む前に待機します  待機なし  
 アクションの完了時  
 待機時間  秒  
 待機時間を超えたらアクションを終了します

[詳細オプション](#)

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

スクリプトコンテンツ: [\[編集\]](#) をクリックして、スクリプトを入力するテキストボックスを表示します。このスクリプトは割り当て済みのデバイスに渡され、デバイスの標準のシェル環境で実行されます。

たとえば、バンドルのスクリプト機能を使用してドライブマッピングを自動化できます。バンドルのスクリプトは次のように読み取ることができます。

```
net use m: \\server\sys  
  
net use w: \\server\vol1
```

ユーザが権限を持つ eDirectory ユーザとしてログインしている場合、マッピングは機能します。スクリプト行にユーザ名 / パスワードを指定することによって、ドメインアカウントを使用してドライブを Windows 共有にマップできます。Active Directory ユーザとしてログインしていて、権限を持つ場合は、ユーザ名 / パスワードは必要ありません。

**ファイルを拡張子付きで保存:** スクリプトを保存するときに、スクリプトに付ける拡張子を指定します。たとえば、.bat のように指定します。

**スクリプトエンジンへのパス:** スクリプトを実行するために起動されるインタプリタを指定します。

**スクリプトエンジンのパラメータ:** スクリプトエンジンの起動時にコマンドラインに含めるパラメータを指定します。

**次のアクションに進む前に待機します:** スクリプト実行後のアクションを指定します:

- ◆ **待機なし:** リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **起動アクションが完了したとき:** 起動アクションが完了すると、リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **\_ 秒待機:** 次のアクションに進む前に指定された秒数だけ待機します。
  - ◆ **待機時間を超えたらアクションを終了します:** [**\_ 秒待機**] オプションを選択すると、このオプションが有効になります。指定された秒数を超えていてアクションが正常に実行されない場合は、アクションは終了します。

**作業ディレクトリ:** [**詳細オプション**] をクリックして、スクリプトの作業ディレクトリを指定します。スクリプトの初期作業ディレクトリを指定します。

**優先度:** [**詳細オプション**] をクリックして、スクリプトの優先度を指定します。スクリプトを実行する処理の優先度を指定します。このオプションで、スクリプト処理が使用できる CPU 使用率を設定できます。[**リアルタイム**]、[**高**]、[**標準以上**]、[**標準**]、[**標準以下**]、および [**低**] の優先度から選択します。

**名前を付けて実行:** [**詳細オプション**] をクリックして、スクリプトの [名前を付けて実行] 設定を指定します。オプションを指定します。

- ◆ **システム:** スクリプトをシステムアカウント (サービス) として実行します。
- ◆ **管理者:** スクリプトを動的な管理者ユーザとして実行します。動的管理者とは、アプリケーションのインストールやスクリプトの実行など、特定の手順を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。
- ◆ **ユーザ:** スクリプトはログインユーザのアカウント情報を使用して実行されます。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するスクリプトの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

## E.26.3 このデバイスから選択

ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイスにすでに存在するスクリプトファイルを指定するには、このオプションを選択します。

図 E-31 [アクション-スクリプト実行] ダイアログボックス

アクション追加 - スクリプト実行

アクション名

スクリプトが管理対象デバイスで実行されるように設定します。

実行するスクリプト:

このデバイスから選択 \*

スクリプトパラメータ:

スクリプトエンジンへのパス:

スクリプトエンジンパラメータ:

次のアクションに進む前に待機します

待機なし

アクションの完了時

待機時間  秒

待機時間を超えたらアクションを終了します

[詳細オプション](#)

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

**このデバイスから選択する:** スクリプトファイルを参照して選択します。

**スクリプトパラメータ:** スクリプトファイルを指定した後で、コマンドラインに配置する追加のパラメータを指定します。この結果、パラメータは実行可能なスクリプトに渡されます。

**スクリプトエンジンのパス:** スクリプトを実行するために起動されるインタプリタを指定します。

**スクリプトエンジンのパラメータ:** スクリプトエンジンの起動時にコマンドラインに含めるパラメータを指定します。

**次のアクションに進む前に待機します:** スクリプト実行後のアクションを指定します:

- ◆ **待機なし:** リスト内の次のアクションが即時実行されます。
- ◆ **起動アクションが完了したとき:** 起動アクションが完了すると、リスト内の次のアクションが即時実行されます。

- ◆ **秒待機**：次のアクションに進む前に指定された秒数だけ待機します。
  - ◆ **待機時間を超えたらアクションを終了します**：[ **秒待機** ] オプションを選択すると、このオプションが有効になります。指定された秒数を超えていてアクションが正常に実行されない場合は、アクションは終了します。

**作業ディレクトリ**：[ **詳細オプション** ] をクリックして、スクリプトの作業ディレクトリを指定します。スクリプトの初期作業ディレクトリを指定します。

**優先度**：[ **詳細オプション** ] をクリックして、スクリプトの優先度を指定します。スクリプトを実行する処理の優先度を指定します。このオプションで、スクリプト処理が使用できる CPU 使用率を設定できます。[ **リアルタイム** ]、[ **高** ]、[ **標準以上** ]、[ **標準** ]、[ **標準以下** ]、および [ **低** ] の優先度から選択します。

**名前を付けて実行**：[ **詳細オプション** ] をクリックして、スクリプトの [ **名前を付けて実行** ] 設定を指定します。オプションを指定します。

- ◆ **システム**：スクリプトをシステムアカウント ( サービス ) として実行します。
- ◆ **管理者**：スクリプトを動的な管理者ユーザとして実行します。動的管理者とは、アプリケーションのインストールやスクリプトの実行など、特定の手順を実行するためにオンザフライで作成される管理者アカウントです。動的管理者を使用すると、システムスペースにインストールできないアプリケーション (たとえば、ある種の MSI アプリケーション) をインストールするのに役立ちます。このアクションを選択すると、動的管理者が作成され、この管理者によって必要なタスクが実行され、その後アカウントが削除されます。
- ◆ **ユーザ**：スクリプトはログインユーザのアカウント情報を使用して実行されます。たとえば、レジストリおよびファイルシステムに対するスクリプトの権利は、ログインユーザが持つ権利と同じになります。

## E.27 アクション - サービスの開始 / 停止

[ **アクション - サービスの開始 / 停止** ] ダイアログボックスでは、開始または停止するサービスを指定できます。

図 E-32 [アクション- サービスの開始/停止] ダイアログボックス

アクション追加 - サービスの開始/停止

アクション名 サービスの開始/停止

デバイスについてのサービスアクションの開始および停止を設定します。

サービス名 \*

(例: dnscache、Spooler、srsservice)

アクションの選択  サービスの開始  
 サービスの停止

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**サービス名:** サービスを指定し、そのサービスを開始または停止するかを示します。

**アクションの選択:** 次のアクションのいずれかを選択します。

- ◆ **サービスの開始:** 指定されたサービスを開始します。デバイス上ですでにサービスが実行されている場合は、サービスの開始タスクは終了します。
- ◆ **サービスの停止:** 指定されたサービスを停止します。デバイス上でサービスが実行されていない場合は、サービスの停止タスクは終了します。

## E.28 アクション - パーソナリティの保存

[パーソナリティの保存] ページでは、パーソナリティマイグレーションテンプレートおよび PNP(Platform Neutral Package) ファイルが作成される場所を指定できます。




図 E-33 アクション - [パーソナリティの保存] ダイアログボックス

アクション追加 - パーソナリティの保存 ? ×

アクション名: \*

移行に使用するテンプレートを指定します \*

このデバイスからテンプレートをアップロードする:  
 

管理対象デバイス上のテンプレートを指定する:  
  
(たとえば、C:\Templates\PersonalityMigrationTemplate.xml)

PNPファイルが作成されるパス \*  
  
(たとえば、\\dataserver\userpersonality\%USERNAME%.pnp)


PNPファイルを暗号化するパスワード  
パスワードの入力  
  
パスワードの再入力

複数ファイルにスパン  
 スパンしない  
 次のサイズでスパン  MB

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。次に、[アクション] タブをクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして [パーソナリティの適用] アクションを選択します。

**このデバイスからテンプレートをアップロードする** このオプションを選択して、をクリックし、[コンテンツのアップロード] ダイアログボックスを表示します。アップロードするテンプレートを参照して選択します。

**管理対象デバイス上のテンプレートを指定する** このオプションを選択して、管理対象デバイス上のパーソナリティ移行テンプレートファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスを指定することもできます。

**PNP ファイルが作成されるパス** 移行設定およびデータを保存するために、管理対象デバイス上の PNP ファイルのパスを指定します。ファイルの UNC パスを指定することもできます。

**PNP ファイルを暗号化するパスワード** このチェックボックスをオンにして、PNP ファイルを保護するパスワードを入力します。

[パスワードを再入力してください] フィールドに、パスワードを再入力して確定します。

**複数ファイルにスパン** パーソナリティマイグレーションデータを複数ファイルにスパンして、データをリムーバブルメディアに保存できます。使用できるオプションは次のとおりです。

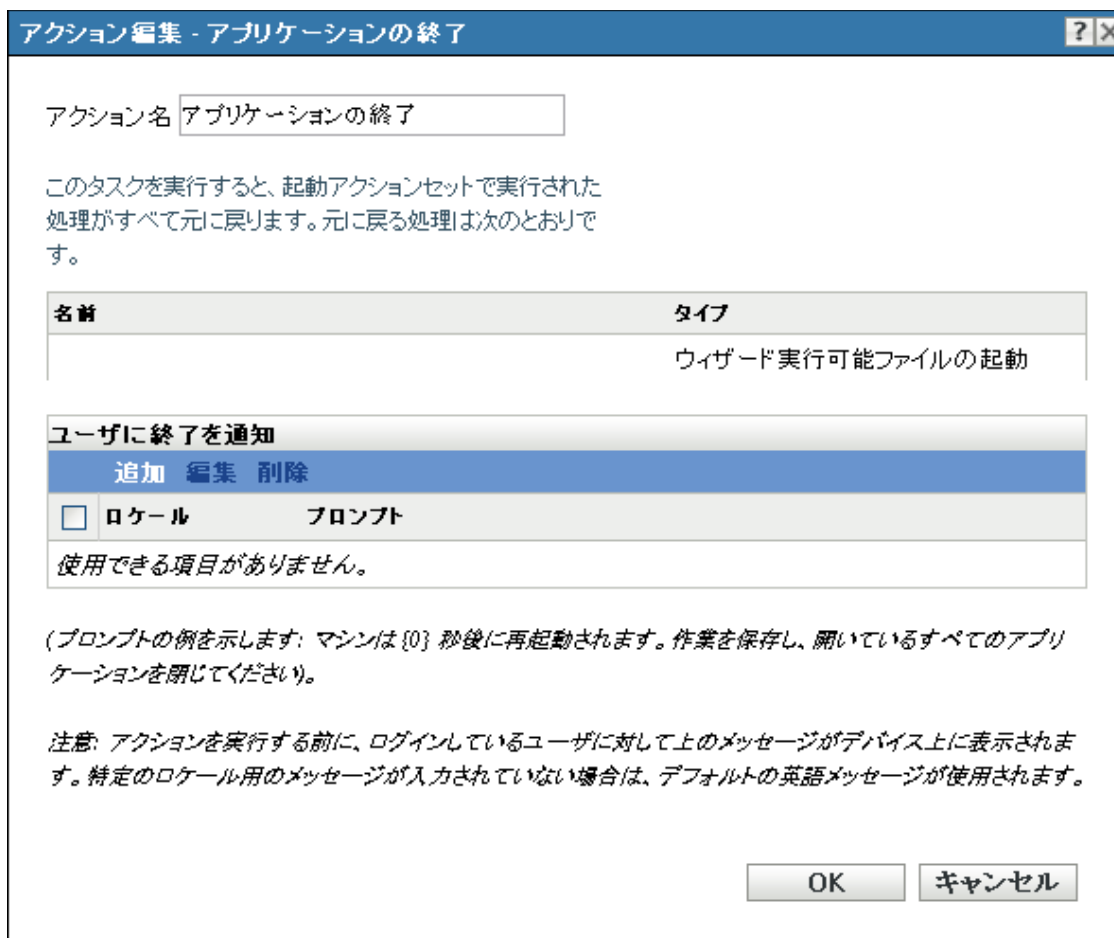
- **スパンしない。** このオプションを選択すると、パーソナリティはファイルにスパンされずにマイグレートされます。
- **次のサイズでスパン。** このオプションを選択して、ファイルのスパンサイズを指定します。デフォルトのスパンサイズは 650MB です。

## E.29 アクション - アプリケーションの終了

[アクション - アプリケーションの終了] ダイアログボックスでは、起動アクションセットで実行されるすべての操作を元に戻すことができます。また、終了をユーザに通知するプロンプトを設定することもできます。

元に戻される各プロセスの名前とタイプが一覧に表示されます。

図 E-34 [アクション- アプリケーションの終了] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、19 ページのセクション 2.1「ディレクティブバンドルの作成」を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**ユーザに終了を通知:** デバイス上に表示するプロンプトを定義します。さらに、異なるメッセージで別のロケールを指定できます。

メッセージを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [追加] をクリックして、[ロケールとプロンプトの選択] ダイアログボックスを表示します。

- 2 [ロケール] ドロップダウンリストから言語を選択します。メッセージは、指定したロケールでのみデバイス上に表示されます。独自のロケール設定を持つ異なるメッセージを作成できます。
- 3 デバイスに表示するテキストを指定します。  
 テキストに {0} を含めると、0 までの秒数をカウントダウンする動作カウンタを提供できます。カウンタが 0 になると、プロンプトは自動的に受け入れられます。たとえば、次のテキストを指定できます。  
 アプリケーションは {0} 秒で終了します。作業を保存してください。  
 このメッセージは、[表示する秒数] フィールドで指定した秒数表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。

プロンプトを削除するには、チェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。

## E.30 アクション - アプリケーションプロンプトの終了

[アクション - アプリケーションプロンプトの終了] ダイアログボックスでは、ユーザに通知する秒数、プロンプトの再試行回数、および異なるロケールを持つ異なるメッセージなど、アプリケーション終了前にユーザに通知するプロンプトを設定できます。

図 E-35 [アクション - アプリケーションプロンプトの終了] ダイアログボックス

アクション編集 - アプリケーションプロンプトの終了
?
X

アクション名

表示する秒数:  ▲ ▼

実行できる再試行の回数:  ▲ ▼

保存されていないデータを保存するようユーザにプロンプトを表示

追加	編集	削除
<input type="checkbox"/>	ロケール	プロンプト

使用できる項目がありません。

(プロンプトの例を示します: マシンは {0} 秒後に再起動されます。作業を保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じてください)。

*注意:* アクションを実行する前に、ログインしているユーザに対して上のメッセージがデバイス上に表示されま  
 ず。特定のロケール用のメッセージが入力されていない場合は、デフォルトの英語メッセージが使用されます。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

**表示する秒数:** アクションの実行前にプロンプトを表示する秒数を指定します。たとえば、アプリケーションが終了プロセス中であることをユーザーに通知するプロンプトを設定するとします。このプロンプトが 10 秒間表示されるように設定した場合、プロンプトが 10 秒表示されてから、アプリケーションが終了します。

**実行できる再試行の回数:** 次のアクションが実行される前に、プロンプトを表示する回数を指定します。

**保存していないデータを保存するようユーザーにプロンプトを表示:** デバイス上に表示するプロンプトを定義します。さらに、異なるメッセージで別のロケールを指定できます。

メッセージを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [追加] をクリックして、[ロケールとプロンプトの選択] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [ロケール] ドロップダウンリストから言語を選択します。メッセージは、指定したロケールでのみデバイス上に表示されます。独自のロケール設定を持つ異なるメッセージを作成できます。
- 3 デバイス上に表示するテキストを入力します。  
テキストに {0} を含めると、0 までの秒数をカウントダウンする動作カウンタを提供できます。カウンタが 0 になると、プロンプトは自動的に受け入れられます。たとえば、次のテキストを指定できます。  
アプリケーションは {0} 秒で終了します。作業を保存してください。  
このメッセージは、[表示する秒数] フィールドで指定した秒数表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。

## E.31 アクション - インストールアクションを元に戻す

[アクション - インストールアクションを元に戻す] ダイアログボックスでは、インストールアクションセットで実行されるすべての操作を元に戻すことができます。一覧には、元に戻される各操作の名前とタイプが表示されます。このアクションに実行する必要がある環境設定タスクはありません。

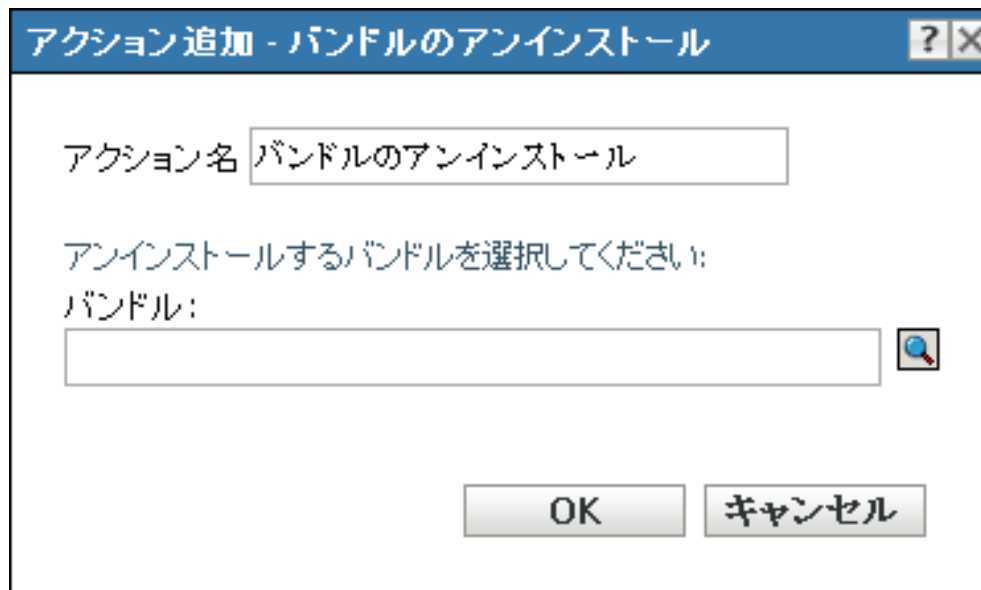
このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

## E.32 アクション - バンドルのアンインストール


[アクション - バンドルのアンインストール] ダイアログボックスでは、デバイスから削除するバンドルを選択できます。

図 E-36 [アクション - バンドルのアンインストール] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#)を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前]) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの 1 つを選択します。

 をクリックして、デバイスからアンインストールするバンドルを参照して選択します。

[検索対象] リストには、デフォルトで /Bundles が表示されます。バンドルを格納するサブフォルダを作成している場合は、下矢印を使用して適切なフォルダを選択します。[項目タイプ] リストのデフォルトは [すべてのタイプ] であり、すべてのタイプのバンドル (ディレクティブ、ファイル、イメージング、および Windows バンドル) が表示されます。探しているバンドルの名前がわかる場合は、[項目名] ボックスを使用してバンドルを検索できます。

ディレクティブバンドルのアンインストールに、[バンドルのアンインストール] アクションは使用できません。

このアクションを作成すると、バンドル従属が作成されます。詳細については、[13 ページのセクション 1.4 「従属バンドル」](#) を参照してください。

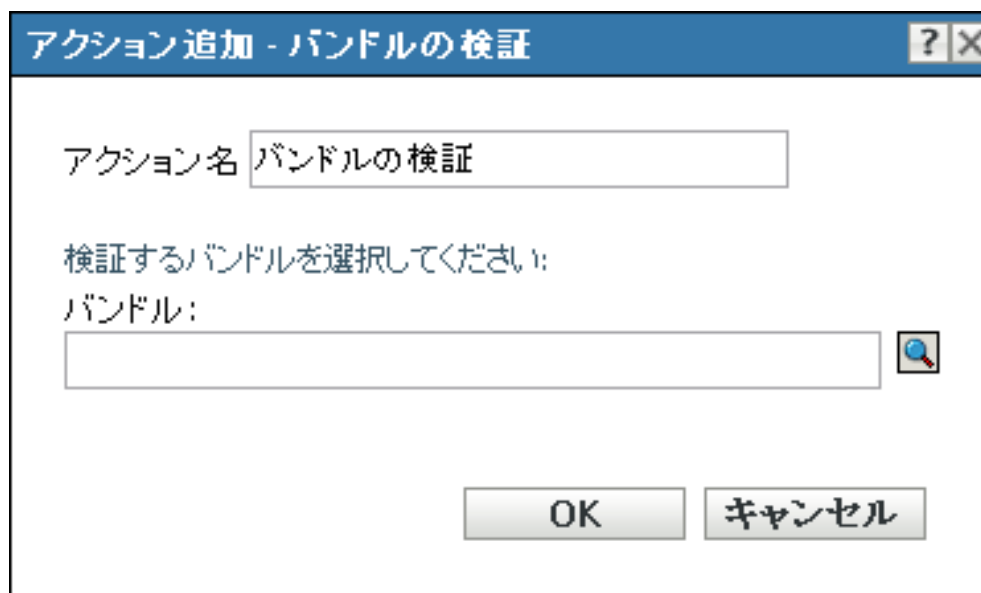
## E.33 アクション - バンドルの検証

[アクション - バンドルの検証] ダイアログボックスでは、デバイスのバンドルを検証できます。

バンドルを検証することで、指定したバンドルまたはバンドルグループがデバイスに正しくインストールされていることを確認できます。

たとえば、MSI バンドルの場合、バンドルを検証すると、タスクがバンドルに対して MSI/ 修復処理を実行することになります。


図 E-37 [アクション - バンドルの検証] ダイアログボックス



このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- ◆ アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#) を参照してください。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、

[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前] ) をクリックし、  
[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの1つを選択します。

 をクリックして、デバイス上の検証するバンドルを参照して選択します。

[検索対象] リストには、デフォルトで /Bundles が表示されます。バンドルを格納するサブフォルダを作成している場合は、下矢印を使用して適切なフォルダを選択します。[項目タイプ] リストのデフォルトは [すべてのタイプ] で、すべてのタイプのバンドル (ディレクティブ、ファイル、イメージング、および Windows\* バンドル) が表示されるようになっています。探しているバンドルの名前がわかる場合は、[項目名] ボックスを使用してバンドルを検索できます。

このアクションを作成すると、バンドル従属が作成されます。詳細については、[13 ページのセクション 1.4 「従属バンドル」](#) を参照してください。

## E.34 アクション - インストールアクションの検証

[インストールアクションの検証] アクションは、インストールアクションセットで実行されるすべての操作を検証します。このアクションには、環境設定の必要はありません。

このダイアログボックスには、次の方法でアクセスします。

- アクションバンドルカテゴリを使用してディレクティブバンドルを作成するプロセスの一部。詳細については、[19 ページのセクション 2.1 「ディレクティブバンドルの作成」](#) を参照してください。
- ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックし、[バンドル] リストの [名前] カラムにあるバンドルの下線付きリンクをクリックします。[アクション] タブをクリックし、いずれかのアクションセットタブ ([インストール]、[起動]、[検証]、[アンインストール]、[停止]、または [起動前] ) をクリックし、[追加] ドロップダウンリストをクリックして使用可能なアクションの1つを選択します。



# トラブルシューティング

# F

次の各セクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management のバンドルコンポーネントの使用中に発生する可能性のある状況について説明します。

- ◆ 209 ページの「ZENWorks コントロールセンターのユーザインタフェースで有効なテキストボックスが見つからない」
- ◆ 210 ページの「コンテンツをテキストファイルからディレクティブバンドルにアップロードすると、コンテンツが壊れる」
- ◆ 210 ページの「アプリケーションの起動時、ユーザの入力を求めるプロンプトが表示されない」
- ◆ 210 ページの「Firefox ブラウザで [インストールディレクトリ] または [ファイルのインストール] アクションを実行中は、コンテンツサーバに多数のファイルを選択してアップロードすることはできない」
- ◆ 210 ページの「Windows 2000 デバイスで [MSI のインストール] アクションを実行できない」
- ◆ 211 ページの「Linux デバイスにバンドルを割り当てることができないのに、ディレクティブバンドルが有効と表示される場合がある」
- ◆ 211 ページの「Windows Vista デバイスで単一のレジストリアクションを使用して、レジストリのバックアップと、HKEY\_CURRENT\_USER の編集を行うことができない」
- ◆ 211 ページの「インストールアクションを元に戻すで、ディレクトリをアンインストールできない」
- ◆ 212 ページの「64 ビットデバイスから RDP セッションを起動できない」
- ◆ 212 ページの「64 ビット版 Internet Explorer でアイコンを選択できない」
- ◆ 212 ページの「管理対象デバイスの Wake-on-LAN スケジュールがサーバのタイムゾーンより遅い場合、デバイスが起動しない」
- ◆ 212 ページの「バンドルのショートカットアイコンは、Windows 7 デバイスタスクバーのクイック起動エリアには表示されません」
- ◆ 213 ページの「デバイスにインストールされている MSI を修復すると、norestart パラメータが指定されていても、デバイスが再起動する場合がある」

## ZENWorks コントロールセンターのユーザインタフェースで有効なテキストボックスが見つからない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：Firefox 2.0 を使用して ZENworks コントロールセンターを開くと、カーソルは有効なテキストボックスで表示されない可能性があります。

アクション：Internet Explorer を使用してください。

## コンテンツをテキストファイルからディレクティブバンドルにアップロードすると、コンテンツが壊れる

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明： テキストファイルの編集アクションを使用して拡張文字を含むテキストファイルをアップロードすると、コンテンツが壊れます。

アクション： テキストファイルを開き、UTF-8 として保存してからファイルをアップロードしてください。

### アプリケーションの起動時、ユーザの入力を求めるプロンプトが表示されない

ソース： ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明： バンドルを使用してユーザの入力を必要とするアプリケーションを起動した場合、入力を求めるウィンドウはアプリケーションの後ろに隠れてしまう場合があります。この問題は各ユーザがログイン時に最初にアプリケーションを起動したときに発生する可能性があります。

アクション： すぐにウィンドウを表示させたい場合は、アプリケーションを最小化してください。問題を修正するため、システムを再起動してください。

### Firefox ブラウザで [インストールディレクトリ] または [ファイルのインストール] アクションを実行中は、コンテンツサーバに多数のファイルを選択してアップロードすることはできない

ソース： ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明： Firefox ブラウザで [インストールディレクトリ] または [ファイルのインストール] アクションを実行中は、コンテンツサーバに多数のファイルを選択してアップロードすることはできません

アクション： Firefox ブラウザで少数のファイルをアップロードするか、または Internet Explorer ブラウザを使用してアクションを実行します。

### Windows 2000 デバイスで [MSI のインストール] アクションを実行できない

ソース： ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明： 管理者権限をログインユーザに与えるために [インストール中に管理者特権をユーザに許可] が [MSI のインストール] ダイアログボックスで選択されている場合は、デバイスで [MSI のインストール] アクションが実行されたときにユーザはログイン資格情報を提供するよう求められます。アクションはユーザが正しいパスワードを提供した場合でも実行に失敗します。

アクション： 次の手順に従い、ユーザをオペレーティングシステムの一部として追加します。

- 1 MMC を実行します。
- 2 [ファイル] > [Add/Remove Snap-in(スナップインの追加と削除)] の順にクリックし、[追加] をクリックします。
- 3 [Add Standalone Snap-in(スタンドアロンスナップインの追加)] ダイアログボックスで、[Group Policy Object Editor(グループポリシーオブジェクトエディタ)] を選択し、[追加] > [完了] の順にクリックします。
- 4 [閉じる] をクリックして [Add Standalone Snap-in(スタンドアロンスナップインの追加)] ダイアログボックスを閉じます。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [Console Root( コンソールルート )] ウィンドウで [コンピュータの環境設定] > [Windows の設定] > [セキュリティの設定] > [Local Policies( ローカルポリシー )] > [User Rights Assignment ( ユーザー権利の割り当て )] > [OS の一部として動作します] の順にダブルクリックします。
- 7 [ユーザまたはグループの追加] をクリックします。
- 8 [Enter the object names to select( 選択するオブジェクト名を入力してください )] でユーザ名を指定します。[OK] をクリックします。
- 9 [OK] をクリックします。

### Linux デバイスにバンドルを割り当てることができないのに、ディレクティブバンドルが有効と表示される場合がある

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：Linux デバイスでは ZENworks Adaptive Agent を使用できないので、Linux デバイスに送信するようバンドルを割り当てることができません。ただし、ZENworks コントロールセンターでは、Linux デバイスに割り当てたディレクティブバンドルが有効と表示される場合があります。これは間違いです。

アクション：無視。

### Windows Vista デバイスで単一のレジストリアクションを使用して、レジストリのバックアップと、HKEY\_CURRENT\_USER の編集を行うことができない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：Windows Vista\* において、レジストリのバックアップと HKEY\_CURRENT\_USER レジストリエントリの編集を両方実行するようにアクションを設定した場合、アクションが失敗します。これは、Vista ではユーザ開始プロセスはすべて最低特権ユーザとして実行されるためです。

アクション：異なるレジストリアクションを 2 つ使用します。1 つのアクションでシステムコンテキストでレジストリをバックアップし、もう 1 つのアクションでユーザコンテキストで HKEY\_CURRENT\_USER を編集します。

### インストールアクションを元に戻すで、ディレクトリをアンインストールできない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：ディレクトリファイルのインストールバンドルを作成すると、ディレクトリ名にスペースが含まれていてもディレクトリが作成されます。ただし現在のところ、インストールアクションを元に戻すアクションを使用してこのディレクトリをアンインストールすることはできません。

アクション：ディレクトリをアンインストールできるようにしたい場合は、ディレクトリ名にスペースを使用しないようにします。

## 64 ビットデバイスから RDP セッションを起動できない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：64 ビット管理対象デバイスで、RDP セッションで設定した Windows シンクライアントアプリケーションの起動アクションを起動すると、アクションが失敗する場合があります。

アクション：KB925876 パッチ (<http://support.microsoft.com/kb/925876>) を適用します。

## 64 ビット版 Internet Explorer でアイコンを選択できない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：64 ビット版 Internet Explorer\* を使用して ZENworks コントロールセンターを起動する場合は、ブラウザアイコンをクリックして、.exe、.dll、または .ico ファイルなどのアイコンリソースをブラウズしてアイコンを選択します。リソースファイルのアイコンの 1 つがデフォルトで選択されます。他のアイコンは選択できません。

アクション：32 ビット版 Internet Explorer を使用して ZENworks コントロールセンターを起動します。

## 管理対象デバイスの Wake-on-LAN スケジュールがサーバのタイムゾーンより遅い場合、デバイスが起動しない

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：Wake-on-LAN スケジュールがサーバのタイムゾーンより遅くなるように配布スケジュールが設定されているバンドルが管理対象デバイスに割り当てられている場合、デバイスは起動できません。

アクション：管理対象デバイスの Wake-on-LAN スケジュールがサーバのタイムゾーンより遅くならないようにします。

## バンドルのショートカットアイコンは、Windows 7 デバイスタスクバーのクイック起動エリアには表示されません

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：Windows 7 管理対象デバイスにバンドルを割り当て、デバイスのクイック起動エリアにバンドルショートカットアイコンを配置することにした場合、Windows 7 デバイスではデフォルトでクイック起動が無効になっているので、バンドルショートカットアイコンは表示されません。

アクション：Windows 7 デバイスタスクバーでクイック起動を有効にするには、次の手順に従います。

- 1 タスクバーを右クリックして、[Toolbars( ツールバー)] をクリックします。
- 2 [New Toolbar( 新規ツールバー)] をクリックして、New Toolbar ( 新規ツールバー) ウィンドウを開きます。

- 3 [フォルダ] オプションで、  
%UserProfile%\AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch と指定します。
- 4 [フォルダの選択] をクリックします。

Windows 7 デバイスタスクバーでクイック起動をカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 タスクバーを右クリックし、[Lock the Taskbar(タスクバーをロック)] を選択解除します。
- 2 (オプション) クイック起動をクリックして、タスクバーの目的の位置までドラッグします。
- 3 クイック起動を右クリックし、[Show Title(タイトルを表示)] と [Show Text(テキストを表示)] を選択解除して、タイトルまたはテキストの表示を無効にします。
- 4 クイック起動を右クリックします。[表示] > [小さいアイコン] の順にクリックして、小さいアイコンを有効にします。

### デバイスにインストールされている MSI を修復すると、norestart パラメータが指定されていても、デバイスが再起動する場合がある

ソース：ZENworks 10 Configuration Management、ソフトウェア配布。

説明：[MSI のインストール] アクションを実行して、デバイスにすでにインストールされている MSI を修復した場合は、デバイスが再起動することがあります。これは、製品を修復する if オプションがデバイスを再起動することがあるからです。詳細については、[Microsoft サポートサイト \(http://support.microsoft.com/kb/961883/EN-US\)](http://support.microsoft.com/kb/961883/EN-US) を参照してください。

アクション：次の手順の実行により、再起動なしでパッケージを修復します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、修復したい MSI アプリケーションバンドルをクリックします。
- 2 [アクション] > [インストール] の順にクリックします。
- 3 [MSI のインストール] アクションをクリックして、[編集アクション - MSI のインストール] ダイアログボックスを表示します。
- 4 [パラメータの修復] オプションで、 をクリックして、[パラメータの修復] ダイアログボックスを表示します。
- 5 [コマンドラインパラメータ] オプションで、if の代わりに、/i を指定して、次に、[OK] をクリックします。
- 6 [MSI プロパティ] パネルで、次のプロパティを追加します。
  - ◆ Name = REINSTALLMODE ; Value = omus
  - ◆ Name = REBOOT ; Value = ReallySupress
- 7 [OK] をクリックします。



# ベストプラクティス

# G

次の各セクションでは、Novell® ZENworks® 10 Configuration Management のバンドルコンポーネントの使用時に推奨されるベストプラクティスについて説明します。

- 215 ページのセクション G1 「Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューの外観を変更する」
- 215 ページのセクション G2 「アプリケーションを Windows Vista の [スタート] メニューに入れる」
- 215 ページのセクション G3 「バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てる」
- 216 ページのセクション G4 「ZENworks Explorer フォルダの命名規則」

## G.1 Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューの外観を変更する

Windows Vista デバイスでは、[スタート] メニューのフォルダは階層式のスタイルになっています。Windows XP の [スタート] メニューと同じような外観にするには、次を実行します。

1. [スタート] を右クリックします。
2. [プロパティ] をクリックします。
3. [クラシック [スタート] メニュー] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

## G.2 アプリケーションを Windows Vista の [スタート] メニューに入れる

Windows Vista デバイスで、[スタート] メニューに入れたフォルダを、Windows XP の [スタート] メニューに入っているフォルダと同じように表示させることができます。

1. [スタート] を右クリックします。
2. [プロパティ] をクリックします。
3. [クラシック [スタート] メニュー] を選択します。
4. [OK] をクリックします。
5. システムを再起動します。

## G.3 バンドルをデバイスまたはユーザに割り当てる

デバイスに割り当てられた最初の 2 つのバンドルがデバイスに表示されるため、同じ名前を持つ 2 つ以上のバンドルを Windows 管理対象デバイスに割り当てないでください。

サンプルシナリオ：バンドル名 test、Test、TEST が Windows 管理対象デバイスに割り当てられているとします。デバイスに割り当てられた最初のバンドルには指定された名前があります。デバイスに割り当てられた 2 番目のバンドルは、管理ゾーン名が指定された名前に付加されます。ただし、3 番目のバンドルはデバイスに表示されません。

## G.4 ZENworks Explorer フォルダの命名規則

2 つ以上のバンドルの ZENworks Explorer フォルダ名が同一で大文字と小文字が区別されている場合、すべてのバンドルのショートカットを含むフォルダが 1 つだけスタートメニューと ZENworks Explorer ウィンドウに表示されます。



# マクロ

# H

以降の項には、Novell® ZENworks® Configuration Management でサポートされているマクロに関する情報が含まれています。

- 217 ページのセクション H.1 「Windows マクロ」
- 220 ページのセクション H.2 「ログインスクリプトマクロ」

## H.1 Windows マクロ

Windows マクロは、Windows ディレクトリを定義するマクロです。次に一覧表示されている一般的なパスは、デフォルトのインストールに基づいているため、セットアップ方法によっては多少異なる場合があります。

Windows をドライブ D:(たとえば D:\WINDOWS) にインストールしたとします。しかし、アプリケーションのインストール処理では、Windows のインストール先がドライブ C:(C:\WINDOWS など) であると想定されているとします。この場合、WinDisk マクロを使用すると、要求するファイルのマクロでドライブ D: を置き換えることができます。

表 H-1 Windows マクロ

マクロ	説明
\$(AdminTools)	特定のユーザが Windows 2000/XP にログインしたときに、[コントロールパネル] に表示される管理ツールが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Start Menu\Programs\Administrative Tools です。
\$(AppData)	アプリケーション固有のデータの共通リポジトリとして機能するファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Application Data です。
\$(CommonDesktop)	すべてのユーザのデスクトップに表示されるファイルとフォルダが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Desktop です。
\$(CommonPrograms)	すべてのユーザの [スタート] メニューに表示される共通プログラムグループのディレクトリが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs です。
\$(CommonStartMenu)	すべてのユーザのデスクトップに表示されるプログラムとフォルダが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu です。
\$(CommonStartup)	すべてのユーザの [スタートアップ] フォルダに表示されるプログラムが含まれているファイルシステムディレクトリ。ユーザがログインすると必ずこれらのプログラムが起動されます。通常は、このディレクトリは C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Startup です。

マクロ	説明
\$(CommonAdminTools)	Windows 2000/XP にログインするすべてのユーザの [コントロールパネル] に表示される管理ツールが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Administrative Tools です。
\$(CommonAppData)	Windows 2000/XP にログインするすべてのユーザのアプリケーション固有のデータが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Application Data です。
\$(CommonDocuments)	Windows 2000/XP にログインするすべてのユーザが共有するドキュメントが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Documents です。
\$(CommonTemplates)	Windows 2000/XP にログインするすべてのユーザが共有するドキュメントテンプレートが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\All Users\Templates です。
\$(Cookie)	ユーザのクッキーが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Cookies です。
\$( デスクトップ )	デスクトップにファイルオブジェクトを物理的に保存するために使用されるファイルシステムディレクトリ (デスクトップフォルダ自体ではありません)。通常このディレクトリは、C:\Documents and Settings\Username\Desktop です。
\$( お気に入り )	ユーザのお気に入り項目の共通リポジトリとして機能するファイルシステムディレクトリ。通常このディレクトリは、C:\Documents and Settings\Username\Favorites です。
\$( フォント )	フォントが含まれている仮想フォルダ。通常は、C:\Windows\Fonts です。
\$( 履歴 )	ユーザがアクセスしたインターネットアドレスの履歴が含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Local Settings\History. です。
\$(MyPictures)	特定のユーザのグラフィックファイルが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、c:\Documents and Settings\Username\My Documents\My Pictures です。
\$(NetHood)	[ネットワークコンピュータ] に表示されるオブジェクトが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\username\NetHood です。
\$( 個人用 )	ドキュメントの共通リポジトリとして機能するファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\My Documents です。
\$(PrintHood)	プリンタリンクの共通リポジトリとして機能するファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\PrintHood です。
\$(Programs)	ユーザのプログラムグループ (ファイルシステムディレクトリ) が含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Start Menu\Programs です。
\$(ProgramFiles)	32 ビットデバイスでユーザのプログラムファイルまたは 64 ビットデバイスでユーザの 64 ビットプログラムファイルが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Program Files です。

マクロ	説明
\$(ProgramFiles32}	64 ビットデバイスでユーザの 32 ビットプログラムファイルが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Program Files(x86) です。
\$(ProgramFilesCommon}	複数のアプリケーションが共有するプログラムファイルが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Program Files\Common Files です。
\$(Recent}	ユーザが最近使用したドキュメントが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Recent です。
\$(SendTo}	[送る] メニューの項目が含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\username\SendTo です。
\$(StartMenu}	[スタート] メニュー項目を含むファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Start Menu です。
\$(GroupWise 起動 }	ユーザの [スタートアップ] プログラムグループに対応するファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Start Menu\Programs\Startup です。
\$(TempDir}	Windows 一時ディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Local Settings\Temp です。
\$( テンプレート }	ドキュメントテンプレートの共通リポジトリとして機能するファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username\Templates です。
\$(UserProfile}	ログインしたユーザのプロファイルが含まれているファイルシステムディレクトリ。通常は、C:\Documents and Settings\Username です。
\$(WinDesktop}	Windows デスクトップディレクトリ (C:\Documents and Settings\Username\Desktop)。
\$(WinDir}	Windows ディレクトリ。通常は、C:\WINDOWS です。
\$(WinDisk}	Windows ディレクトリのドライブ文字 (コロン付き)。通常は、C: です。
\$(WinSysDir}	Windows のシステムディレクトリ。通常は、C:\WINDOWS\system32 です。
\$(WinSysDisk}	Windows のシステムディレクトリのドライブ文字 (コロン付き)。通常は、C: です。

注：従来の ZENworks と互換性を保つために、次のいずれかの形式でマクロを指定することもできます。

- ◆ % マクロ %

例 :%ProgramFiles%

- ◆ %\* マクロ %

例 :%\*ProgramFiles%

## H.2 ログインスクリプトマクロ

次の表にはサポートされているログインスクリプトマクロが一覧表示されています。

表 H-2 サポートされているログインスクリプトマクロ

マクロ	説明
\${COMPUTER_NAME}	コンピュータの名前。例 :work_pc
\${DAY}	日付。例 :01、10、15。
\${HOUR24}	24 時間表記の時刻。例 :02、05、14、22。
\${HOUR}	時刻。例 :0 = 12、13 = 1。
\${LAST_NAME}	現在のユーザの姓 (ユーザの eDirectory™ Surname 属性)。例 :Jones
\${MINUTE}	現在の分。例 :02、59。
\${MONTH}	現在の月。例 :1 月の場合、01。
\${NDAY_OF_WEEK}	数値で表した曜日。例 : 日曜日は 1、月曜日は 2。
\${NETWORK}	ワークステーションのネットワークアドレス。たとえば、「01010120」のように指定してください。
\${OS_VERSION}	OS のバージョン。例 :v5.00
\${OS}	OS の種類。例 :MSDOS、WIN98、WINNT、WIN2000、WINXP。
\${PLATFORM}	実行中のプラットフォーム。例 :WIN32NT。
\${PHYSICAL_STATION}	MAC アドレス。例 :0000C04FD92ECA
\${SECOND}	秒数。例 :03、54
\${SHORT_YEAR}	短縮表記の年号。例 :97、00
\${WINVER}	Windows のバージョン。例 :v3.11, v4.00
\${YEAR}	完全表記の年号。例 :2008

注 : 従来の ZENworks と互換性を保つために、次のいずれかの形式でマクロを指定することもできます。

- ◆ % マクロ %

例 :%MONTH%

- ◆ %\* マクロ %

例 :%\*MONTH%

# マニュアルの更新

このセクションでは、この『ZENworks ソフトウェア配布リファレンス』(Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 向け)で行われた文書内容の変更に関する情報を提供します。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

本書では、次の更新が行われました。

- ◆ [221 ページのセクション I.1 「2010 年 3 月 30 日 : SP3 \(10.3\)」](#)

## I.1 2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)

次のセクションが更新されました。変更内容は次のとおりです。

場所	変更
<a href="#">59 ページのセクション 3.6.1 「フィルタ条件」</a>	<a href="#">60 ページの「バンドルインストール済み :」</a> の情報を更新しました。
<a href="#">143 ページのセクション E.7 「アクション - ファイルの配布」</a>	セクションが追加されました。
<a href="#">143 ページのセクション E.8 「アクション - INI ファイルの編集」</a>	更新 <a href="#">144 ページのセクション E.8.3 「ファイルが存在しない場合は、作成」</a>
<a href="#">147 ページのセクション E.9 「アクション - テキストファイルの編集」</a>	更新 <a href="#">149 ページの「ファイルが存在しない場合は、作成 :」</a>
<a href="#">129 ページの付録 E 「アクション」</a>	新しいアクションセット「配布」を追加しました。
<a href="#">173 ページのセクション E.21 「アクション - 実行可能ファイルの起動」</a>	「Windows 実行可能ファイルの起動」を「実行可能ファイルの起動」に名前変更し、セクションを更新しました。
<a href="#">186 ページのセクション E.25 「アクション - レジストリの編集」</a>	次の情報を <a href="#">188 ページの「レジストリキーを追加する」</a> のセクションに追加しました。  また、複数レベルのキーも指定できます。たとえば、Novell\ZENworks\Zfd
<a href="#">209 ページの付録 F 「トラブルシューティング」</a>	次のシナリオを追加しました。  バンドルのショートカットアイコンは、Windows 7 デバイスタスクバーのクイック起動エリアには表示されません。

場所	変更
209 ページの付録 F「トラブルシューティング」	<p>次のシナリオを追加しました。</p> <p>213 ページの「デバイスにインストールされている MSI を修復すると、norestart パラメータが指定されていても、デバイスが再起動する可能性がある」</p>
ガイド全体	<p>ZENworks 10 Configuration Management SP3 では、現在、AdminStudio 9.5 をサポートするので、『AdminStudio 9.0 ZENworks Edition インストールガイド』のすべてのインスタンスを『AdminStudio 9.5 ZENworks Edition インストールガイド』で置き換え、『AdminStudio 9.0 ZENworks Edition ユーザガイド』を『AdminStudio 9.5 ZENworks Edition ユーザガイド』に置き換えました。</p>